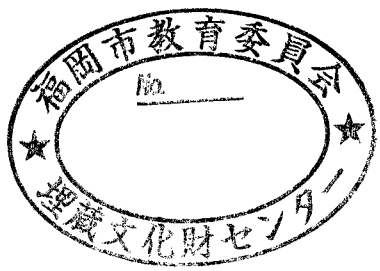
板付周辺遺跡調査報告書

(6)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第57集



1980

福岡市教育委員会

（板付周辺）報告書（6）正誤表

頁	行	誤	正
れいげん	4	標示	表示
4	30	土　器	土師器
4	図目次27	表面採集遺物実測図（1/3，1/2）	表面採集遺物実測図（1/3，1/4）
5	2	……別添	……折込み
7	27	大　充	大　先
7	24	浦川英雄	浦川義雄
28	19	5は	6は
	31	6は	5は
37	27	限定した年代限る	限定した年代に限る
	43	さほど規模	さほどの規模
44	20	部々的	部分的
17		7	37
38	1	D－10aの地点	D-10a地点
奥付		坂付周辺	板付周辺

板付周辺遺跡調査報告書

(6)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第57集

1980

福岡市教育委員会

序　　文

最近の福岡市域での住宅建築の波はとどまるところを知らず，埋もれた文化財が失なわれていく機会が大変多くなっています。

福岡市教育委員会ではこうしたもののうちやむなく破壊される場合については国庫の補助を受けて記録保存に努めております。今年も市民の方々の協力を得て多大な成果をあげることができました。付きましては本報告書が更なる文化財理解の歯車となることを願ってやみません。

昭和55年3月

福岡市教育委員会

教育長　西津茂美

―れいげん―

□ 本報告書は福岡市教育委員会が国庫補助を受けて1979年度に実施した福岡市博多区板付周辺地区の民間宅地造成，建築にともなう緊急調査報告である。

□ 遺構の呼称は全て記号化して番号を付した。溝→D，土坑→K，住居址→C，袋状竪穴→Pとし、例えばSD－01等と標示する。

□ 本書に掲載した写真は遺構を柳沢が，遺物を堀英夫氏が撮影した。

□ 註は各章末に付した。

□ 本書の執筆は，諸岡G区先土器時代遺物を二宮忠司氏(市文化課)，D～10a地点SK－01出土の瓦・塼を亀田修一氏(九州大学大学院)、同地点の弥生式土器を小林義彦氏，SD－01出土土師器観察表を吉原滝雄氏にお願いした。他は横山・柳沢が分担した。また編集は横山・柳沢が担当した。

本　文　目　次

頁

序　本年度調査地と調査経過 …… 7

第1章　E－5・6地点調査概要 …… 8

第2章　諸岡G区 …… 10

Ⅰ　調査概要 …… 10

Ⅱ　先土器時代 …… 12

Ⅲ　縄文時代の遺構と遺物 …… 13

Ⅳ　弥生時代の遺構と遺物 …… 19

Ⅴ　中世期の遺構と遺物 …… 23

Ⅵ　その他の遺構 …… 34

Ⅶ　表土層・表採の遺物 …… 35

Ⅷ　まとめ …… 37

第3章　D－10a地点 …… 38

Ⅰ　調査概要 …… 38

Ⅱ　弥生時代の遺物 …… 40

Ⅲ　古墳時代の遺構と遺物 …… 42

Ⅵ　奈良時代以降の遺構と遺物 …… 48

Ⅴ　まとめ …… 53

図　版　目　次

Pl. 1　1．E－5・6地点全景（調査前—東から）

2．E－5・6地点全景（調査中—西から）

Pl. 2　1．諸岡G区遠景（東から）

2．諸岡G区全景（調査前）

Pl. 3　1．諸岡G区遺構全景（東から）

2．諸岡G区遺構全景（東南から）

Pl. 4　1．先土器時代調査区全景

2．諸岡G区出土細石核・剥片類

Pl. 5　1．SC—01（住居址）出土状況

2．遺物出土状況（西壁）

3．P—16出土状況

4．P－6出土状況

Pl. 6　1．SP—01（貯蔵穴）出土状況

2．SB—01・02（掘立柱建物）出土状況（南から）

Pl. 7　1．ＳＢ—01・02、ＳＫ—02・03出土状況（西から）
　　2．ＳＢ—01・02とＳＤ—01（溝）出土状況（南から）
Pl. 8　1．ＳＥ—01出土状況
　　2．ＳＥ—02出土状況
　　3．ＳＫ—05（土坑墓）出土状況（東から）
Pl. 9　1．ＳＤ—02（溝）出土状況（東から）
　　2．ＳＤ—02西壁土層断面
Pl. 10　1．ＳＣ—01（住居址）出土遺物
　　2．ＳＰ—01（貯蔵穴）出土甕類
Pl. 11　諸岡Ｇ区出土遺物
Pl. 12　1．Ｄ—10a 地点遠景（西から）
　　2．Ｄ—10a 地点全景（東南から）
Pl. 13　1．Ｄ—10a 地点遺構全景（東から）
　　2．Ｄ—10a 地点遺構全景（調査終了時）
Pl. 14　1．Ｄ—10a 地点遺構全景（調査終了時）
　　2．ＳＤ—01（溝）北隅出土状況（北から）
Pl. 15　1．ＳＤ—01南側遺物出土状況（南から）
　　2．ＳＤ—01南側遺物出土状況（竪杵など）
Pl. 16　1．二又鍬出土状況（ＳＤ—01北隅）
　　2．斎串状木製品出土状況（ＳＤ—01南側）
Pl. 17　ＳＤ—01出土土師器 ①
Pl. 18　ＳＤ—01出土土師器 ②
Pl. 19　ＳＤ—01出土土師器 ③
Pl. 20　ＳＤ—01出土土師器 ④
Pl. 21　ＳＤ—01出土土師器 ⑤
Pl. 22　ＳＤ—01出土土師器 ⑥
Pl. 23　ＳＤ—01出土土師器 ⑦
Pl. 24　ＳＤ—01出土土師器 ⑧
Pl. 25　ＳＤ—01出土土師器 ⑨
Pl. 26　ＳＤ—01出土土師器 ⑩
Pl. 27　ＳＤ—01出土土師器 ⑪
Pl. 28　ＳＤ—01出土土師器 ⑫
Pl. 29　ＳＤ—01出土土師器 ⑬
Pl. 30　ＳＤ—01出土土師器 ⑭
Pl. 31　ＳＤ—01出土土師器 ⑮
Pl. 32　ＳＤ—01出土土師器 ⑯

Pl. 33　ＳＤ—01出土土師器 ⑰
Pl. 34　ＳＤ—01出土土師器 ⑱
Pl. 35　ＳＤ—01出土土師器 ⑲
Pl. 36　ＳＤ—01出土土師器 ⑳
Pl. 37　ＳＤ—01出土土師器 ㉑
Pl. 38　ＳＤ—01出土土師器 ㉒，1—ＳＤ—01出土玉類，2・3・4—ＳＫ—01出土

挿　図　目　次

頁
Fig. 1　1979年度調査地点図（1/5000）……6
Fig. 2　Ｅ—5・6地点遺構全体図（1/200）……9
Fig. 3　諸岡Ｇ区東西土層断面図（1/100）……10
Fig. 4　諸岡遺跡調査遺構図（1972～79年，1/1000）……別添
Fgi. 5　諸岡Ｇ区地形図（1/400）……11
Fig. 6　諸岡Ｇ区遺構全体図（1/100）……別添
Fig. 7　先土器時代出土遺物実測図（1/1）……12
Fig. 8　ＳＣ—01と遺物出土状況（1/40，1/8）……14
Fig. 9　ＳＣ—01出土遺物実測図（1/3，1/2）……16
Fig. 10　ＳＫ—07と出土遺物実測図（1/40，1/4）……18
Fig. 11　ＳＰ—01と出土遺物実測図　①（1/30，1/3）……20
Fig. 12　ＳＰ—01出土遺物実測図　②（1/3）……21
Fig. 13　ＳＤ—07出土遺物実測図（1/3）……22
Fig. 14　ＳＢ—01・02・03出土状況図（1/100）……24
Fig. 15　ＳＥ—01・02と出土遺物実測図（1/60，1/3）……26
Fig. 16　ＳＤ—01遺物出土状況図（1/200）……27
Fig. 17　ＳＤ—01・03出土遺物実測図（1/3）……27
Fig. 18　ＳＤ—02西壁土層断面図（1/40）……28
Fig. 19　ＳＤ—02出土遺物実測図（1/3，1/4）……29
Fig. 20　ＳＤ—05出土遺物実測図（1/3）……30
Fig. 21　ＳＫ—02出土状況図（1/40）……31
Fig. 22　ＳＫ—02出土遺物実測図（1/3）……32
Fig. 23　ＳＫ—03出土状況図（1/40）……32
Fig. 24　ＳＫ—05と出土遺物実測図（1/30，1/3）……33
Fig. 25　ＳＫ—08出土遺物実測図（1/3）……34
Fig. 26　ピット群出土遺物実測図（1/3）……34
Fig. 27　表面採集遺物実測図（1/3，1/2）……35
Fig. 28　Ｄ—10a 地点南・北土層断面図……38

Fig. 29　D—10a 地点地形図（1/400）……39
Fig. 30　D—10a 地点遺構全体図（1/100）……別添
Fig. 31　D—10a 地点出土弥生式土器実測図（1/4）……41
Fig. 32　SD—01土師器出土状況図（1/80）……別添
Fig. 33　SD—01出土土師器総量図……42
Fig. 34　SD—01出土玉類実測図（1/1）……42
Fig. 35　SD—01土師器出土分布図……43
Fig. 36　SD—01出土土師器分類図（1/6）……折込み
Fig. 37　SD—01出土土師器拓影……44
Fig. 38　SD—04出土土器実測図（1/3）……49
Fig. 39　SK—01出土遺物実測図　①……51
Fig. 40　SK—01出土遺物実測図　②……52
Fig. 41　SD—01出土土師器実測図　①……83
Fig. 42　SD—01出土土師器実測図　②……84
Fig. 43　SD—01出土土師器実測図　③……85
Fig. 44　SD—01出土土師器実測図　④……86
Fig. 45　SD—01出土土師器実測図　⑤……87
Fig. 46　SD—01出土土師器実測図　⑥……88
Fig. 47　SD—01出土土師器実測図　⑦……89
Fig. 48　SD—01出土土師器実測図　⑧……90
Fig. 49　SD—01出土土師器実測図　⑨……91
Fig. 50　SD—01出土土師器実測図　⑩……92
Fig. 51　SD—01出土土師器実測図　⑪……93
Fig. 52　SD—01出土土師器実測図　⑫……94
Fig. 53　SD—01出土土師器実測図　⑬……95
Fig. 54　SD—01出土土師器実測図　⑭……96
Fig. 55　SD—01出土土師器実測図　⑮……97
Fig. 56　SD—01出土土師器実測図　⑯……98

表　目　次

頁
tab. 1　出土剝片長幅対比表……15
tab. 2　SC—01出土遺物表……17
tab. 3　出土剝片長幅対比表……19
tab. 4　掘立柱建物計測表……23
tab. 5　ピット群出土遺物表……36
tab. 6～31　SD—01出土土師器観察表　①～㉖……55～82

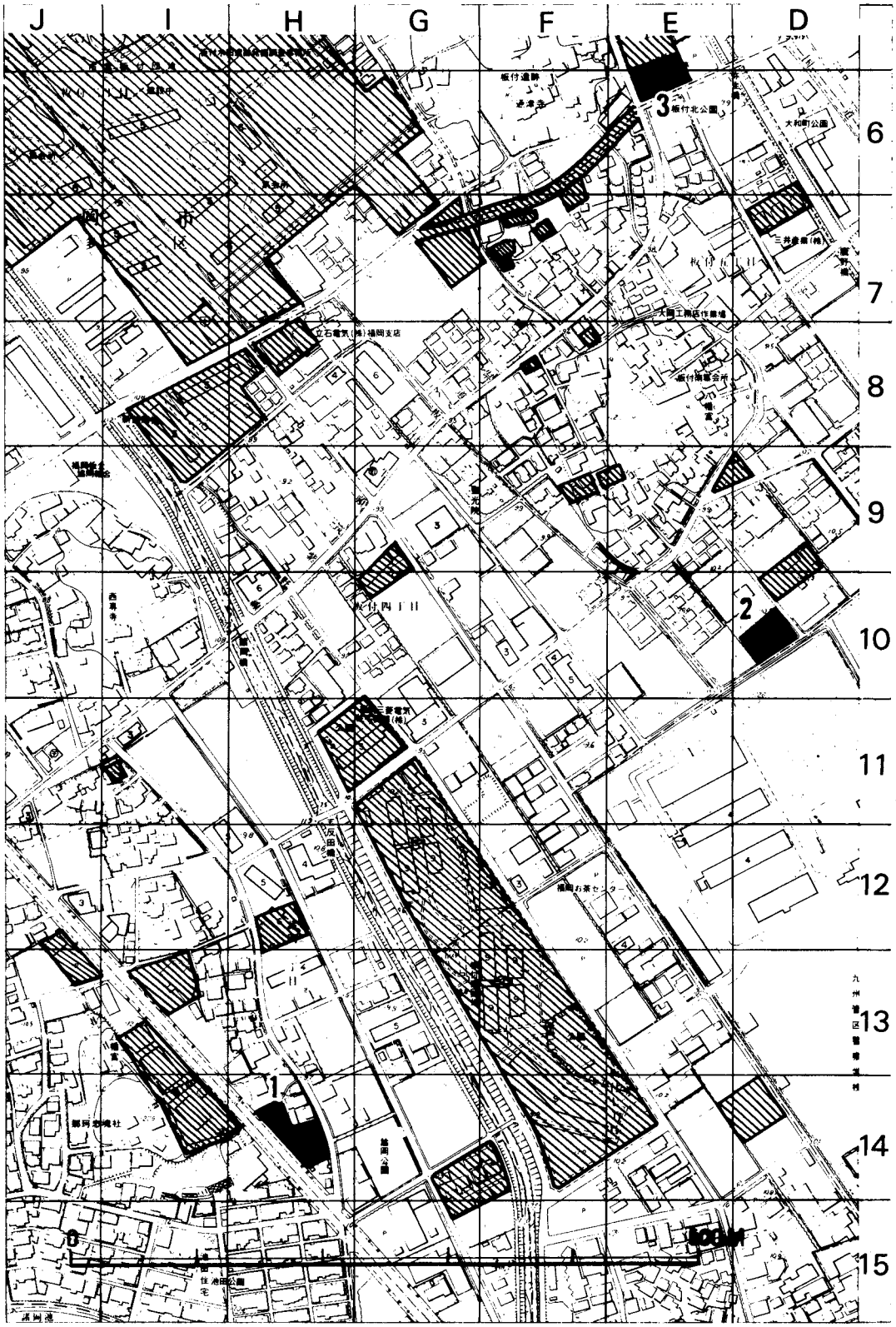


Fig. 1 1979年度調査地点図（1/5000） （1：諸岡G区，2：D－10a
3：E－5・6，他は既調査地点）

序　本年度調査と調査経過

昭和54年度は国庫補助事業として住宅建設・宅地造成に伴なう下記4地点について緊急発掘調査を実施した。（Fig. 1）

1H—14a地点　博多区諸岡2丁目9—19。KOデンタル所有地290㎡。ほぼ全掘。

2H—14b地点　博多区諸岡2丁目9—15。熊谷清六氏所有地895㎡。ほぼ全掘。

以上はあわせて「諸岡G区」と呼ぶこととする。

3D—10a地点　博多区板付5丁目8—3。浦川義雄氏所有地794㎡。発掘面積約370㎡。

4E—5・6地点　博多区板付2丁目13—13。荻林弘氏所有地800㎡。発掘面積約570㎡。

諸岡G区は昭和50年度調査地点につづく丘陵東裾部にあたる場所で，昭和51年に調査されて縄文時代晩期の夜臼式土器片を多量に出土したF区(註1)の西側であるため同時期の生活遺構の存在が想定されていた。同地点では縄文時代晩期竪穴住居址及び竪穴，弥生時代前期貯蔵穴及び溝、中世期掘立柱建物，土坑墓，溝などの遺構が検出された。また調査区最高部では先土器時代の包含層の調査も行った。

D—10a地点は古瓦，礎石などの出土が伝えられる警察学校(註2)遺跡を含む丘陵の北端裾部分にあたる。ここでは各種土師器・木製農耕具類を豊富に出土した古墳時代前期溝，奈良時代溝・瓦溜などの遺構が検出された。

E—5・6地点は板付環溝遺構の東側沖積地にあたり，過去の側溝工事の所見により弥生時代包含層があることが確認されていたが，今回調査の結果弥生時代竪穴，溝，掘立柱建物などの生活遺構が検出された。

発掘調査は教育委員会文化課柳沢一男と横山邦継が中心になって行ない，吉原滝雄に非常な補助を得た。調査全般にあたっては板付遺跡調査事務所に多大の協力を得た。またD—10a地点出土の建築材鑑定では九州大学工学部山本輝雄先生から現地で指導を受けた。次に発掘～整理作業では以下の人たちに協力をいただいた。（敬称略）

地主：荻林弘，浦川英雄，熊谷清六，KOデンタル。

参加協力者：吉原滝雄，堀英夫（九産大），小林義彦，舟山信一（大野城市），亀田修一福尾正彦（九大大学院），久保智康，田中秋郎（九大），木村良子。

調査作業員：大部茂久，大和充，徳永静雄，津村武光，須上伝三郎，白石敏雄，屋山利久岩隈由丸，関和子，山村スミ子，舎川キチエ，安高久子，永松伊都子，河鍋昭子，古賀博子山本ハツエ，須上キミエ，宿久光枝，勝野美智子，勝野孝子，菅谷初子，江嶋光子。

整理補助員：田中文子，中村ミサヲ，磯野妙子，松野静子，細川恵美子，河野千賀子，内山恵子，永松礼子。

（註1）　山口譲治編（1976）板付周辺遺跡調査報告書（3）福岡市埋蔵文化財調査報告書第36集　1976年

（註2）　福岡市埋蔵文化財地名表　総集編　福岡市埋蔵文化財調査報告書第12集　1971年

第1章　E—5・6地点調査概要

板付北台地の東側で，地籍は板付2丁目13—13である。今回荻林弘氏の宅地造成が行なわれることとなり，先だって発掘調査を実施した。調査区は約800㎡であるが東側には土盛りによる駐車場があり，南側・西側には水路があるために調査区は約500㎡である。北隣りには経済局の航空対策による板付北校区の集会所の建設が予定されており，荻林氏宅分をⅠ区とし，後者をⅡ区とした。

層位は，第1層現代水田耕土（標高8.90m），第2層床土，第3層褐色粘土～シルト層，第4層黒灰色細砂～シルト層，第5層褐色砂層，第6層黒灰色細砂～シルト層，第7層暗黄褐色粗砂～黒褐色粘土層，第8層黒色粘土～シルト層，黒灰色シルト～細砂の互層，第9層粗砂層，第10層青灰色シルト層，第11層黒灰色粘土層，第12層青灰色粘土層，第13層黒色粘土層，第14層八女粘土層となっている。第4層が中世の包含層で，第4，5層の間が古代の包含層で，第5層が弥生時代後期の包含層である。第7層は板付Ⅰ式土器期の包含層で，第8，9層は夜臼式土器の包含層である。

遺構（Fig. 2）としては，八女粘土層に掘り込まれており，1間×2間の建物1棟（SB—01），竪穴遺構4基（SK—01～04）と溝（SD—01自然流路？）1条が確認できた。1間×2間の建物は第4層下面から柱穴が掘り込まれており中世と考えられる。柱穴間は，南北が2.2mで東西が2.7mであり，4個の柱穴の底には礎板が残っていた。SK—01は弥生時代終末期のもので直径が0.7mの円形の祭祀竪穴で甕，壺，高坏，鉢，砥石が出土した。SK—02は1.7×3mの隅丸長方形に近い不整形竪穴で三叉鏃1点が出土している。SK—03は弥生時代後期のもので直径1.7mの不整円形の井戸状遺構でミニチュア土器2点等が出土している。SK—04は杭が巡っており，溝状遺構と一連のものとも考えられる。SD—01（自然流路？）は幅約3mで弥生時代中期前半期に成立し，同後期に埋まっている。両岸には護岸と考えられる杭があり，堰状の遺構もある。出土遺物としては，中期前半の土器と投弾，紡錘車等の土製品，石庖丁等の石器が出土している。

包含層の出土遺物としては，第4層で瓦器埦2点が出土している。第5層からは，弥生時代前期から後期までの甕，壺，鉢，高坏，器台等多量の土器と鋳型1点，銅鏃1点が出土している。石鏃，石戈，石剣，石庖丁，穿孔用石器，蛤刃石斧，抉入片刃石斧，扁平片刃石斧石ノミ等の石器，投弾，紡錘車等の土製品，ヒシャク，掘り棒，クサビ等の木製品が出土している。第7層からは，夜臼式土器の甕，ミニチュア土器等と板付Ⅰ式土器の甕，壺等の土器と石鏃等が出土している。

板付遺跡の調査は，北台地及び北台地の西側に集中しており，東側の低地の調査は今回が初めてであり，板付遺跡の東側の状態を知る上で重要であったといえる。今後Ⅱ区とともに整理を行なって，来年度調査報告書を発行する予定である。

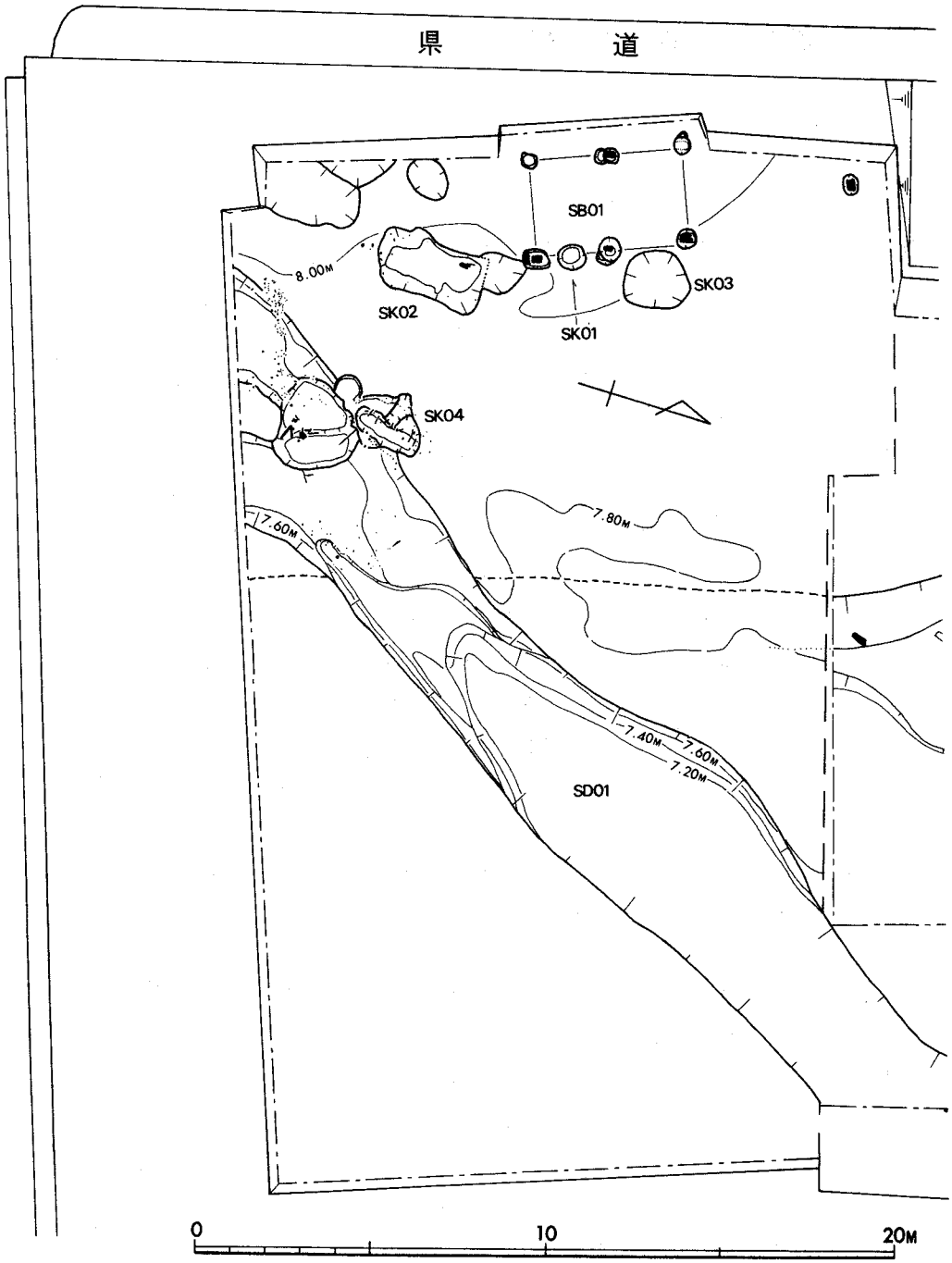


Fig. 2　E－5・6地点遺構全体図（1/200）

第2章　諸　岡　G　区

I　調査概要　諸岡遺跡は昭和47年以来5次に亘る調査（A～F，H区）によってほぼ東側斜面の遺構分布が先土器～中世に及ぶことが知られた（Fig. 4）。今回調査地点（G区）は丘陵の東南部分にあたり，東側に緩く傾斜する丘陵裾に立地する。調査区では東側半分がほぼ旧地形を残し，西半部はかなりの削平を受けたと思われ平坦なテラス状となる。このため西半部は遺構が全て浅いものとなっている。調査は機械力による表土剝ぎ後に北側から行なった。表土以下の土層には夜臼式土器片の出土が多いが単一時期の包含層となるものは確定できなかった（Fig. 3）。

検出した遺構は先土器時代包含層（細石器），縄文時代晩期の住居址1軒（SC－01）・竪穴1個（SK－07），弥生時代前期貯蔵穴1個（SP－01）・溝1条（SD－07），中世期掘立柱建物3棟（SB－01，02，03）・井戸2個（SE－01，02）・土坑墓1基（SK－05）・溝3条（SD－01～03，08），近世溝一条（SD－06）などである。

細石器は北西部の高まりに包含層をとらえ得た。これらは全て上部新期ロームに含まれるもので細石刃2点他が出土した。また他の遺構覆土より細石核3点もみとめられた。

住居址（SC－01）は方形或は長方形プランで東壁を中世溝に切られるが一辺がほぼ3m程度の規模となろう。亦SK－07はこれにともなうものかと考えられる。

弥生時代前期（板付Ⅱ式期）では袋状竪穴（SP－01）が知られ，SD－07を加え諸岡C・D区に魁ける時期の生活址の拡りが考えられた。

中世期は掘立柱建物・井戸とこれらを囲繞する様な溝遺構で構成され，中世集落の一端を物語るものとして興味深いものがある。

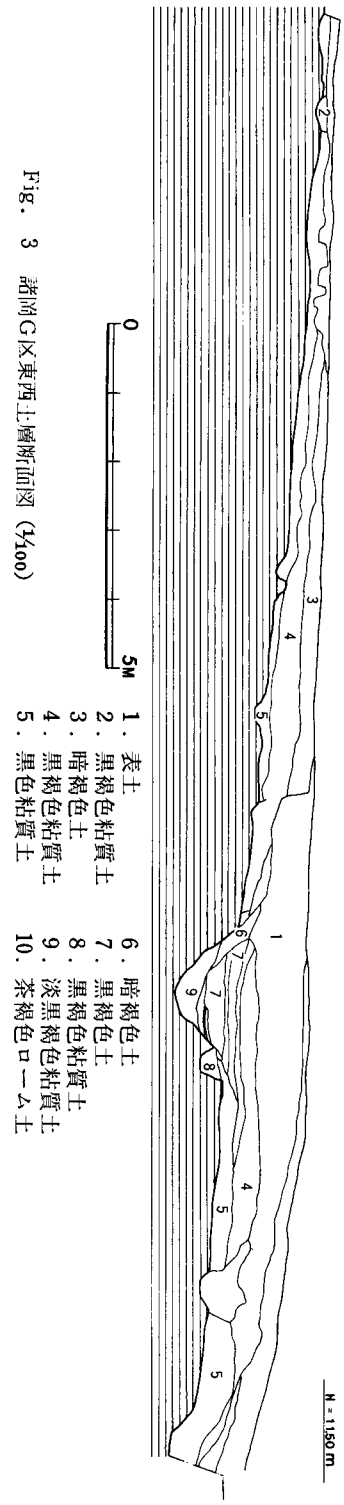
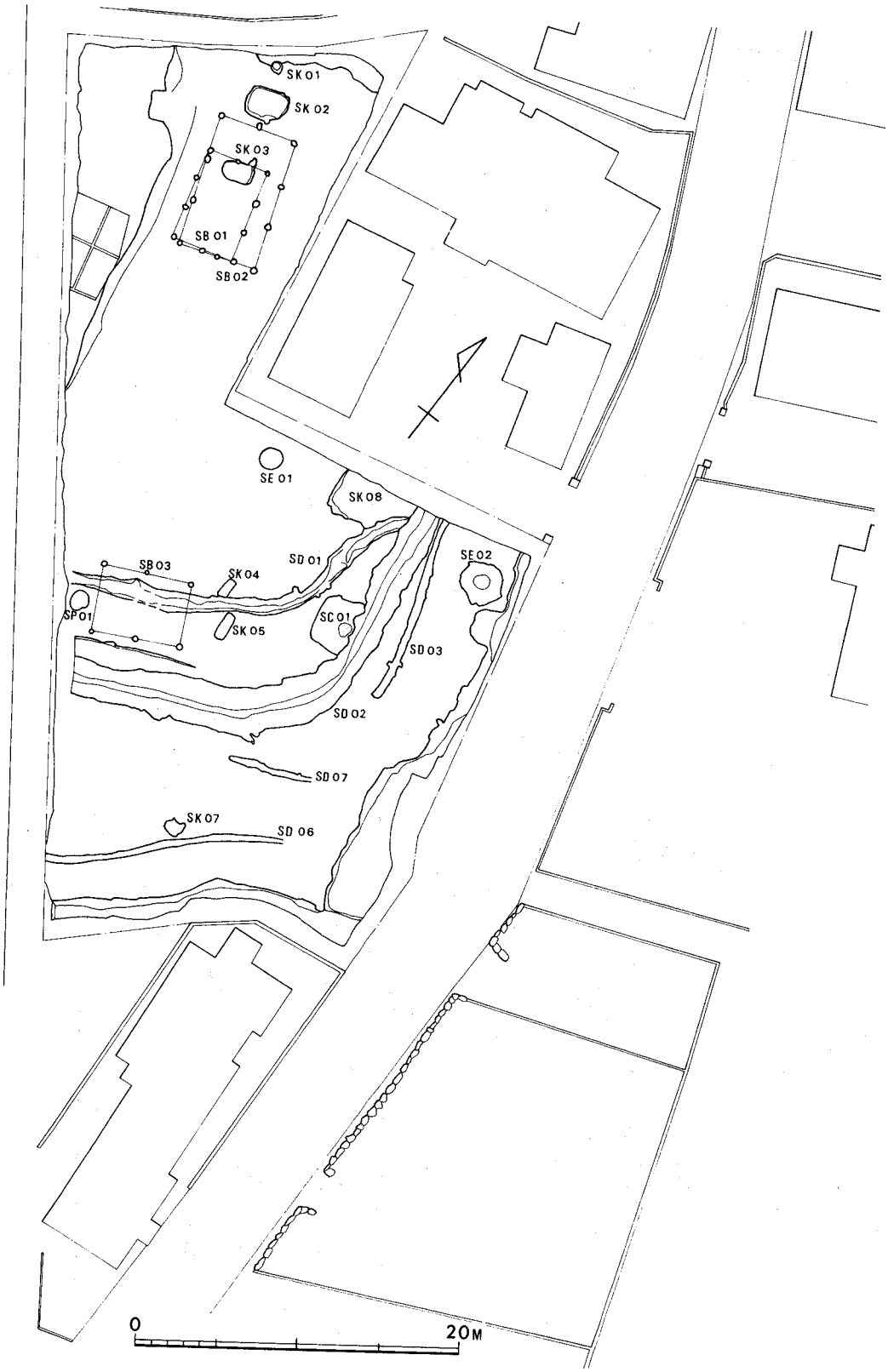


Fig. 3　諸岡G区東西土層断面図（1/100）



Fgi. 5 諸岡G区地形図 (1/400)

Ⅱ　先土器時代の遺物

諸国G区西側部分の高まり（Fig. 6）で先土器時代の包含層が確認された。調査結果は，細石刃2点，剝片2点，細片が4点のみで包含層自体薄かったこともあるが，大部分削平されていることが判明した。このほか中世の溝，弥生の貯蔵穴内覆土から，細石核2点，石核1点，石刃1点が出土。1・2は細石刃である。1は両端部が切断され，2は上端部が切断されている。3は切断された石刃である。表面における剝離方向は1方向で，断面三角形をなす形態である。切断面は裏面からの力が加わったことを示している。4は，不定形の剝片である。5は，舟底型細石核である。打面は上下二方向の剝離が認められる。打面調整面には，小さな調整剝離が認められる。細石刃離面を2面もつ。左側辺に認められる剝離面が，この部分にあたり，この面が終了した後，正面の剝離面に移行している。正面観の剝離は，左右の剝離後，中央部に移行する剝離工程を連続的に剝離する一つのパターンを示す。右側辺は，下位からの方向により剝離を行う。6の打面は，同一方向からの剝離によるが，細部の剝離は認められない。正面観における細石刃剝離工程は原則として3条の細石刃を連続的に剝離していく。5と同様に左右から中央部へ移行して剝離する。側辺部は，斜めからの大きな剝離によって形成されている。7は不定型の剝片を剝離した小石核である。打面は左右の二方向で，細部加工はない。裏面に自然面が残る。

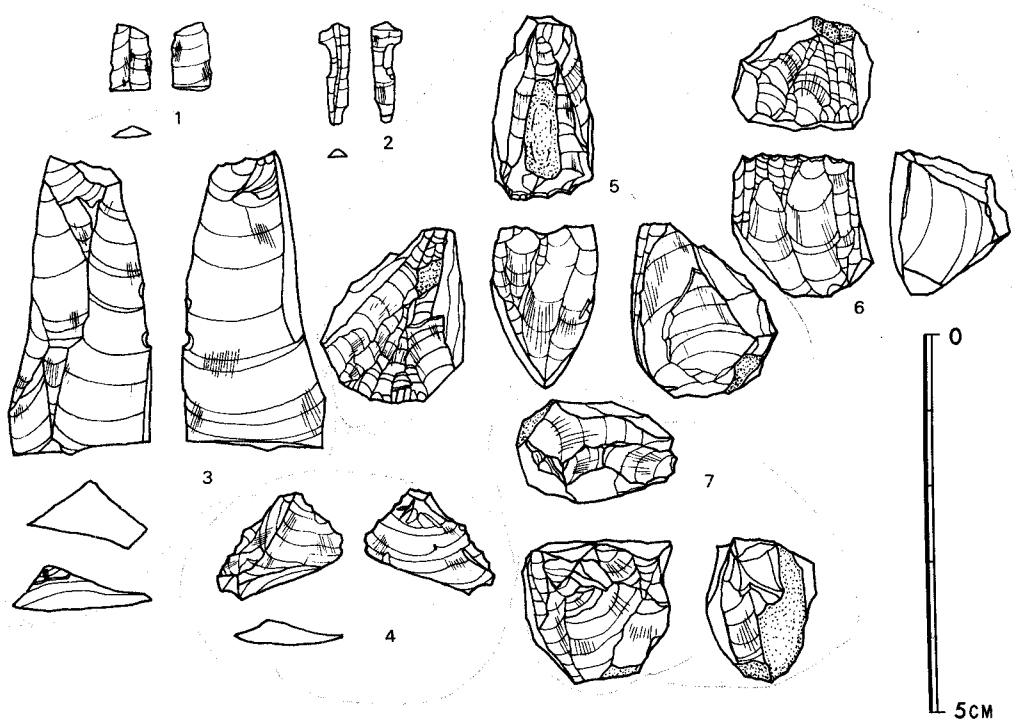


Fig. 7　先土器時代出土遺物実測図（1/1）

Ⅲ　縄文時代の遺構と遺物

諸岡F区調査の際多量の夜臼式土器とこれに伴う石器群の包含層が確認されたことから 西側台地にあたるG区に生活遺構の存在が考えられていた。

1. SC—01（Fig. 8．9）

東側に向って緩く傾斜する調査区の裾に近い部分で一軒の竪穴住居址を検出した。住居址の覆土は暗褐～漆黒色のよくしまった土で遺物以外では殆ど 異物を含まない単一な堆積をしている。

構造（Fig. 8）　住居址はローム土に掘込まれており，東壁にあたる部分は 中世期の溝（SD—02）によって切られ完全に失なわれている。平面形は方形あるいは 長方形と考えられ，各コーナーはカーブを描き不明瞭である。現存部分では南・西壁が比較的良好な 残りを示し，これらの壁面の立あがり断面は垂直より寧ろ弱い袋状となる傾向があって 全体に特徴的な点かと考えられる。また内部は ほぼ中央部に不整円形の炉址と壁面に沿って柱穴と考えられる小ピット（a～h）7個がみとめられる。　炉址は壁がかたく焼けしまり，焼土が充満しているが粗大な炭化物は含まない。柱穴のうち 壁隅部に位置するb，fが主柱穴で他のもの（a，c，d，e，g，h）がこれを補助するものであろう。次に床面はほぼ平坦であるが炉に向って周囲が緩く傾斜している。

規模（Fig. 8）　全体を窺い知ることのできるのは西壁，炉址，柱穴である。壁面の長さ×高さは西壁で3×0.34～0.39m，南壁で1.8+α×0.33～0.41m，北壁で2.1+α×0.32mとなるが東壁部分を切る溝（SD—02）の縁辺部，のり面に全く切りあいが みられない点でこれ以上は東西軸にあたる南，北壁は伸びないものと考えられる。また炉址が床面のどの場所に位置するのか不詳であるが 仮に中央部にあたるとすれば東西軸は3.6m程度となり差々東西軸の長い長方形（3.6×3m）となる 可能性もある。次に炉址は80×90cm，深さ10cmを測る不整円形なものである。柱穴は前述の様に2個の主柱穴（b，f）と 補助柱穴（a，c，d，e，g，h）である。柱穴の径，深さはa柱穴20×35cm，b柱穴30～40×20cm，c柱穴20×13cm，d柱穴18～30×10cm，e柱穴15～18×17cm，f柱穴30～40×23cm，g柱穴18×6cm，h柱穴18×28cmとなり，b，f柱穴が他に比して大型である。なおb，fの主柱穴間は2.5mの長さを測る。

出土遺物（Fig. 8，9）　遺物は一部のものを除き殆どが細片であるが 床面密着及び覆土中のものを加えると土器・石器とも取りまぜて総数117点が出土した。Fig 8に示した 遺物類の出土位置は床面に密着するものか或は床面より2～3cm程度浮きあがったものに 限定される。出土した土器類は全て夜臼式土器の特徴を備えたものであり，甕形土器口縁部5点，同体部5点，同底部3点，壺形土器体部5点，同底部2点である。次に石器類は南隅近くで磨製石器刃部破片1点の出土した以外は石屑類であり，剝片12点，石核2点，削片7点となる。これらの石材は各れも黒曜石である。また他に小型把手1点，礫類2点，扁平石材1点砥石（？）1点などである。遺物の分布は土器の場合1点1個体と限定できないが 全体的に

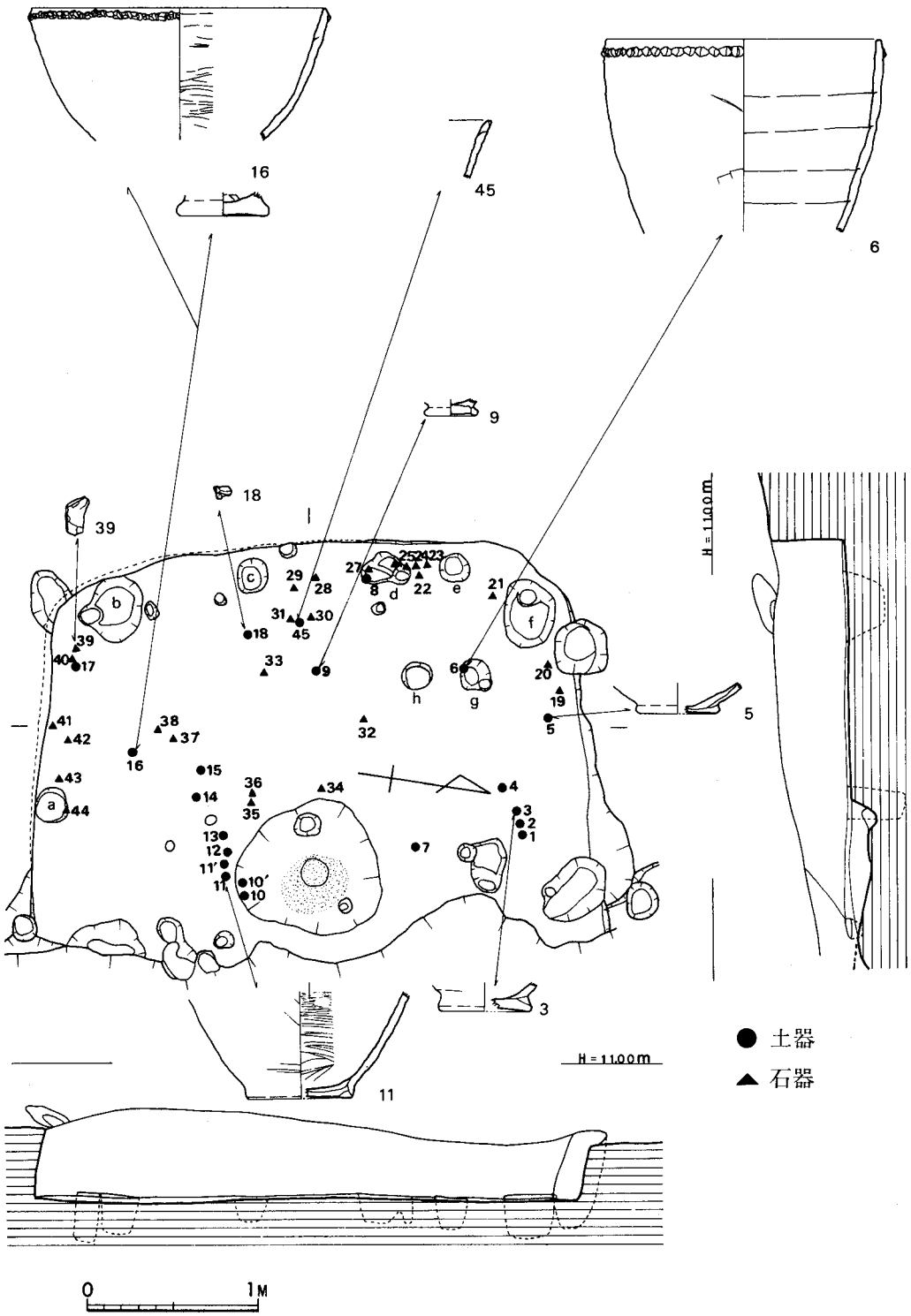
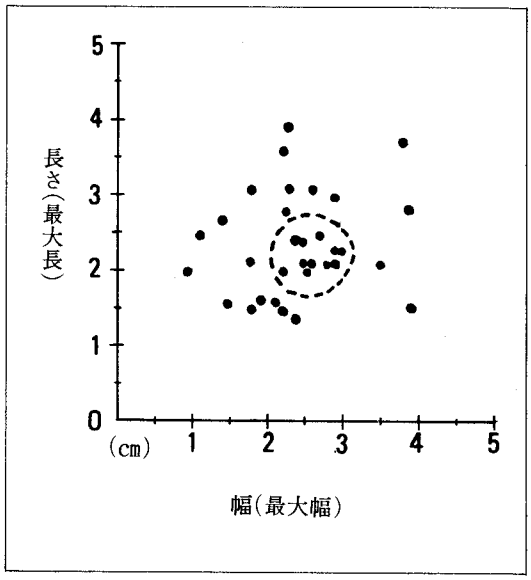


Fig. 8 SC−01と遺物出土状況 (1/40, 1/6)

炉辺に土器片が多く，壁面に沿って剝片類が多くあることが知られる。なお図中にはないが炉址中から火に遭って脆弱となった剝片4，削片6が出土している。

ＳＣ－01中出土の土器類は甕，壺ともに隣接する諸岡Ｆ区包含層(註1)（黒色粘質土層）出土のものと殆どの点で一致するものである。**甕形土器**は口縁部，底部を含めて6点が図示できる。3は端部が断面三角状にとび出し，ややあげ底気味の特徴をもつ。外面ヨコナデ調整，粗砂粒を混入。焼成軟弱。底径8.2㎝。6は口縁より7㎜程下った位置に一条の低く鋭い突帯を廻す甕。刻目は工具の角部を強く押つけ器表まで達している。口縁端～突帯下はヨコナデ。これ以下は幅2.3～2.5㎝程度の板状工具で斜めにナデおろす。内面は粘土接合部がよく観察され巾3～4㎝，幅0.8㎝程度の粘土紐を使用している。外面は暗褐色。胎土に粗砂を混入。焼成軟弱。口径24.6㎝。11は差々あげ底気味の大きく安定した底部。底部内外面及び端部はヨコナデで他は内外面ともに板状工具でナナメにナデ調整。内外面共に暗黄褐色。胎土に粗砂を混入。焼成堅緻。底径9㎝。16は甕口縁と底部である。口縁部は鉢形に近く口縁端部に斜めに連続する低い不整な突帯をもつ。外面ヨコナデ，内面はヨコ条痕。内外面黒褐色。胎土に細砂混入。焼成堅緻。口径26㎝。底部は上げ底気味の分厚いもので外面ヨコナデ内面におさえがある。黒褐色。粗砂混入。焼成堅緻。底径8㎝。45は直口する口縁部に鋭い刻目を施す。外面はヨコナデ後に不規則な平行沈線文。内面はヨコ条痕。黒褐色。胎土密。焼成軟弱。次に壺では5が底部外面ケズリ。内面ヨコヘラミガキ。暗黄褐色。粗砂混入。焼成堅緻。底径7.6㎝。9は内外面ヘラミガキ暗赤褐色。粗砂混入。焼成堅緻。底径4.8㎝。

次に**石器**は39が覆土中出土の扁平片刃石斧（Fig. 9）とともに工具となろう。また剝片類は全体で32点が出土しこれらの最大長幅比を表にすると（tab. 1）全体にバラつきはあるものの長さ2～3㎝，幅2～3㎝程度のずんぐりしたものが多い。石核は2点の出土であるが各れも自然面を打面として使用した小形のものであり，剝離痕ともあわせ剝片と共通するものがある。



tab. 1　出土剝片長幅対比表

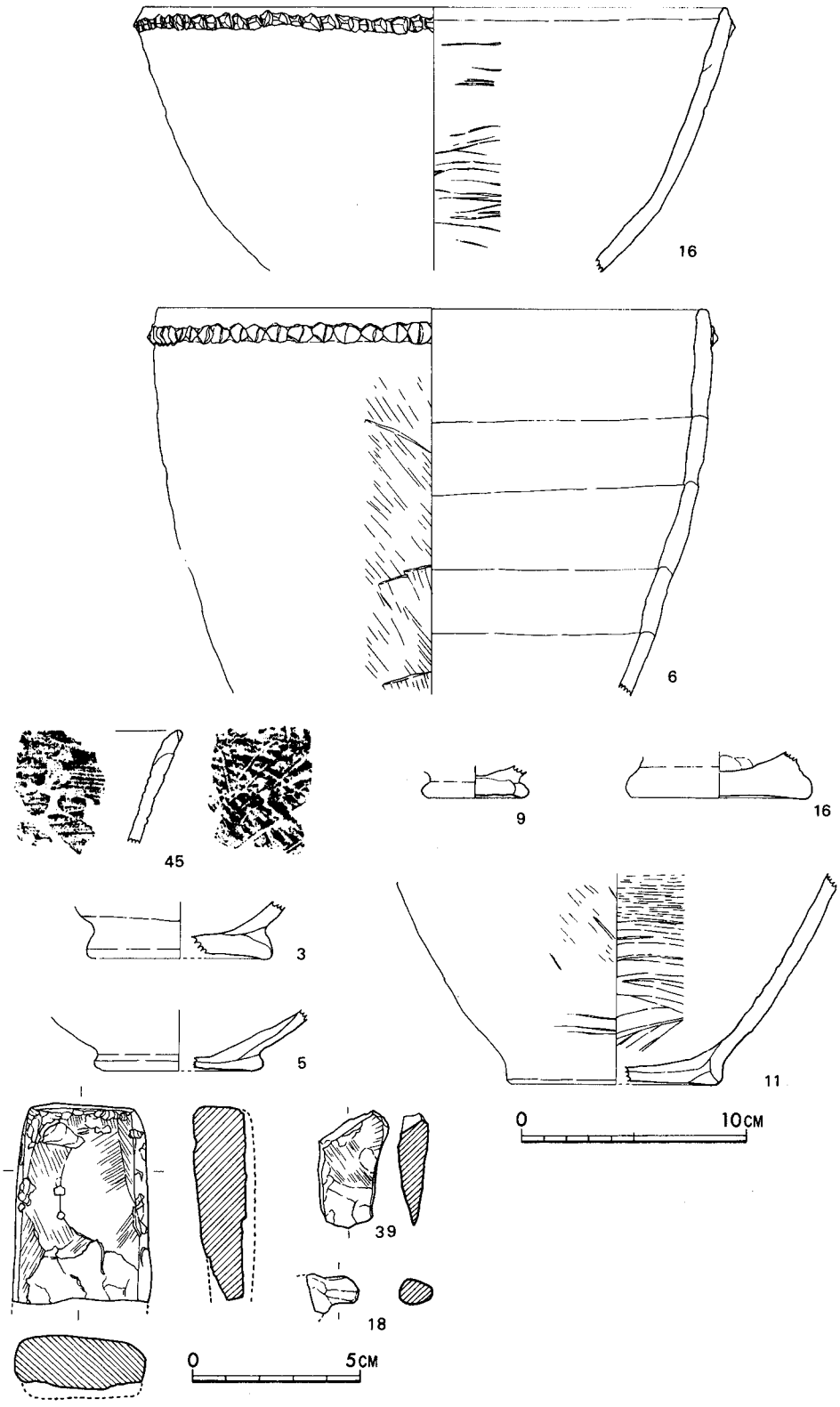


Fig. 9 SC−01出土遺物実測図 (⅓, ½)

番号	器種	数量	調整他
1	甕口縁部	1	内：条痕 外：ヨコナデ
2	壺胴部	1	内：ヘラナデ 外：？
3	甕底部	1	内：？ 外：ヨコナデ
4	扁平石材	1	
5	壺底部	1	内：ミガキ 外：ヨコナデ
6	甕口縁部	1	内：？ 外：ナデ
7	壺胴部	2	内：ナデ 外：？
8	壺胴部	1	内：ミガキ 外：ミガキ
9	壺底部	1	内：ミガキ 外：？
10	壺胴部	1	内：ヘラナデ 外：？
10′	甕胴部	1	内：条痕 外：ナデ
11	甕底部	1	内：ヨコナデ 外：ナデ
11′	壺胴部	1	内：ヨコナデ 外：？
12	甕胴部	1	内：ヘラナデ 外：ナデ
13	甕口縁部	1	内：条痕 外：ナデ
14	甕胴部	1	内：？ 外：？
15	甕胴部	1	内：？ 外：？
16	甕口縁・底部	2	内：条痕 外：ヨコナデ
17	甕胴部	1	内：？ 外：条痕
18	小型把手	1	
19	剥片	1	黒曜石
20	剥片	1	黒曜石
21	剥片	1	黒曜石
22	剥片	1	黒曜石
23	剥片	1	黒曜石
24	削片	1	黒曜石
25	削片	1	黒曜石
26	削片	1	黒曜石
27	剥片	1	黒曜石
28	円礫	1	磨石（？）
29	剥片	1	黒曜石
30	砥石（？）	1	砂岩
31	削片	4	黒曜石
32	石核	1	黒曜石
33	剥片	1	黒曜石
34	剥片	1	黒曜石
35	剥片	1	黒曜石
36	削片	1	黒曜石
87	削片	1	黒曜石
38	削片	1	黒曜石
39	磨製利器刃部	1	粘板岩
40	剥片	1	黒曜石
41	剥片	1	黒曜石
42	長円礫	1	
43	長円礫	1	砂岩
44	石核	1	黒曜石
45	甕口縁部	1	内：条痕 外：ナデ・沈線

Tab. 2　SC—01出土遺物表

2. SK—07 (Fig. 10)

竪穴住居址（ＳＣ—01）の南方約15mに位置する不整円形の小竪穴である。覆土はパサパサした漆黒色土の単一な堆積である。遺構上面はかなりの削平を受けているが長径100㎝強短径90㎝，深さ20㎝程度の規模をもっている。竪穴中央には大型壺が据えおかれた状態で底部を下にして出土した。他に覆土中より剥片（サヌカイト），チップ（黒曜石）が各一点出土した。出土した壺型土器は底部が差々あげ底気味で大きく安定している。内外面ともに磨滅が著しいが外面下部にヨコヘラミガキがのこる。底部に従って器壁が厚くなる。暗赤褐色。焼成軟弱。底径10.6㎝をはかる。現在のところこの竪穴の性格については不詳であるがＳＣ—01と何らかの関連をもつものと考えられる。

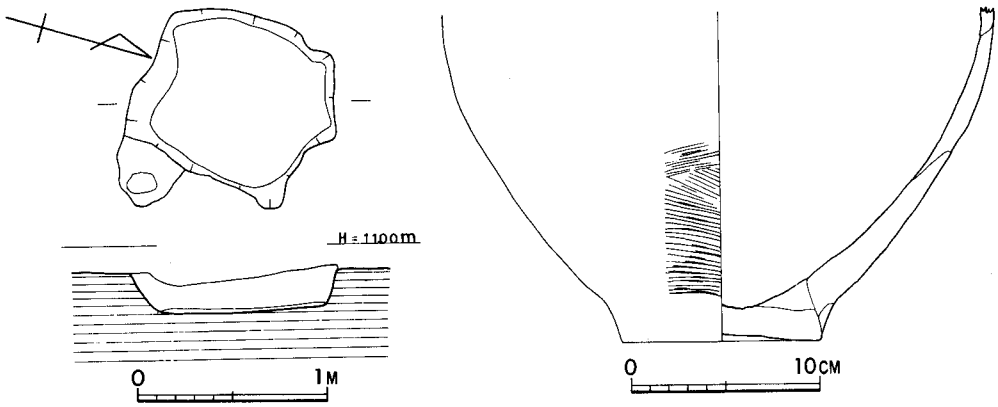


Fig. 10　ＳＫ—07と出土遺物実測図　①（1/40，1/4）

3. 小　　結

諸国遺跡Ｇ区での縄文時代晩期住居址の発見は北部九州において晩期から弥生時代前期にかけての住居形態変遷上の空白を埋めるものとなったとともに夜臼式土器とこれに伴う磨製工具，各種打製石器類の存在部分をＦ区から援用すれば夜臼式土器文化の単一時期設定が考えられよう。今回の調査区では晩期関連遺構は前述のＳＣ—01，ＳＫ—07の２遺構にとどまったが住居址南側斜面部分では夜臼式土器の発見も殆どないのに対して同じ東側斜面でも北半部は夜臼式土器を出土する小ピット群等（Tab 5）や地山直上に堆積する黒色土層中に豊富な同土器の包含がみられる点で同時期の集落の中心をなすのは住居址の北部一帯であることが考えられよう。また生産遺跡はＦ区調査の所見から丘陵裾部に近い場所には黒色粘質土中に豊富な包含層を残してはいるもののこれ以東は諸岡川の濫乱による厚い粗砂層の堆積となっていることから東斜面裾部に沿って狭長な残りがある可能性が強い。

（註　1）　板付周辺遺跡調査報告書３，福岡市埋蔵文化財調査報告書第36集　1976年

Ⅳ　弥生時代の遺構と遺物

1　SP－01（tab. 3，Fig. 11，12）

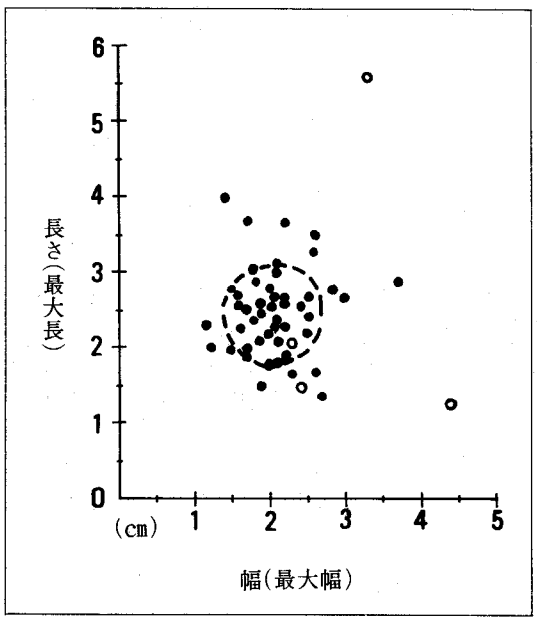
比較的残りの良い円形袋状竪穴（貯蔵穴）で調査区西端部で検出された。これもまた諸岡丘陵では初めての発見である。

①　**構造・規模**－外部は0.6×0.8mの不整円形に開口する。内部は断面が顕著な袋状となり，底部直径1.5～1.6mをはかる。床面は壁に沿って高まりをみせ，中央部がやや窪んでいる。なお深さは0.7m強を残している。

②　出土遺物（Fig. 11・12）　遺物のうち土器類は全て細片で図に供し得るものは少なく石器類にもみるべきものは多くない。

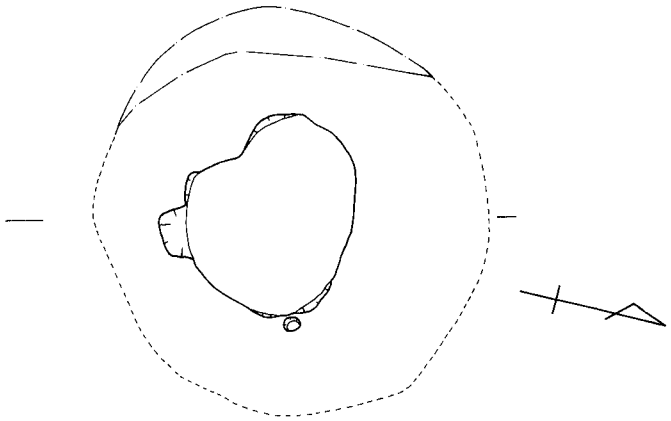
石器類では工具としての扁平片刃石斧破片1点，石核9点（黒曜石），剝片52点（黒曜石48　サヌカイト4），二次加工のある剝片3点（黒曜石），サイド・スクレイパー1点（サヌカイト），母岩1点（黒曜石），削片28点（黒曜石）であるが，この他に先土器時代に属するマイクロ・コア1点，石核1点，剝片3点，二次加工のある剝片1，不明石器片1点などが混在して出土している。このうち剝片52点については最大長・幅を計測して表にした（tab. 3）。これによると大きさは長幅が2.5～3×2㎝程度のものに集中する傾向があるがこの事は前のSC－01出土例に対比すると全体的に長さの大きいスマートな剝片が多いといえようが法量的には石鏃製作に使用されると思われるものが多い。また打面の観察できるものでは自然面を打面とするもの22点，平坦打面5点，調整打面12点となり自然面打面を有する剝片のしめる割合が大きい。

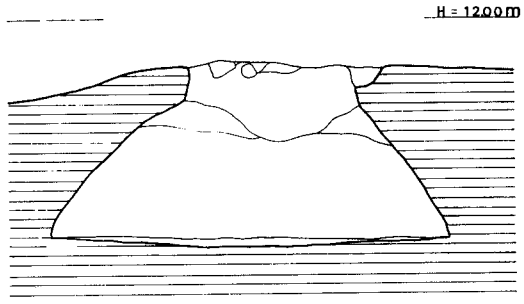
土器（Fig. 11，12）　土器類で図示し得るものは31点にすぎないが全体的には夜臼式土器の破片が非常に多く板付Ⅱ式に属するのは10点に満たない。



tab. 3　出土剝片長幅対比表

夜臼式土器のうち甕は口縁部(Fig. 11)の形態上①内弯気味のもの（1），②直線的に内傾すると考えられるもの（2，3，4，5，8），③直線的に外方に開くもの（6，7，9～14）とに区別される。①は内外面ヨコナデ調整。暗黄褐色。②は8に代表される様に胴部の屈折のつよい形態となろう。また突帯の位置は口径端部に殆ど一致している。器面調整はヨコ条痕。ヨコナデ，非常に細かいハケ目調整がみられる。③は刻目突帯をもたない14が内外面ともにヨコ条痕である以外はヘラナデ，ヨコナデで器面調整される。器色は黒褐～暗褐色のものが多





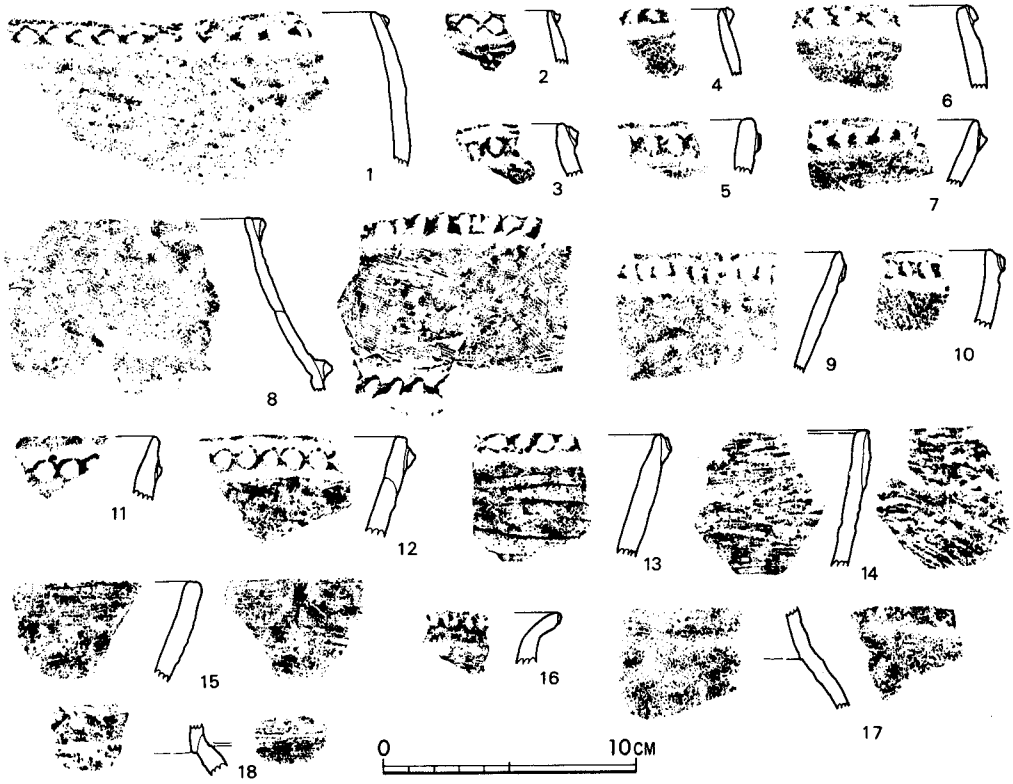


Fig. 11 ＳＰ−01と出土遺物実測図 ②（1/30，1/3）

い。①，②，③ともに粗砂粒を含み，焼成は堅緻である。次に**底部**（Fig. 12—4～11）は**4**が非常なあげ底となり特異である以外は全て甕形土器底部の特徴を具備しており，外面ヨコナデ，底部外面にヘラケズリ（6，9，10）がみられる。粗砂粒を混入。焼成は堅徴。次に壺（Fig. 11—17，18，Fig. 12—1，2）は大型のもの（1）を除けば小壺が多く，粗砂粒を混入する。焼成は堅徴。1は外面ヘラミガキ，内面ヨコナデ。2は内外面丹塗り，17は調整不詳。18は内部に接合痕をのこし頸部に沈線を有する。次に**鉢**（Fig. 11—15）はヨコ条痕後にヨコナデ。黒褐色。焼成堅徴。

板付II式（Fig. 11—6，Fig. 12—3，12，13）　甕口縁（16），甕底部（12，13）これに**蓋**（3）が出土している。13にタテハケ目調整を施す以外はヨコナデ。全て器色は暗黄褐色。焼成堅緻である。数量は少ないが確実に混入している。

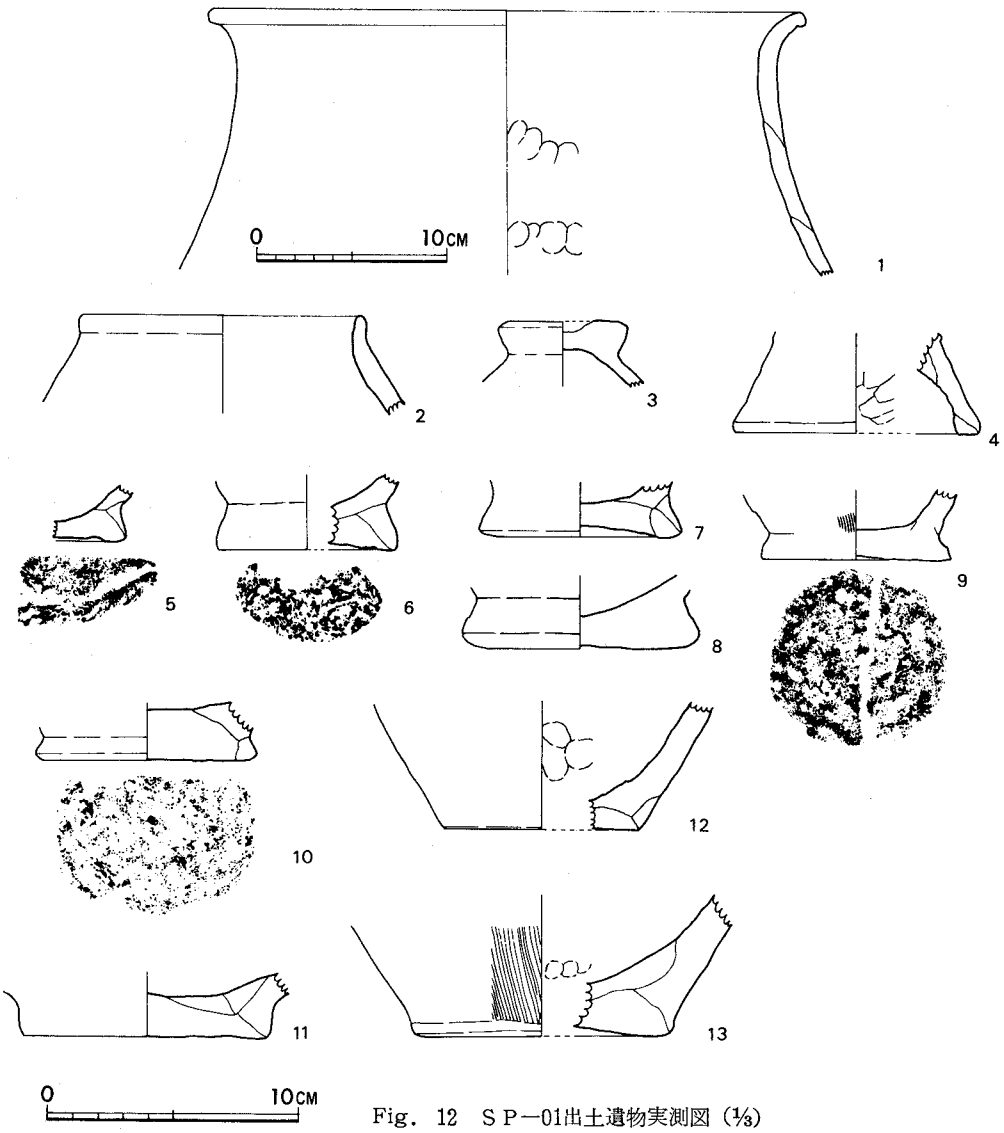


Fig. 12　SP—01出土遺物実測図（⅓）

2　SD—07（Fig. 6，Fig. 13）

調査区南側の斜面を東西に走る溝状遺構で西側部分で立あがり消滅している。現存長約5m，幅40～50cm，深さ15cm程度を残している。覆土は漆黒色の単一土である。出土遺物は板付Ⅱ式の甕底部（1点），同体部破片（23点）壺口縁（1点）であって量的には少量である。甕（Fig. 13）はややあげ底気味の安定した底部片で内外面ともに暗赤褐色を呈し，外面は細かいタテ刷毛目調整，底部内面には指おさえが残る。胎土に石英砂を含み，焼成は軟弱。底径 8.4cm。この溝状遺構は貯蔵穴（SP—01）と同時期に存在したものかと考えられるが遺構の遺存が悪く両者の有機的関連は把むことができない。

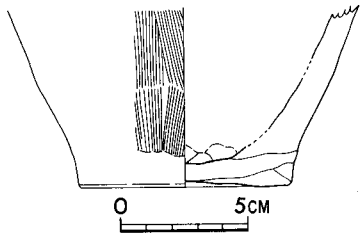


Fig. 13　SD—07出土遺物実測図（⅓）

3　小　　結

G区で検出された弥生時代（前期）の遺構は袋状貯蔵穴1基，溝1条にすぎない。これに加えるとすれば調査区中央部のピット群（柱穴）中に生活遺構を考えうるが建物としてまとまりを欠いていて確定できない。過去の諸岡丘陵の調査ではA～C区で前期の遺構群が多数見付かっている。中腹にあたるA区[註1]では中期中葉～後期初頭に至る甕棺墓群の西側で残存長16m，幅60～70cm，深さ20cm程度の小さい溝状遺構が検出されている。またC区[註2]全域～D区南半にかけての斜面には前期末土器に朝鮮系無文土器をともなう竪穴群が20個検出されている（第3～6，7a，8，10，11，13，14a，14b，17，19，20，21，40，43，44，19，41号竪穴）。これらのうち第7号，第14号は切合う4個の竪穴遺構であるが，他は相互に切断関係をもたず短期間に営まれた遺構群であることが知られる。竪穴は断面が袋状となる貯蔵穴様の構造をもつものもあり，第17，40号では焼土塊を混じている点で単純に貯蔵穴と判断できないものである。また第3，4，5，17，20，40号竪穴では遺物の上で板付Ⅱ式壺形土器と無文土器系甕形土器の共伴関係がみられ，弥生時代前期末における日朝彼我の関係を考える上で有力な資料を提供した。更にこの生活遺構としての竪穴群との関連はよくわからないが丘陵頂上部にあたる甕棺基地B区周辺では前期末甕棺破片（Fig. 27—1）が採集されている。これらから諸岡の場合板付Ⅱ式期では通常数基～数十基と群集する袋状竪穴が丘陵南裾にひろがる可能性があり集落の中心もまた同地域であろうか。

（註　1）『板付周辺遺跡調査報告書1』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第29集) 1974
（註　2）『板付周辺遺跡調査報告書2』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第31集) 1975

V　中世期の遺構と遺物

1　概　　要

今回の調査地点は諸岡丘陵の東南裾にあたり，西から東へ下降するゆるい傾斜地である。発掘区の東端には，南北にのびる段落ちがあって，東側には沖積地が拡がっている。これまで，諸岡丘陵周辺の調査によって古代～中世にわたる遺構・遺物は少なからず検出されてきたが，ある程度まとまった内容の遺構が検出されたのは諸岡G区が初めてといえる。

G区では，発掘区全域から該期遺物が出土した。明らかに，この期に属する遺構としては掘立柱建物3，井戸2，土坑4，土坑墓1，溝3がある。また，発掘区全域にわたって，性格不明の小竪穴が多数検出された。柱穴とみとめられるものは少なく，その大半は帰属年代は不明なうえ，なかには木根痕，耕作によるものも含まれており，掘立柱建物を検討するうえで障害となった。したがって，建物をまとめきれなかった憾みもあるが，未検出の建物は検出されたる棟をさほど上まわる可能性は少ないと思われる。

まず遺構で注意されるのは，3条の溝である。SD01・03は，ともに02によって切られており，01・03→02の推移が辿れる。SD02は両端とも発掘区外にのびる。しかし発掘区北端で検出されたSD08は，覆土の形状がSD02に近く，この2条が連続する可能性が強い。この推測に誤まりなければ，SD02・08は裏（西側）に丘陵を背負った一辺約26cmの方形区画の溝となり，その内側に掘立柱建物・井戸・土坑などが含まれることになる。

しかし，これらの遺構が単一時期に営まれたものでないことは，以下の各節で明らかになるが，はじめに遺構の構成と年代観を述べておくことにする。

Ⅰ期（11世紀後半～12世紀前半）建物SB02・03，井戸SE02，溝SD03で構成される。この一群では，生活空間を画する施設はみとめられない。また土坑墓SK05は，井戸SE02廃絶の際投入されたとみられる土師器（大宰府編年のSE1330期）と等しいものを副葬している。はたして生活空間内に墓地を設けたか疑問であるが，この段階に属するとみておきたい。

Ⅱ期（12世紀後半～14世紀）この期には直接的な生活遺構はない。溝SD01は出土遺物に年代幅をもつが，次の段階の溝に切られており，この期のある時点に掘削されたであろう。

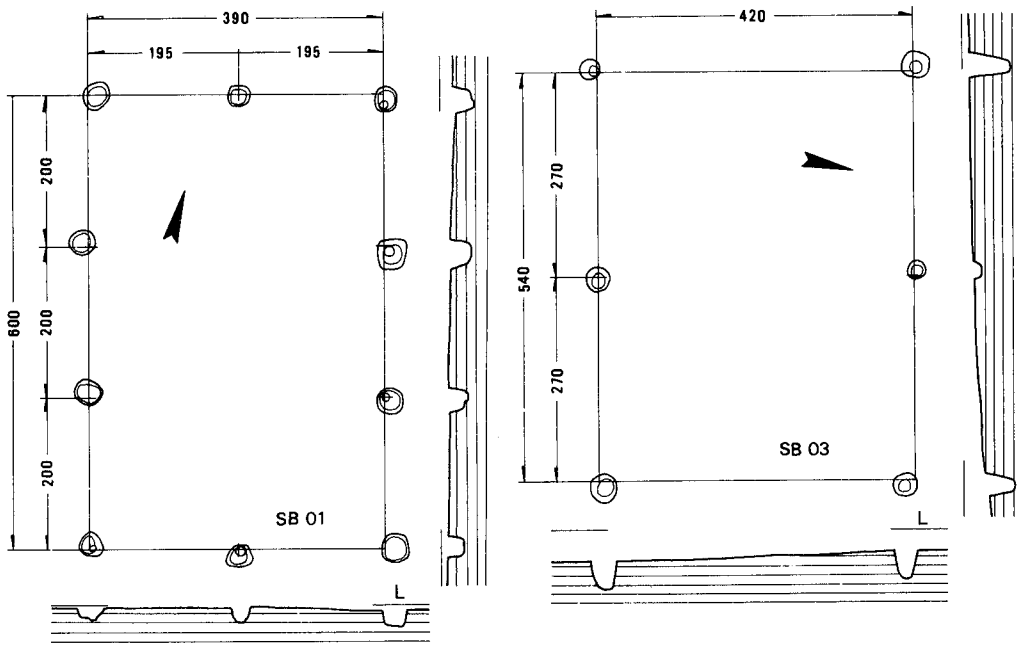
Ⅲ期（14世紀代）方形区画の溝SD02・08の内側に，建物SB01，井戸SE01がみとめられる。東北半は未発掘なので，他の遺構が組み合さる可能性がある。SK02もこの期に属すると思われる。この期の年代決定根拠は乏しいが，瓦質の片口鉢，土師質土鍋が14世紀代と推測された那珂川町井手ノ原遺跡(註1)の遺物に共通することを援用した。

Tab　4　　掘立柱建物計測表

建物番号	規模	方向	桁行 実長	桁行 柱間尺	梁行 実長	梁行 柱間尺	方位（磁北）	床面積
SB01	3×2	NS	600 (20)	6.6·6.6·6.6	390 (13)	6.5・6.5	N16°30′W	23.4㎡
SB02	3×2	NS	840 (28)	10・8・10	480 (16)	8・8	N20°W	40.3㎡
SB03	2×1	EW	540 (18)	9・9	420	14	N77°E	22.7㎡

桁・梁行の実長単位はcm，（　）内は1尺30cmで除した数値

（註　1）　『山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第2集所収　1976年　福岡県教育委員会



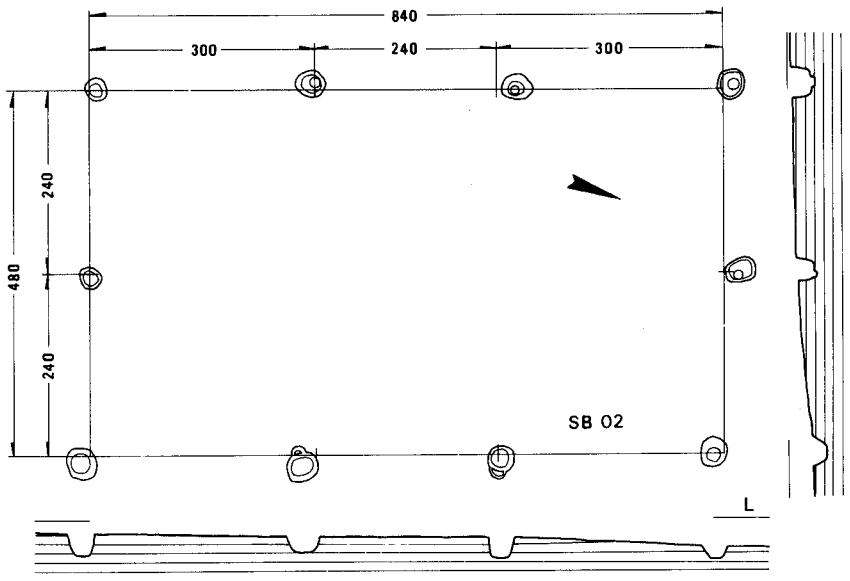


Fig. 14 SB—01・02・03出土状況図 (1/100)

L=GH12.20m

2 掘立柱建物 (Fig. 14)

3棟検出された。調査区北部と東部の井戸ＳＥ02の周辺には，掘方と考えられるピットもいくつか存在するが，建物としてまとまらなかった。

SB01 発掘区北端近くに検出された南北棟である。側柱のみの建物で桁行3間，梁行3間の長方形である。実長は桁行6ｍ，梁行3.9ｍを測り，柱間寸法は桁が20尺を三分し，梁は6.5尺の等間である。掘方は30～40㎝の不整円形，深さは15～30㎝である。掘方埋土は黒褐色土のため，柱痕跡は検出できなかったが，掘方底部には荷重による凹部がみとめられる。柱並びは比較的そろっている。掘方内から，夜臼式土器・弥生式土器・土師器・互質土器・施釉陶器の破片が出土したが，細片のため全形のわかるものはない。土師器杯のなかにはヘラ切り離しのほかに，糸切り離しのものがある。北梁行の中柱掘方は土坑ＳＫ03に切られている。

SB02 ＳＢ03と重複して検出されたが，掘方の切り合いはない。側柱だけの南北棟建物で，桁行3間，梁行2間の長方形である。実長は桁行8.4ｍ，梁行4.8ｍである。柱間寸法は桁が10・8・10尺，梁は8尺等間であるが，桁柱間は不安定である。掘方は径30～40㎝の不整円形，深さは20～40㎝である。柱痕跡は確認できなかったが，底部には荷重による凹部がみとめられる。掘方内の遺物は夜臼式土器片・石器片が出土している。

SB03 発掘区中央部西よりに検出された。側柱だけの東西棟の建物で，桁行2間，梁行1間である。実長は桁行5.4ｍ，梁行4.2ｍで柱間寸法は桁が9尺等間，梁は14尺である。掘方は径30㎝ほどの円形，深さは1つを除いて40～60㎝を測る。柱痕跡は検出できなかった。掘方内からは夜臼式土器片・石器剝片が数点出土している。

3 井戸 (Fig. 15)

2基が検出された。ＳＥ01は発掘区北側の方形区画の溝ＳＤ01の内側に，ＳＥ02は外側に位置する。

SE01 発掘区中央部のやや北よりにあって，上端径1.3×1.4m，底径0.8m，深さ1.9mの素掘りの井戸である。井戸湧水点は遺構検出面より約1.2ｍ下方である。地層は上部から新期ローム・鳥栖ローム・八女粘土・さらに段丘形成層の砂礫となるが，上部伏流水は鳥栖ローム・八女粘土のあいだにある。水質は良質とはいえないが，沽渇することはない。

堆積土層の観察では，井戸内はすべて埋土であり，自然堆積をみとめない。湧水点は外方にえぐれる。埋土からの出土遺物は，夜臼式土器・弥生土器・土師器・白磁・龍泉窯系青磁・石器剝片などの細片が出土したが図示可能のものは少ない。

土師器坏 (Fig. 15－2) 底～体部の小破片である。高台は断面三角状の貼付けで，外底はヘラ切り離しである。内底・体外表は丁寧なヘラミガキを施し，磨研土器と称されるもの。

SE02 上端径2.6ｍ，深さ2ｍを測り2段の傾斜をもつ素掘りの井戸である。上端より1.2ｍのところで掘方角度を変え，垂直に掘削している。湧水点は遺構検出面より1.2ｍ下方にあり，地層推移はＳＥ01に等しい。井戸内はすべて埋土で充填され，自然堆積はみとめ

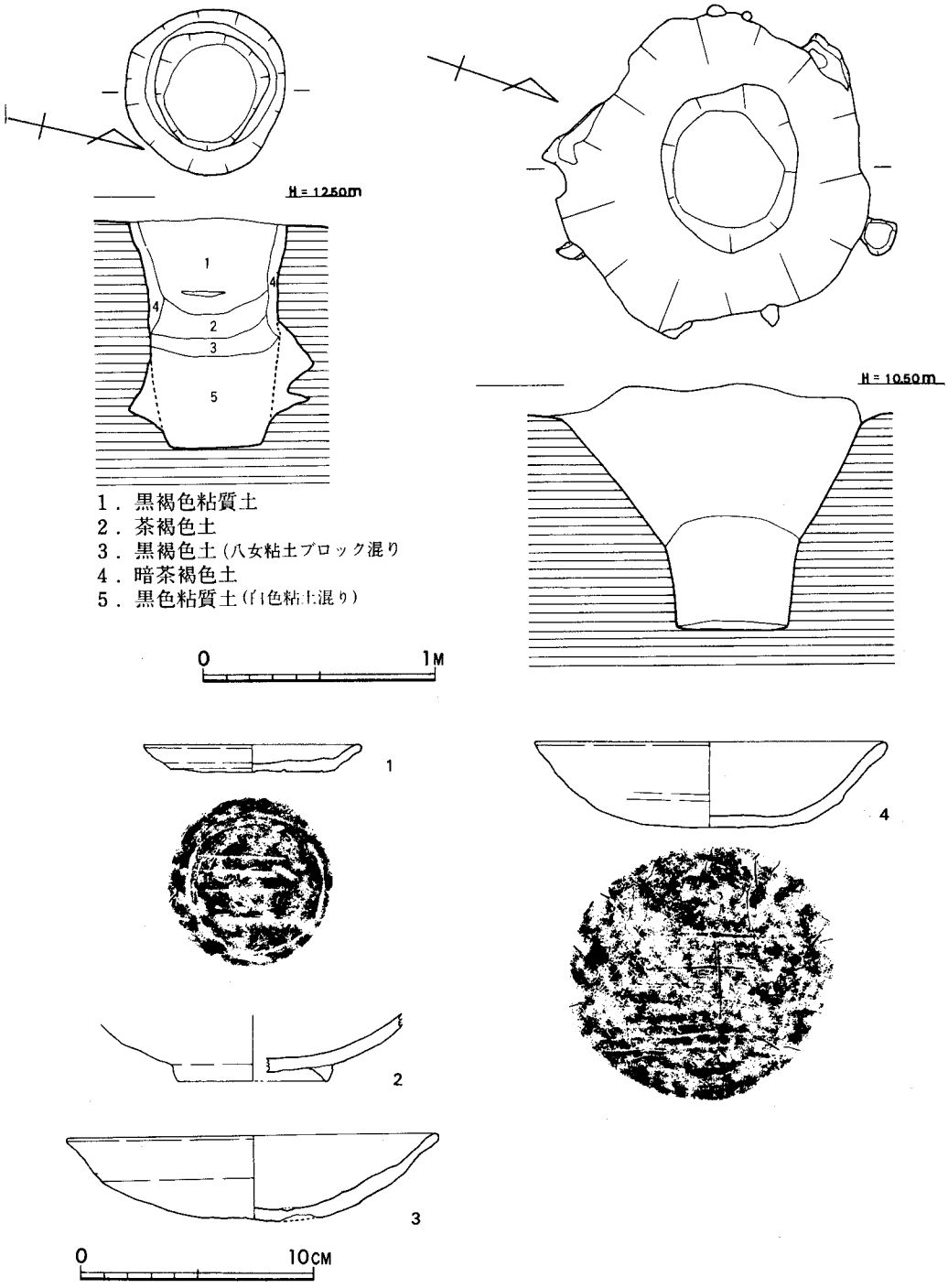


Fig. 15 ＳＥ−01・02と出土遺物実測図（1/60，1/3）

られない。夜臼式土器・土師器・白磁が含まれる。青磁は一片も出土していない。埋土中位から土師器の完形品が3点出土している。

丸底の坏（Fig. 15—3・4）　口径15～16cm，器高3.5～3.7cmを測る。体部中位で屈曲し，口縁部は外反する。4は外底に板目圧痕を残す。3はヘラ切り離し上をナデ，内底にナデ調整が施される。

小皿（Fig. 15—1）　口径9.5cm，器高1.2cmを測る。外底はヘラ切り離し上に板目圧痕を残す。内底にはナデ調整がみとめられる。

4　溝

①　SD—01（Fig. 16,17）　調査区西側から孤を描き乍らSD—02に東側で切られる溝で長さ20m，幅約1mを測る。亦SK—04を切る。遺物は全て細片で覆土中より，夜白式土器，弥生式土器，瓦質土器，土師器皿白磁埦（玉縁状を含む），須恵器，石鍋片，剝片類が出土したが青磁器破片は一切含まない。図に供し得るのは次の2点である。

7は内弯気味にのびる体部が縁端部で短かく外方に引出される白磁碗。口径16cm。36は白磁埦底部で低くタタミ付きの小さい底部をもつ。体部内面と見込みとの境は列点状となる。底径6cm。

SD—03もまた土層の堆積の上では通常に通水している様子ではなさそうである。

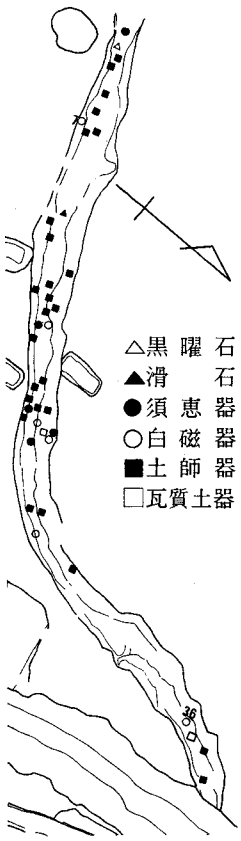


Fig. 16
SD—01遺物出土状況図（1/200）

②　SD—03（Fig. 1，2）　丘陵裾部に平行する溝。北側では壁に這入るが南側では立あがり，長さ12m，幅50cm，深さ約30cmをはかる。覆土は単一な淡黒色土である。遺物は出土点数が極端に少なく夜白式土器，弥生式土器，瓦質土器，須恵質土器，白磁器，剝片類であって青磁器を含まない。

白磁器（Fig. 17—1）は口縁部が内弯気味に外方に開き端部は小さく肥厚する薄手の精良品で内外面ともに細かい貫入が多い。口径10.7cm。また**須恵質土器**(同図2)は朝顔状にひらく口縁部をもち，内面～口縁端部ヨコナデ。頸部はタテの丁寧なミガキ調整。黒褐色。焼成堅緻。口径16cm，本溝はSD—01と青磁器を含まぬ点で共通する。

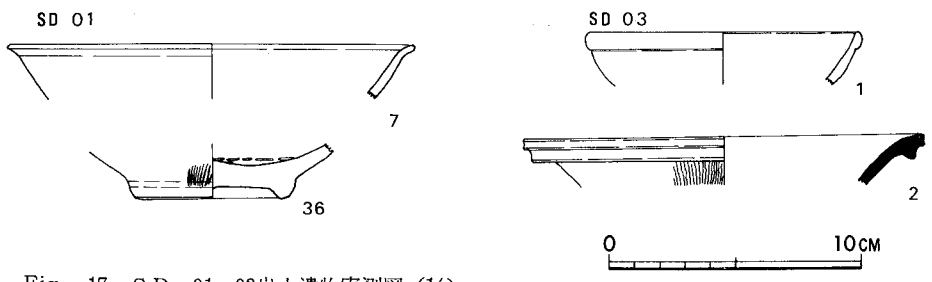


Fig. 17　SD—01・03出土遺物実測図（1/3）

③ SD—02 (Fig. 18・19)　調査区西側から東へ約15m走った地点でゆるくコーナーをつくり北へ伸びる大溝である。確認し得た規模は南辺で長さ約15m，幅2.8～3m，深さが1.5m。東辺では長さ約13m，幅1.8～2m，深さ約1mを測るものであり，南辺は特に二段掘方の残りがいちじるしい。また東辺は更に北側に伸びるものであると堆測され，北側にコーナー部分を想定すればSD—08付近がこれに当るかと考えられる。これによると東辺は約30～35mとなり南辺とあわせて平面形が不整な「コ」字形の構造溝を考えうる。遺構は夜臼式土器を出土する竪穴住居地（SC—01）および溝（SD—01—覆土中に青磁器片を含まない）を切って新しく営まれている。覆土は単純な堆積を示し（Fig. 18）ており，全体的に黒っぽい土で最下層がわずかに粘質である以外はあまりしまらない土層であって底部に滞水があったとしても二段目掘方の上面あたりではなかろうか。

遺物 (Fig. 19)　遺物は規模的に大きい割には少量であり，最下層では殆ど出土せず，中位にあたる第Ⅲ層出土のものが多い。主なものを挙げれば夜臼式土器片（6点），弥生式土器片（25点），瓦質土器（9点—鉢，片口鉢，土鍋），土師器埦片（4点），染付碗（1点）白磁器碗片（10点—玉縁1，平縁2），青磁器碗片（5点），石臼（1点），石鍋片（2点）平かわら（2点），不明鉄器片（3点）などである。1～4は瓦質土器である。1は端部の稜角的な鉢で内面タテハケ後に櫛描文，外面はタテハケ目調整。灰褐色。2も鉢形で肥厚する口縁部外面に2条の沈縁，同内面に4条の沈線を付する。外面はハケ目調整で煤が付着。内面はナデ。暗褐色。3は土鍋か。器色は明るい赤褐色。外面ヨコナデ，内面ヨコハケ。4は鉢で内外共に黒色で光沢をもち，ヨコナデ調整。口径14.6cm。5は石臼上段部破片である。直径18cm，高さ20cmをはかり，安山岩を使用した精良品である。体部中位は若干くびれこれより差々下った位置1辺が4.6～5cm，高さ約1cmの菱形柄袋を造り出している。柄孔は四角形で2.3×2.5程度の方形となる。6は染付碗で完器である。内弯気味に開く体部は口縁近くで緩く外反。釉は差々青色をおびる淡灰色である。体部外面は二対の開花したボタン蕾花，たなびく雲様の文様で見込みは9弁花文に二本の同心円。ま部内面に一本の線状文を施す。口径12.7cm、器高5.8cm。7は平瓦で端部は一気に篦切り。外面は平行な縄目圧痕。内面は1cm四方に経緯が6×6本程度の荒布圧痕をのこす。

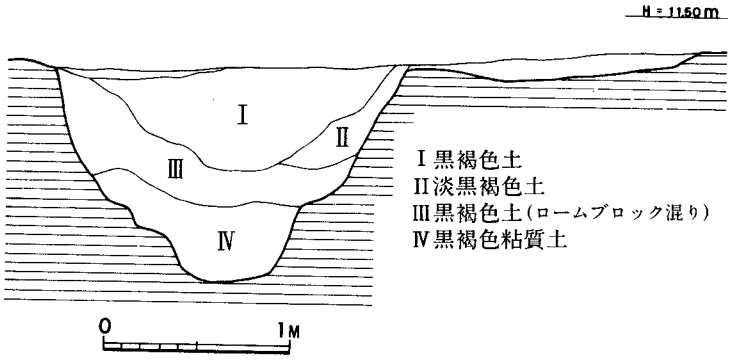


Fig. 18　SD—02西壁土層断面図 (1/40)

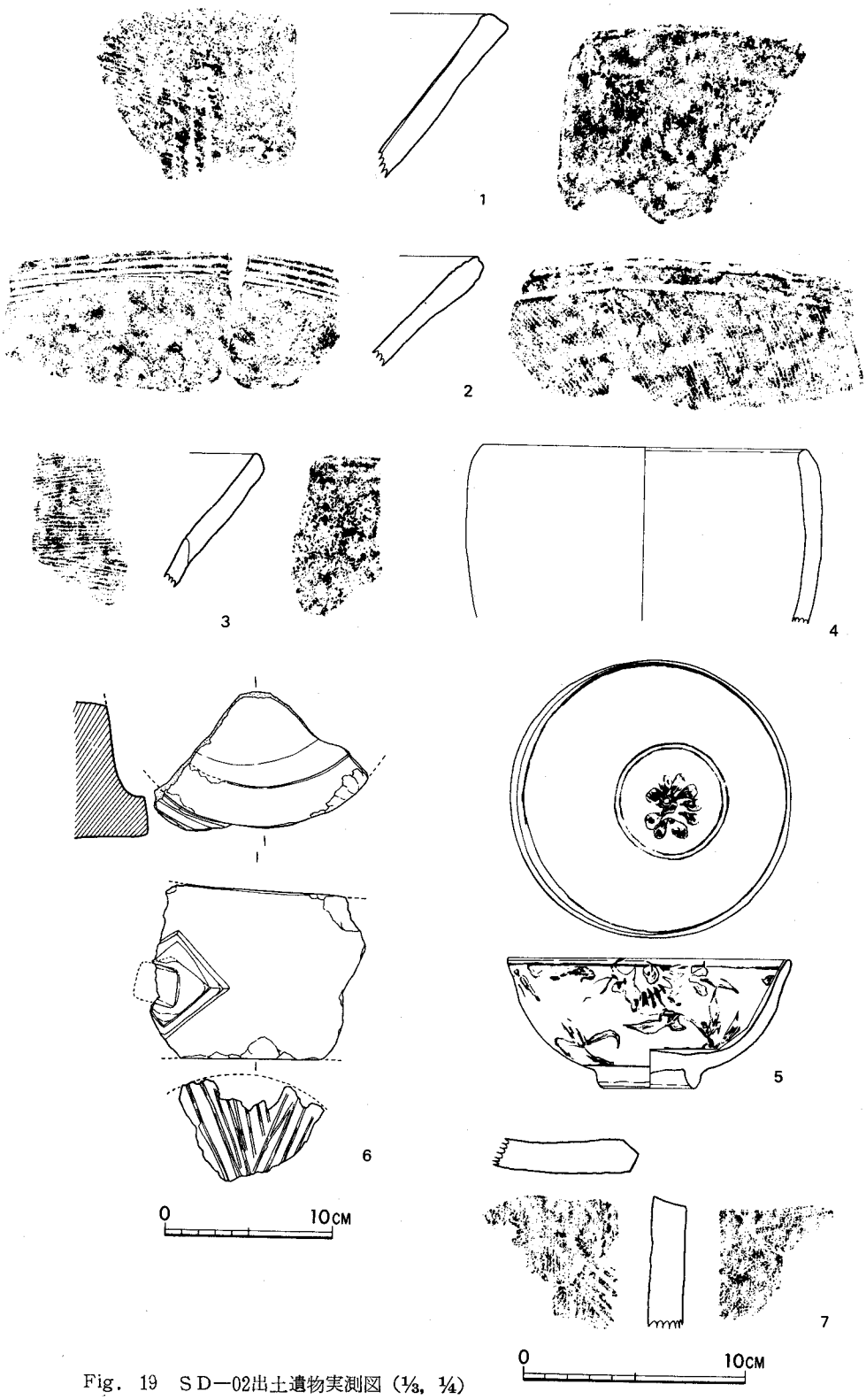


Fig. 19 SD—02出土遺物実測図 (⅓, ¼)

④ **SD—04**（Fig. 6） 調査区東裾部を形成する段おちをＳＤ—04とした。厳密には溝と呼べないかも知れない。遺物は数量的に少なく，弥生式土器破片（1），土師器埦（2点—高台付底部1），須恵器埦底部（1点—高台付），石核（1点）が出土している。縁辺部は大小の出這りがあって高さ50～80cmの段おちを持つ。南側は道路部分に向って竪穴状に落込み，この部分以下は白色八女粘土層となり常時湧水がみられ滞水する。Ｆ区との境は排水路に断ち切られる。

⑤ **SD—05**（Fig. 6，20） ＳＤ—05は 調査区南端部を形成する段おちでＳＤ—04と同様に真正の溝とは呼べない。覆土は暗褐色のしまりのない土で各時代の遺物が出土した。遺物は夜臼式土器，弥生式土器，土師質土器，土鍋，白磁埦底部（2），同口縁部（2），青磁皿底部・同埦・瓦（平瓦），石鍋，近世陶磁器などであって 段おちが近世以降の工作によるものと判断できる。

遺物（Fig. 20） 1は非常なあげ底となる甕底部。外面はタテハケ後に下部をつよくナデおろす。底部内面は指おさえ。赤褐色。焼成堅緻。底径6cm。3・4は土師質土器であり埦形となろうか。3点とも底部外端がやや内側に低い丸味をもった高台をもつ。3（底径 5.3cm），4（底径5.8cm）は内外面ともにヨコナデ。暗褐色。焼成堅緻。2は須恵器。底径 7.8cm。5・6は白磁器，5は高台が露胎となる碗底部。白褐色釉，底径 3.8cm。6は皿底部。内面は淡青白釉，外面は露胎となる。底径 3.4cm。7は土鍋。短い口縁部は内弯気味に外方に伸びる。外面は煤厚く，内面ヨコハケ目で底部に細かい。口径28cm。

⑥ **SD—08**（Fig. 6） 調査区北端に片側の肩口のみを検出した。肩口からのり面の傾斜はＳＤ—02の東辺と類似している。遺物は少量であり，須恵質土器破片（1），瓦質土器鉢（Fig. 19—1と同類）が出土していてＳＤ—02と連絡する可能性が大きいと考えられる。

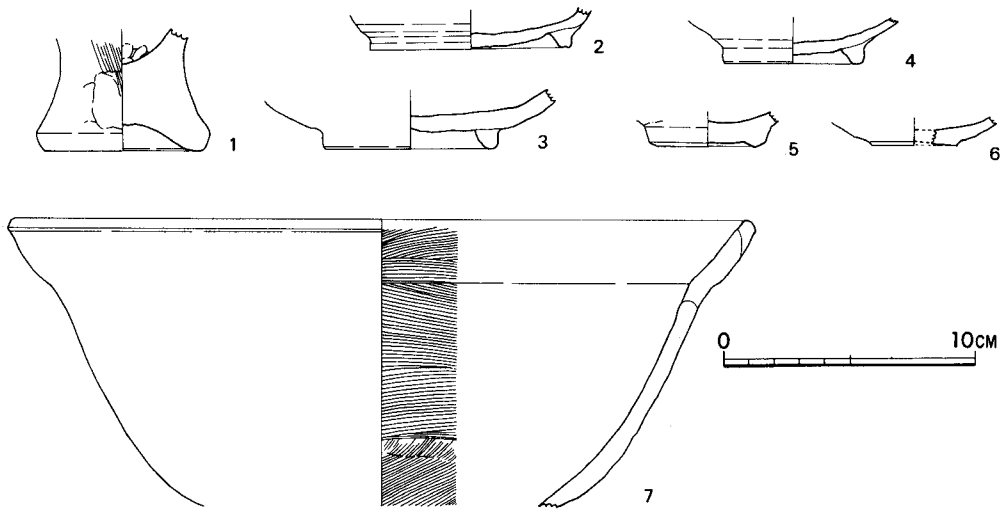


Fig. 20 ＳＤ—05出土遺物実測図（⅓）

4　土坑（Fig. 21, 23, 24）

① **SK−01**（Fig. 6）　調査区北端部に位置し，ＳＤ−08肩口部を切る。径70cm，深さ60cm程度の円形竪穴である。覆土は漆黒色で単一なものである。遺物としては土師器皿（3点一糸切り離し），土師質土器埦片（5点），白磁碗片（1点）などが出土している。柱掘方としても考えられなくはないが他にまとまりを持たず性格は不詳である。

② **SK−02**（Fig. 21, 22）　次のＳＫ−03と並列する様に営まれている。プランは長短軸が2.6×2.0m，深さ30cmをはかる隅丸長方形である。壁断面は皿状に緩く立あがる。覆土は漆黒色の単一な土である。遺物は細片が多く，土師質土器埦破片（128点），土師器皿（1点），土鍋（1点），白磁器碗口縁（5点一大小玉縁，平縁を含む），同底部（1点），褐釉陶器（1点），石鍋破片（2点）などであり青磁器は含まれていない。図に供し得るもの（Fig. 22）のうちで1は白磁器碗である。全体に若干草色を帯びた白色釉を厚く掛ける。口縁部は端部を丸く仕上げ，この付近が肥厚するが器形の上でめりはりの無いものとなっている。口径14cm。2も白磁器碗底部。低い安定した高台をもち体部は直線的に外方に開く形態となろう。残存する体部内面と外面の一部にくすんだ白色釉を薄く掛ける。内面の体部と見込みとの境界は細い亀裂となっている。重ね焼きを示す。また底部外面ケズリの轆轤回転は逆時計まわり。底径は6.2cm。3は瓦質土器鉢か。外面は荒い平行叩目。内面は4～5本の櫛描き後にヨコナデ，胎土緻密，焼成堅緻。

ＳＫ−02はＳＤ−03と近接するものであるが掘立柱建物（ＳＢ−01，02）と関連をもつ遺構である可能性も残している。

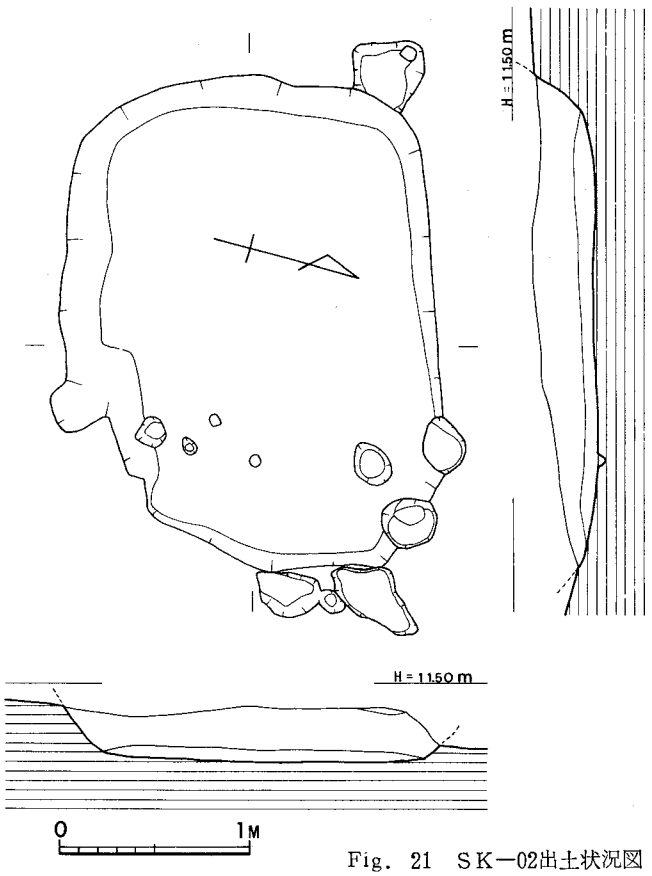


Fig. 21　ＳＫ−02出土状況図（1/40）

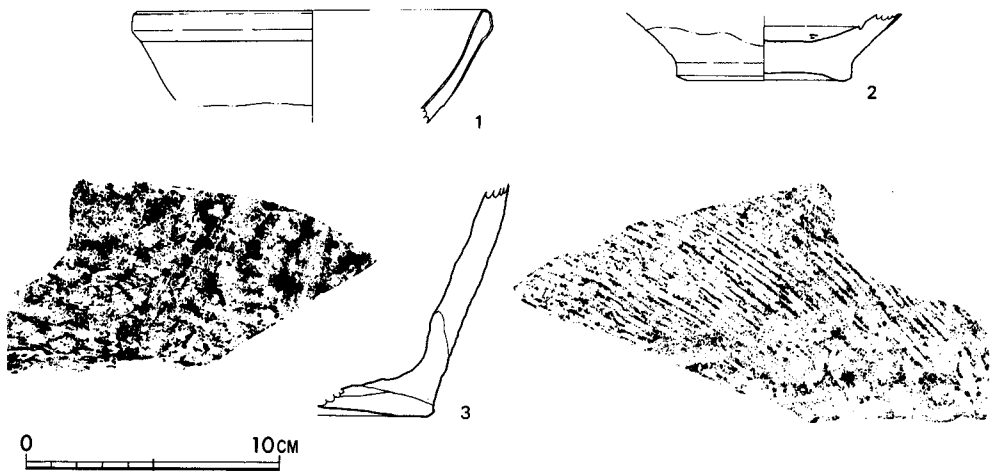


Fig. 22 ＳＫ－02出土遺物実測図（⅓）

③ **SK－03**（Fig. 23） ＳＫ－02の南側に隣接する土坑である。プランは長短軸が 1.8×1.3m，深さ 10～13㎝程度の隅丸長方形である。壁断面は緩く皿状に立あがるが後世の削平がいちじるしい。覆土は淡黒褐色の単一な土で遺物は細片すらも見出せなかったが，北側壁で掘立柱建物ＳＢ－01の柱掘方と切りあっており，これを切っていることが観察される。ＳＢ－01はその柱掘方の覆土中に糸切り離し土師器皿破片を含むことが知られており，この点でＳＫ－03は鎌倉時代以降の所産であると考えることができよう。

④ **SK－04**（Fig. 6） ＳＫ－05と隣接し，長軸線も粗々平行する隅丸長方形土坑である。長短軸は 1.25×0.5m，深さ 10㎝強で北側の短辺がややみじかくいびつである。また東南のコーナーをＳＤ－10（青磁器を含まない）に切られていて，これより新しい所産である。覆土は暗褐色で，遺物は白磁器碗口縁部（２点－玉縁１），土師器破片（２点）等が出土している。

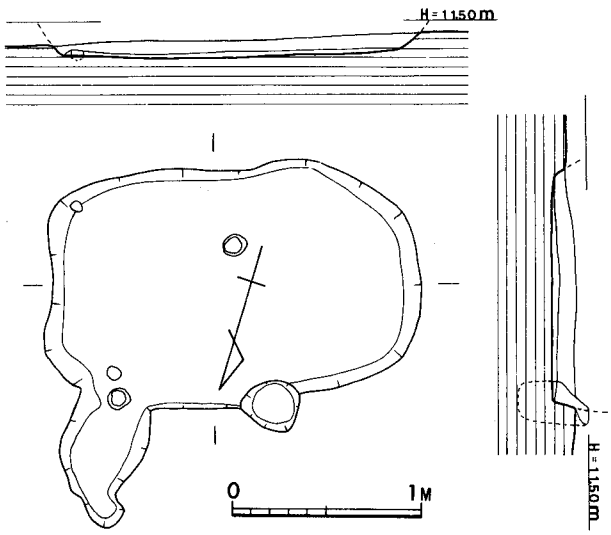


Fig. 23 ＳＫ－03出土状況図（1/40）

⑤ **SK−05** (Fig. 24)　溝（SD−01）を狭んでSK−04の南側に隣接している。竪穴（SK−01～5）の中で唯一積極的に墳墓と考えることの出来るものである。遺構上端はかなりの削平を受けているものと思われる。平面プランは隅丸長方形である。規模は長軸が1.75m，短軸は0.68～0.7m，深さが0.25～0.30mを測ることができる。床面は北側に向って緩く傾斜している。また北側側辺に近いところで副葬品と考えられる土師器坏，白磁器碗一対が出土した。覆土は黒褐色で単一なものであるが，遺物は他に夜臼式土器破片（1点）弥生式土器破片（3点），土師質土器破片（10点），不明磁器破片（2点），白磁器破片（1点）などが出土している。

遺物 (Fig. 24)　遺物のうち1は白磁碗である。体部は内弯気味に外反し，口縁端部は肥厚して玉縁状となる。また底部は低い安定した稜角的な高台をつける。釉は淡褐色で底部外面，体部高台付近を除いて施釉されるが全体的に薄く，この為に口縁部端～体部外面にかけての回転ヘラケズリ痕が非常に目立つものとなっており，施釉部分の細かい貫入も観察される。口縁部径17.5m，底径6.6cm，器高7cmを測る。2は土師器丸底坏である。底部より内弯気味に立ちあがる体部は中位に至って屈折してゆるく外反する。外面は体部上半はヨコナデ，下半・底部を含めてナデ調整で底部切離し痕も残さない。内面は篦状のものでナデ調整。内外面ともに淡黄褐色。焼成堅緻。口縁部径16cm，器高3.3cm。

SK−05出土副葬品のうち土師器丸底坏は井戸（SE−02）出土の大形品（Fig. 15−3）と法量，器形とも類似する。

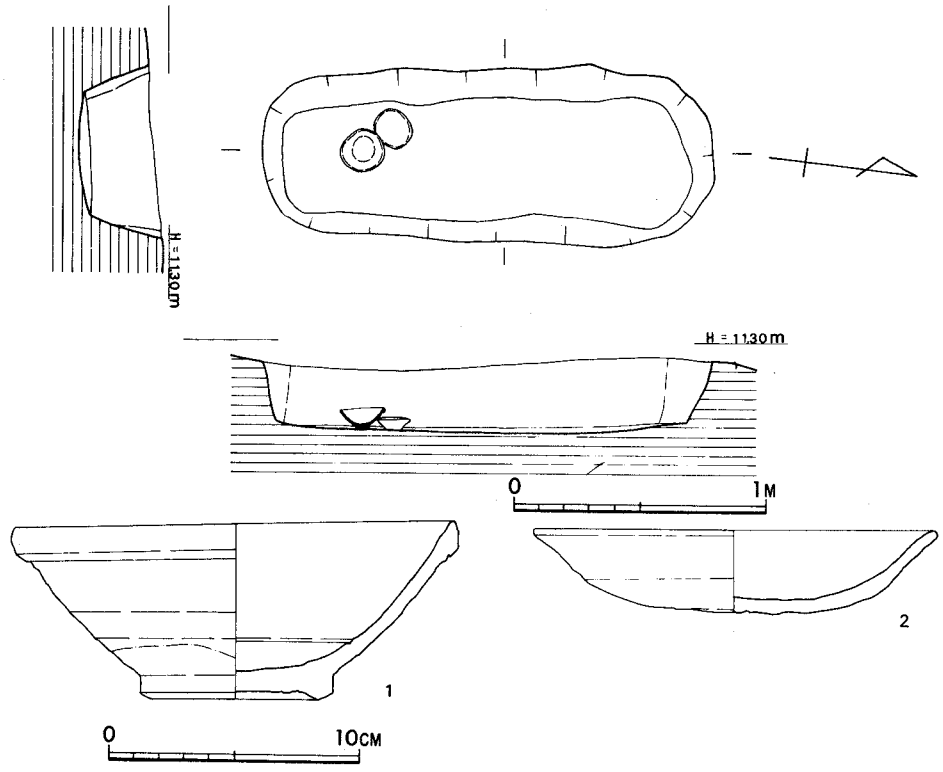


Fig. 24　SK−05と出土遺物実測図（1/30，1/3）

Ⅵ その他の遺構

1 SK—08 (Fig. 6, 25)

井戸（SE—01）の東に隣接する竪穴遺構で柱穴や他の撹乱でコーナー部分や壁面が失なわれている。現存で西辺2.2m，南辺2.2m，深さ10～13cmを残すのみであるが，竪穴住居址の可能性もある。覆土は淡い黒褐色である。

遺物 (Fig. 25)　遺物はいびつな坏蓋1点である。天井部はヘラ削り後に一部ナデ。ヘラ記号をもつ。体部はヨコナデ。内面もヨコナデ，黒灰色。焼成は堅緻。口径13.55cm，器高3.8cm。

2 ピット群 (Fig. 6, 26, tab. 5)

建物の柱穴と考えられるピット群は調査区北側あるいは西側ではSB—01，02，03の掘立柱建物の掘方が一番に残りが良く，あるいはこの時期に建物建設の際の整地が行なわれた可能性もある。更に南側では柱穴と考えられるものは殆どなく，東側遺構群の周辺に集中している。ピットは遺物を出土するものについてのみ番号を付した（Fig. 6）がこれ以外のものとの間でも建物としてのまとまりは見出せなかった。遺物を出土したのは全体のうち82個である。覆土より出土した遺物には殆ど夜臼式土器を含み，時期的にこれ以降のものが多いことが知られるのみで限定できない。（tab. 5）

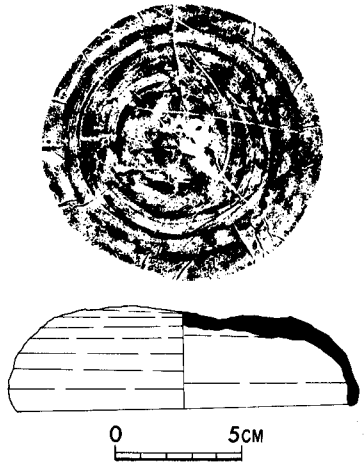


Fig. 25　SK—08出土遺物実測図（⅓）

遺物のうち図に供し得るものは少量である（Fig. 26）。付したのはピットの番号と同一である。**No.61** は夜臼式土器甕胴部（赤褐色，外面は条痕。突帯下半は煤付着。）に須恵器坏（外面は黄灰色，内外面ともにヨコナデ調整。口径9cm）が出土した。**No.64** では白磁碗（分厚い玉縁状口縁をもち，褐色の強い白色釉を体部外面上半以外に掛ける。口径15cm。）が出土した。**No.68** は夜臼式土器（鋭い刻目を施す胴屈曲部から内傾する胴が口縁で外方に開く。暗褐色。）を出土した。**No.71** も夜臼式土器（内傾する

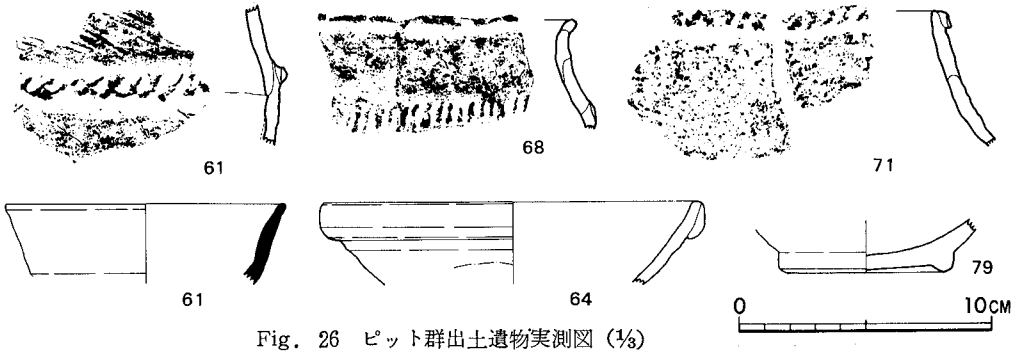


Fig. 26　ピット群出土遺物実測図（⅓）

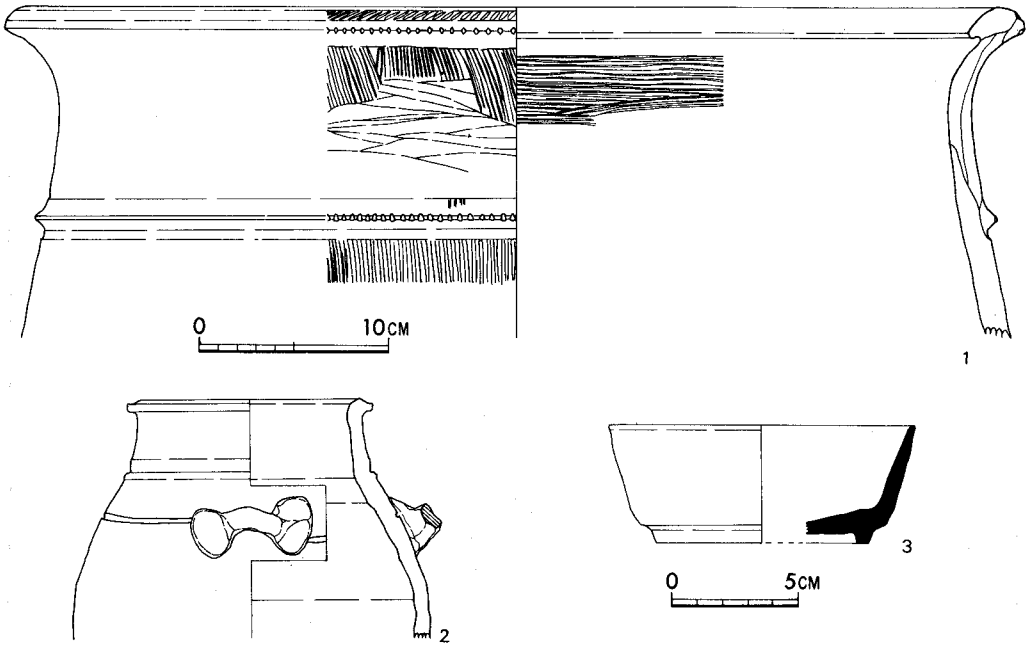


Fig. 27 表面採集遺物実測図（⅓, ½）

口縁部をもち，外面ヨコ条痕。黄褐色）が出土した。No.79 では白磁碗底部（低いしっかりした高台で外面は露胎，内面は褐白色釉。）が出土した。

柱穴群は上記の様に時期限定のための積極的方法欠くこととなり，調査現場での覆土観察が望まれるところである。

Ⅶ 表土層・表採の遺物（Fig. 27）

機械力による表土剝ぎのため表土，排土中に土器細片がかなり採集された。

1 は甕棺であろう。甕棺墓地B区の東側で中原志外顕氏によって 採集されたものである。肥厚する口縁端部に緻密な刻目を施し，胴部刻目突帯も低いが仕上げは丁寧である。口縁以下の調整は荒いタテハケ目後にヨコヘラナデ，突帯の上下はつよいヨコナデ調整を施している。また内面は上部に非常に荒目のヨコハケ目を残すが他は不明である。赤褐色を呈し，胎土には粗砂粒の混入がみられる。口径は51cm。

2 はＳＤ—04南側の排土中で採集された。須恵器壺である。ふくらみの弱い胴部が頸に至って差々内傾気味に直立する特徴を持つ。口縁端部は外方に小さく突出して平坦部をつくっている。頸部よりやや下った位置に緩く上下する沈線文を描き，この後に平板なブリッジ状の把手を貼付けているが，おそらく二耳壺となるものであろうか。外面は灰～灰白色，内面は淡灰色を呈し，各れもヨコナデ調整がのこる。口径 9.8cm，胴部径 14.2cm，胎土に雲母片を混入。焼成堅緻。

3 は須恵器高台付坏である。口縁部はほぼ直線的に伸びる形態で高台は底部端よりも差々内側に付けられる。内外面ともに暗灰色でヨコナデ調整。底部外面にハケ目状の調整。口径 12.2cm，器高 4.7 cm。

ピット番号	出土遺物
1	H (3) , G (1)
2	H (1)
3	f (1)
4	H (1)
5	H (5)
6	C (1)
7	Ji (1)
8	Yu (3)
9	Yu (1) , Y (2)
10	Y (1) , C (1)
11	Yu (4) , H (1) , M (1)
12	H (4)
13	Yu (1) , H (1)
14	K (1)
15	Yu (1) , f (1)
16	Y (1) , H (1) , Ji (1)
17	Yu (1)
18	Y (1)
19	H (2)
20	Yu (1) , H (1) , M (2)
21	Yu (1)
22	Yu (1)
23	Y (1)
24	Y (2)
25	Yu (5)
26	Y (1) , H (8)
27	Yu (2) , Y (1) , H (1)
28	C (1)
29	Yu (1)
30	Yu (1)
31	Yu (1) , H (1)
32	Yu (1)
33	H (1)
34	Y ((1)
35	Yu (1) , f (1)
36	Yu (1) , H (2)
37	Yu (3)
38	Ji (1)
39	Yu (1)　Y (1) , H (1) , G (1)
40	C (1)
41	Ha (1) , C (1)
42	P
43	Yu (1)　C (1)
44	Yu (7) , G (1)
45	Yu (3) , H (5) , Ji (3) , f (1)
46	Yu (6)
47	f (1)
48	Yu (6) , Su (1)
49	Yu (2)
50	Yu (1)
51	Yu (3) , Y (1) , G (1)
52	Yu (1)
53	Yu (1)
54	Yu (1)
55	Yu (1)
56	Y (4) , Ji (1)
57	Yu (1) , Su (1)
58	Yu (3)
59	Yu (1)
60	Yu (5) , f (2)
61	Yu(18)Ji(1),Su(2),H(1),f(5),C(1)
62	Co (1)
63	C (1)
64	Yu (5) , H (3) , f (1)
65	C (1)
66	f (4) , C (1)
67	Yu (1)
68	Yu (1)
69	Yu (1) , Co (1) , C (1)
70	Yu (1)
71	Yu (33) , Y (1)
72	f (2)
73	f (4) , C (10)
74	f (1)
75	C (1)
76	Yu (3) , C (1)
77	Y (1)
78	f (1)
79	Y (2) , Ji (2) , To (1)
80	Y (3)
81	Y (2) , f (1)
82	Yu (1)

Tab. 5　ピット群出土遺物表

Yu：夜臼，Y：弥生，Su：須恵器，H：土師器，Ha：土師質土器，G：瓦質土器，
K：黒色土器，Ji：磁器，To：陶器，M：不明土器，Co：石核，f：剝片，C：削片，P：礫

Ⅷ　ま　と　め

諸岡G区は1972年より続けられた諸岡丘陵調査の中でも 特に先土器～歴史時代に亘る各時代の生活遺構の存在を考える上で重要な地点であった。 ここでは住居地とこれに伴う遺構や墓地，更には生産遺構といった 基本的要素を含んだ各時代の遺構群が完全に備わっていることはないが，時代的に垣間みることの出来る断片をつなぎ乍ら,変遷を辿ることで本章のまとめとしたい。

先土器時代の居住は東斜面の新期上部ローム土に残された石器類によって知られる。 丘陵中腹部分の A区ではナイフ型石器・台形石器・台形様石器・彫刻刀型石器・削器・石核・剝片・削片のインダスストリーを持つ石器群がとらえられた。 また今回G区の西側ではこれに続く時期の石刃，剝片が少量共伴する包含層がみつかり， 後世の遺構覆土からは舟底型細石核が出土して，細石器文化の存在を裏付けたが,地形的には標高12mの下降した位置にあって生活場所の変移がみられるのは相異なる集団の去来を示すものであろうか。

縄文時代ではC区で早期末～前期にあたる押型文土器片が出土したにとどまり， 続く中～後期では生活痕跡をとどめない。 晩期になると確実な定住を竪穴住居址（ＳＣ－01）と豊富な遺物量をもって考えることができるがこれらが 弥生文化への移行期とどれ程の接近があるのかよく判らない。

弥生時代では前期の後半以降に丘陵南裾部は 一群の集落を形づくるのは確実とみられるが板付Ⅱ式土器と朝鮮系無文土器とが 共伴するピット群を残した人々との交渉事情については明らかではない。 続く中期～後期では墳墓地のみしか明らかとなっていない。

古墳時代では，諸岡丘陵周辺調査での出土遺物は皆無に近い。 わずかに丘陵尾根線から東裾に諸岡古墳群（５基）が形成され， Ｂ・Ｃ地区から同２号墳関係の円筒埴輪・須恵器などが検出されている。 諸岡G区では，ＳＫ０８から須恵器蓋が検出されている。

今回調査したG地区では， 古代末～中世の掘立柱建物・井戸などの 生 活 遺 構が確認された。建物の時期は２期にわたり，初め（Ⅰ期）は12世紀を前後するころの造営で，後（Ⅲ期）は大略14世紀頃の造営と考えられる。 Ⅰ期の下限は， ＳＥ02・ＳＫ05から出土した土師器で太宰府編年のＳＤ1330期に属する。 Ⅲ期では，糸切り底部の土師器に，龍泉窯系の青磁，白磁，片口鉢，土鍋などがあるが，土師器が細片なため， 限定した年代を限ることは難しい。

ところで，G区における遺構の構成は， 古代末～中世の集落（村）の調査例が少ないため比較資料に欠けるが，基本的には一つの生活単位と考えられる。Ⅲ期の構成に類似する遺跡として，那珂川町井手ノ原遺跡[註2]がある。 そこでは，一辺35～60mあまりの方形区画が数個検出され，その内側には数棟の掘立柱建物があって，各々独立した生活単位であり， 規模からみても，中世郷村の中間支配者層の家宅とするに相応しいとされている。 諸岡G区における第Ⅲ期の遺構は，さほど規模でないとはいえ， 郷村を形成する通有の階層というよりも，井手ノ原例に近い階層に属すると想定される。 諸岡丘陵に分布する中世の遺構は，かかる階層を含みつつ広く形成された郷村の一部をなすものと思われる。

（註１）　横田賢次郎・森田　勉「大宰府出土の土師器に関する覚書」九州資料館研究論集２　1976.3
森田　勉「大宰府出土の土師器に関する覚書(2)」九州歴史資料館研究論集３　1977.3

（註２）　「山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告』第２集　1976（福岡県教育季員会）

第3章　D—10aの地点

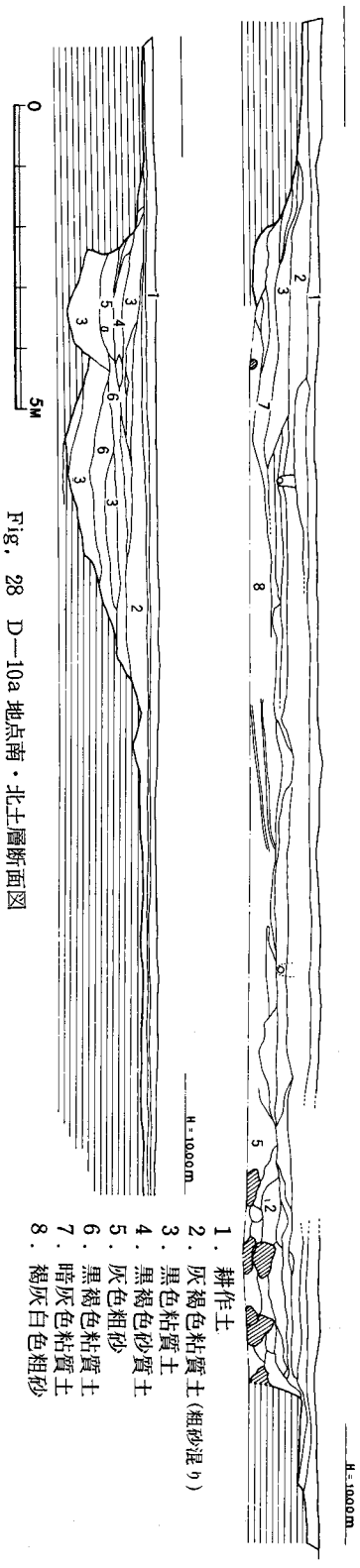
Ⅰ　調　査　概　要

D—10の地点は警察学校遺跡がのる低平な麦野丘陵が北端部でゆるやかに下り，沖積地と接する部分にあたる。調査は旧地形図（1/3000）の丘陵限界を目標にして西側から耕作土の除去を行なった。この結果西端部はローム土の丘陵が残っており，これ以東は失なわれていた。

遺構は全体で溝（3条—SD—01，03，04）と竪穴（1ケ所—SK—01）である。

古墳時代に位置づけられる溝（SD—01）は北側から蛇行し乍ら南へ貫流する巾5～6mをはかるものである。覆土は上下に亘って殆ど変化のない黒色粘質土（Fig.28）である。溝中には多量の流木・木製品と混雑して非常に沢山の古式土師器類がみつかっている。木器は主として大小の枘穴をもつ建築材や農具としての二又，三又鍬，竪杵，木槌，槌の子，槽や斎串らしい薄板の先端に削りを加えたものなどの不明木製品が多く，着柄されたままの二又鍬など特記される。土師器は小型丸底壺，高坏，壺，甕，鉢などであって前二者の量は膨大である。時期的には5世紀を前後するものである。また木器類はあまりにも出土点数が多いために未整理のままで報告は次回にゆずりたい。遺構の性格については不詳なところが多いが甕類，壺類の一部は煤を受けており，丹塗り土器も殆どみられないところである。

奈良時代以降では溝（SD—03，04）と竪穴（SK—01）が知られる。SD—03は丘陵を切って東西に伸びる幅3m程度の企画性のある溝であるが時期は全くしぼれない。SD—04は丘陵部のおちぎわに平行に走る小溝で奈良時代須恵器をかなり出土しているが，規模については不詳である。SK—01はこれらの遺構が埋没した後につくられた浅い不整な竪穴で白磁，布目瓦を多く出土して，近くに古代建物址のある可能性を示した。また丘陵東側縁辺部が本地点と同様であろうことは過去の調査からも予想されるところである。



Fig，28　D—10a地点南・北土層断面図

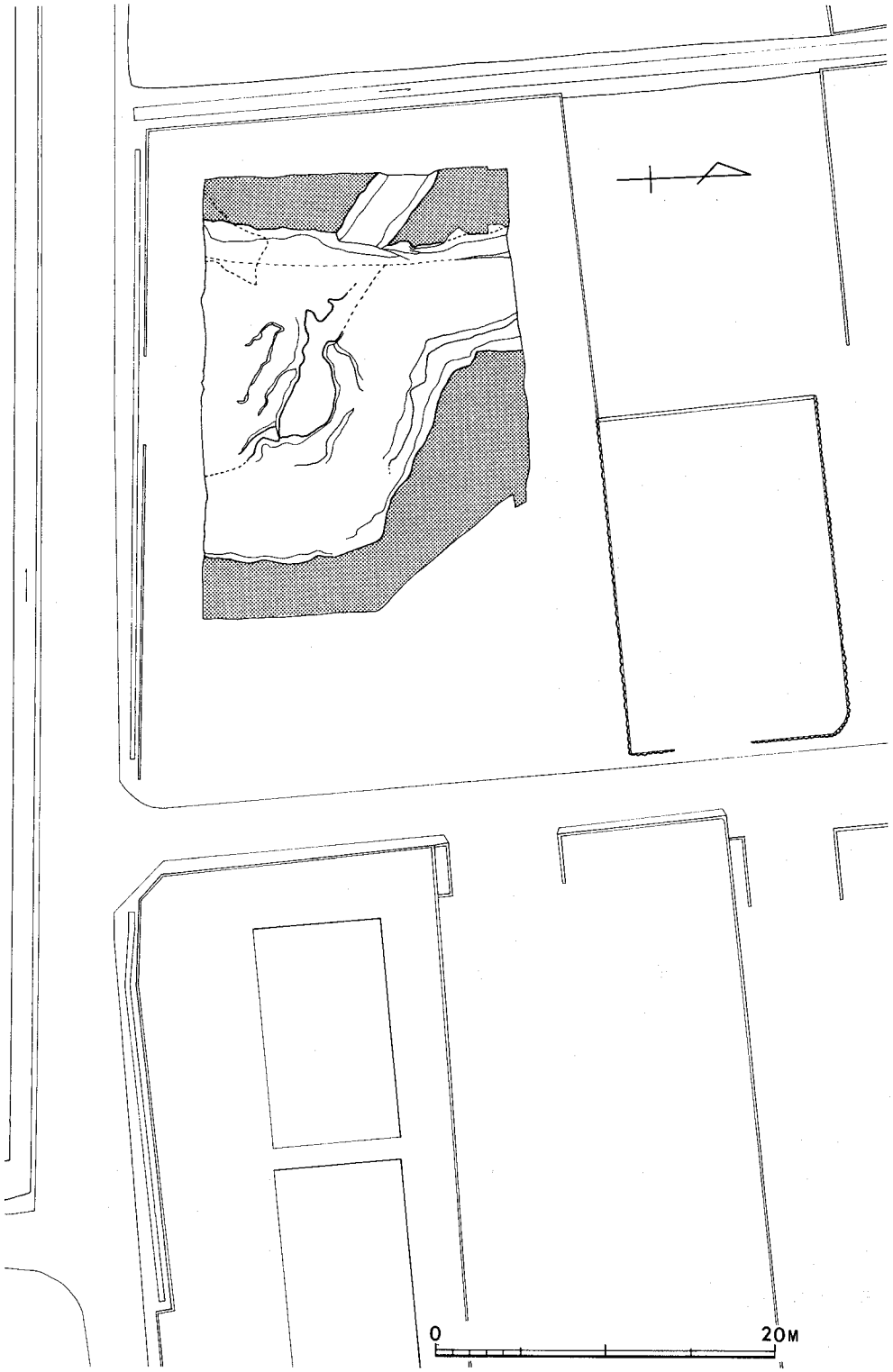


Fig. 29 D—10a 地点地形図 (1/400)

Ⅱ　弥生時代の遺物

甕形土器（Fig. 31.1～6.11）　1～3はいずれも破片である。1はいわゆる如意形口縁で口唇下端部に刻目を付す。2，3は逆L字状口縁の甕である。いずれも器面の風化が著しく調整は明らかでない。色調は淡褐色を呈する。4は口径12.9cmを測り，口縁部は小さく外反する。調整は口縁部がヨコナデ，胴部は刷毛仕上げ，外面には煤の付着がある。5は口径19.0cmを測る。口縁部は断面「く」字状を呈し，内面に稜をもつ。調整は胴部内外面が粗い刷毛，口縁部はヨコナデで仕上げている。色調は暗褐色を呈し，外面には煤が付着する。6は「く」字状に外反する口縁部に球状の胴部がつく甕で，口径22.0cmを測る。全体に刷毛目調整の後にヨコナデで仕上げている。色調は外面が赤褐色，内面は暗褐色。11は底部が凹み気味の平底で，底径9.8cmを測る。調整は外面が刷毛，内面はナデで仕上げ，指頭圧痕を多く残す。色調は外面が赤褐色。内面は黄褐色を呈する。

壺形土器（Fig.31，8～10，13～20）。　8は断面「く」字状の口縁部に球状の胴部がつく無頸壺で，口径11.0cmを測る。調整は口縁部内外面がヨコナデ，胴部外面は磨研，内面はナデ仕上げである。色調は灰褐色。9は強く外反する短かい「く」字状の口縁部に扁平な球状の胴部がつくもので，口径12.0cm，胴部最大径15.5cmを測る。口唇部には2孔1対の紐通し孔が穿たれている。口縁部内外はヨコナデ，胴部はナデ仕上げられ，淡褐色を呈す。13は口径15.0cmを測り，「く」字状の口縁部は大きく外反する。調整は口縁部内外がヨコナデの他はナデて仕上げる。色調は淡黄褐色。10は底径6.0を測る底部である。調整はナデて仕上げられ淡褐色を呈す。15は口径7.1cmを測る長頸壺の破片資料で，直口する頸部は緩くラッパ状に外反する。調整は外面が刷毛、内面はヘラケズリの後にナデて仕上げる。色調は淡赤褐色を呈する。4・16～20はいわゆる複合口縁の壺で，口縁部の形状により3種に大別される。口縁部が直線的に内傾するもの（14・16・20），袋状気味に内傾するもの（18・19），垂直に立ち気味のもの（17）がある。口縁部が直線的に内傾する14は口径13.8cmを測り，屈曲部に刻み目を施す。16は破片である。20は口縁部を欠き，短かい頸部下には「コ」字状凸帯が1条巡り，端部には櫛状工具による刻み目を施こしている。調整はいずれも口縁部内外がヨコナデの他は刷毛仕上げである。色調は14が暗褐色，16・20は淡褐色。18・19は口縁部の形状がもっとも袋状に近いもので，口縁に較べ短かい頸部をもつ。18は口径19.0cm。19は17.8cmを測り，頸部下にナデによるつまみ上げ気味の凸帯をもつ。調整は口縁部内外がヨコナデ，頸部内面は刷毛，外面は刷毛後にナデて仕上げている。色調は淡褐色。17は破片資料で，短かい頸部下につまみ上げ気味の凸帯をもつ。調整は内外面とも刷毛目を施こし，外面はその後にナデて仕上げている。色調は淡褐色を呈する。

蓋形土器（Fig. 31，7）　口径9.6cmを測り，口辺部に2孔1対の紐通し孔が穿たれている。磨滅が著しく調整は明らかではないが，外面は丹彩である。

高坏（Fig. 31，12）　底径18.1cmを測る脚部で，スマートな柱状部から裾部は大きく広がる。調整は裾部内外がヨコナデ，内面は絞りの後にナデ，外面は丁寧なナデ仕上げ。淡褐色。

Fig. 30 D—10a 地点遺構全体図 (1/100)

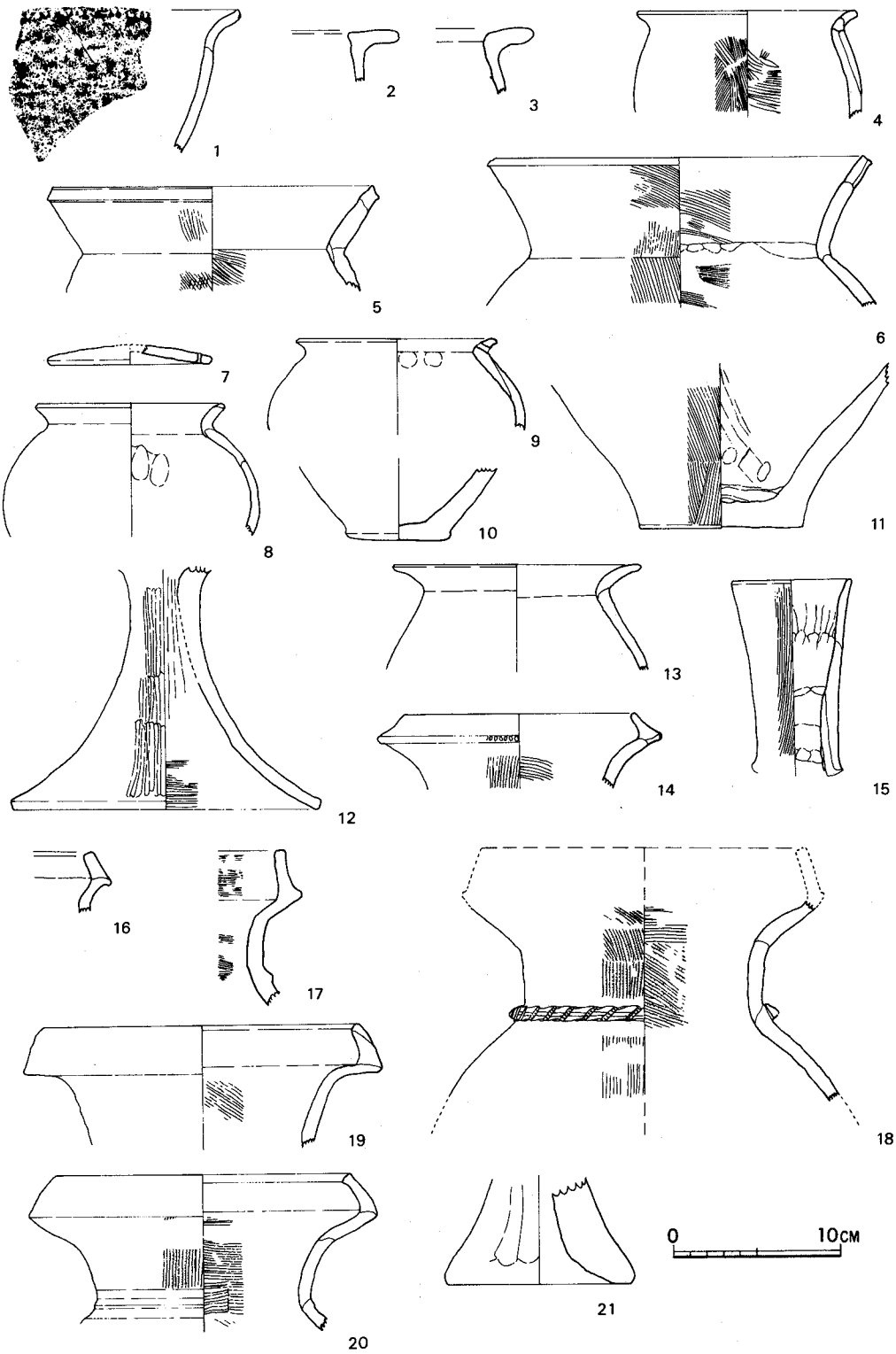


Fig. 31 D—10a 地点出土弥生式土器実測図 (¼)

器台形土器（Fig. 31，21）　脚台形11.0cmを測る。調整は風化が著しく明らかでないが指頭圧痕を多く残す手捏ね土器である。色調は淡褐色を呈する。

以上の弥生式土器は遺構を全くともなわない流れ込みで 1～4・7・10・14～18・20・21—SD—01，5・6・8・9・13・19—SD—04，11—SD—03の出土である。

Ⅲ　古墳時代の遺構と遺物

溝（SD—01）　（Fig. 30）

1　遺構　調査区北側から南に向ってゆるやかに蛇行する溝遺構である。壁面は北端部で西壁は鳥栖ローム土，東壁はよくしまった微砂質の灰白色砂層で構成されてあざやかな対比をみせている。また西壁は南側では丘陵縁辺部より離れ，奈良時代以降の溝と考えられるSD—03の延長上の溝（SD—02）と切りあっており旧上端部は区別できない。また溝SD—04に切られている。溝は全体的に壁面の出這りが多いものであるが北端では巾約7m，深さ約1mで東壁は階段状となる。中間点では幅を減じ約5m，深さ70～80cmとなる。また南端ではよく判らないが巾約4.5～5m，深さ70～80cm程度の規模となろう。流れは床面の凸凹がみられるが，大まかに北端部分と南側の木材類が多く集合した部分とが深くて溜り状となっている。覆土は単一な黒色粘質土で耕作下の灰褐色粘質土を除去すれば直に現れるが，東壁では溝の肩部の外側まで覆っている。覆土には全体に亘って木材，木器，各種土師器が数多く包含されていたが，南側の溜り付近では溝を横断する様な杭列が見付かった。この溝の流れは殆ど滞る程ゆるやかであったろうと推測できるが，何故この様に多量の木製品，土器類が殆ど完形のままで出土するのかといった遺構の性格に就てはよくわからない。

2　遺物（Fig. 34，41～59）　調査概要で述べた様に多量の遺物類が出土したが，膨大な量のため木材・木器類に就ては次回に譲ることとした。土師器類はFig. 35にみる様に分布しており，大きく南・北の二群に分けられ，小型ツボ＋高坏が基本的にあって，南群では高坏の出土が目立っている。出土した土器は特徴から粗々4群に分けられようが，作図したものの総量比はFig. 33の如くであって破片類を這入れても小型壺と高坏の優位は変わらない。**玉類**（Fig. 34）は南側東壁で4個出土した。1は管玉。長幅が17.5×4.5㎜，孔径2㎜，蛇紋岩製。2は勾玉。長さ95㎜，体部厚さ1.3㎜。孔径1㎜。滑石製。3，4は小玉。3はコバルトブルー色のガラス製。径4～4.2㎜。孔径1.8㎜。4は径3.5㎜。孔径1㎜。暗赤色で材質不明である。

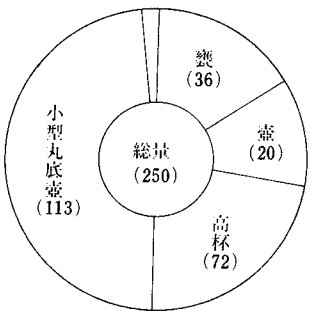


Fig. 33　SD—01出土土師器総量図

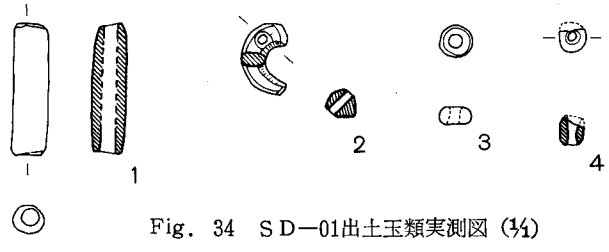


Fig. 34　SD—01出土玉類実測図（½）

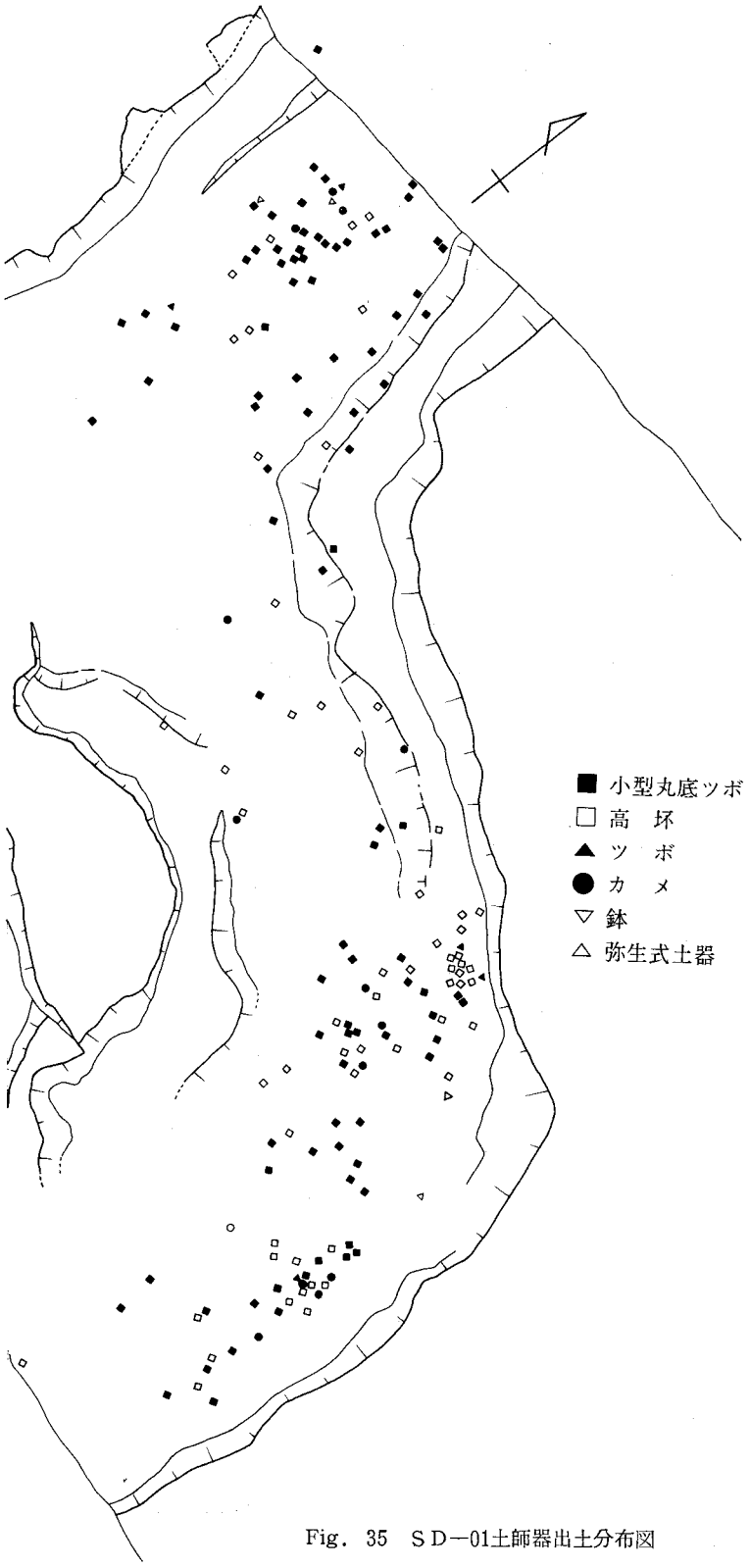


Fig. 35　ＳＤ—01土師器出土分布図

3　SD01出土の土師器の分類　(Fig. 36)

発掘区をS字形に蛇行し，南から北に貫ぬく溝状遺構（SD01）から，木器，木製品とともに，多量の土師器が出土した。

調査の概要で記したように，土師器の出土層位は，溝が厚さ0.4mあまりの黒色粘土層であり，「よどみ」状に少しくぼんだ南半部と北半部に集中する傾向がみとめられる。黒色粘土層の下には，土師器・弥生土器を混在する黒褐色粘土層があるが，まとまった出土状況をしめしていない。調査当初，黒色粘土層出土の土師器は一括性の強い遺物と考えていた。しかし整理の段階でかなりの年代幅をもつことが知られた。甕形土器を基準にすれば4つの土器群に大別され，最新の一群には須恵器の伴出が予想されたが，今回の調査では検出されていない。

黒色粘土層から出土した土師器は，完形品約140個体を含み，コンテナに約20箱ほどの総量である。時期によって器種の偏りがあり，必ずしも器種構成は充分とはいいがたい。

以下形態分類を行う。

甕　形　土　器

A_1　体部を欠き全形を知ることはできない。おそらく，尖りぎみの不安定な平底ををもつ倒卵形の体部と思われる。口縁部はするどく外反し，端部は尖りぎみにおわる。体部外面のタタキ目の幅は粗い。内面はヘラ削り。

A_2　口縁部はするどく外反し，端部は外上方に短かくつまみだされる。体部は球形で，尖りぎみの不安定な平底をもつ。器壁は0.4～0.9cmと全体的に厚い。体部外面は右上りのタタキ目の上を部々的にハケ目を加える。内面はハケ目調整。タタキ目の幅は粗い。

A_3　口縁部はわずかに屈曲しながら外方にのび，端部は上方につまみあげられ稜がつく。器壁は0.3～0.4cmと薄く仕上げられる。体部外面のタタキ目の幅は狭い。内面ヘラ削り。いわゆる「庄内式」甕形土器に類する特徴をもつが，胎土・色調は在地のものに等しい。

A_4　口縁部は内弯ぎみに外上方に開く。端部は外上方にひきだされる。体部は粗いタタキ目上をハケメ調整。内面ヘラ削り。器壁は0.3～0.6cmとやや厚みをもつ。

B_1　口縁部は屈曲しながら外反し，端部は外傾する面をなすものと内方に肥厚するものがある。体部外面は細かいハケ目，内面はヘラ削り。

B_2　口縁部は長く，屈曲しながら外反し，端部は面をなすもの，丸くおわるものがある。体部は球形，下膨れのものがある。器壁は厚い。

B_3　口縁部は短かく外反し，端部は面をなす口縁部の器壁は厚い。体部は球形をなす。

B_4　口縁部は直線的に外開し，端部は丸くおわる。体部は長めの球形をなす。

C_1　頸部の境は不明瞭。口縁部は内弯ぎみに外上方に開く。体部は卵形か。

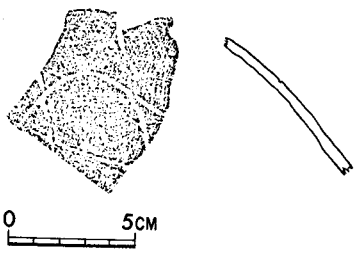


Fig. 37　SD—01出土土師器拓影

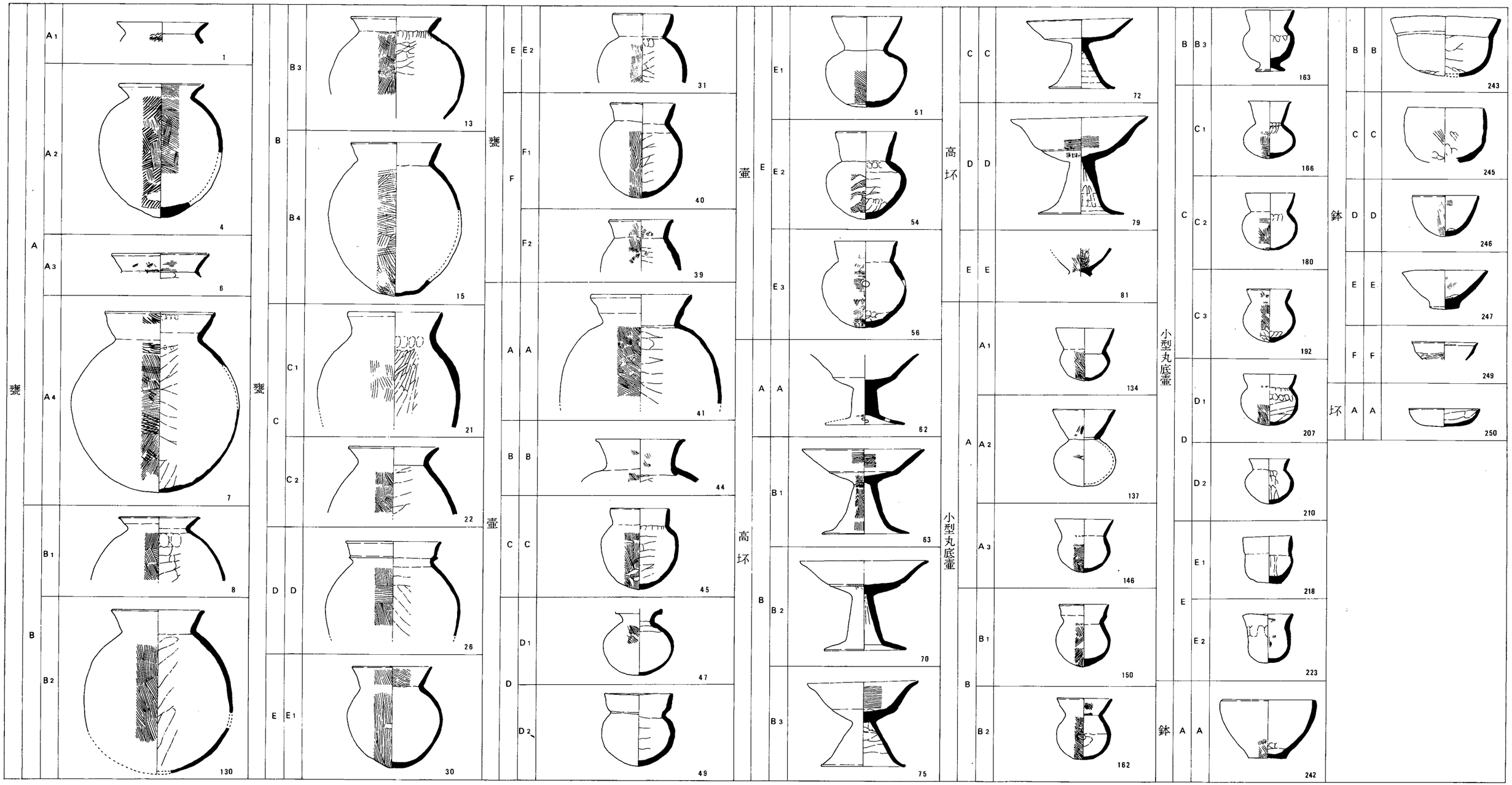


Fig. 36 SD−01出土土師器分類図 (1/6)

C_2　頸部の境は不明瞭。口縁部はわずかに外反し，端部は外傾する面をなす。体部の形態は不明である。

D　二重口縁のもの。頸部は強くしまり，口縁部下端の稜はするどく突出し，口縁端部は外方に肥厚するもの，水平な面をなすものがある。体部は球形，器壁は0.3～0.5cmと全体的に薄い。体部外面のハケ目は特徴的で，肩部に櫛目刺突文をめぐらすものもある。胎土・色調は在地のものと異なる。山陰地方の土器である。

E_1　器高17～18cmの小形のもの。口縁部はわずかに屈曲しながら外方にのびる。体部は卵形か球形をなす。

E_2　E_1 と同形態のもので，口縁部が内弯ぎみに外方にのびる。口頸部が高く，壺としたほうがよいかもしれない。

F_1　Eと同じ法量のものだが，頸部の境が不明瞭なもの。口縁部は，内弯ぎみに外方に開く。

F_2　F_1 同形態で，口縁部がわずかに外反するもの。

壺形土器

A　大型のもの。口縁部は屈曲しながら外方に開く。口縁部中位以下にわずかに突起する帯がめぐり二重口縁ぎみである。体部は卵形か。外面ハケ目，内面ヘラ削り調整。

B　口縁部は直線的に外方にのび，端部は面をなす。体部の形態は不明。本地域では例の少い形態である。

C　器高12～15cmの小形のもの。口縁部は直立もしくは内弯ぎみに短かくのびる。体部は球形。

D_1　器高12～13cmの小形の二重口縁のもの。頸部は強くくびれる。口縁部上半を欠き全形はわからないが，口縁部下端がわずかながら下方に肥厚する点や，胎土中にチャート細粒を含む点から在地の土器とはみとめられない。外来の土器であろう。

D_2　頸部は強くくびれ，屈曲しながら外方にのびる口縁部をもつ。外面の稜は明確でないが二重口縁ぎみである。体部は尖りぎみの球形。

E_1　13～17cmの小形のもの。口縁部は内弯ぎみに大きく外上方にのびる。体部は球形もしくは尖底ぎみである。

E_2　E_1 と同形態のもの。口縁部が直線的に外方にのびる。

E_3　口縁部は短かく，内弯ぎみあるいは直線的に外方にのびる。体部は球形，尖りぎみのものもある。体部中位よりやや上方に焼成前に穿孔したものもみられる。

F　形態分類図に入れていないが，口縁部は直線的に外反し，端部はするどい面をなすもの。

高坏形土器

A　坏部下半は内弯ぎみにのび，上半部との境は稜をなす。上半部は直線的に大きく外方にのびるものと，稜よりやや上方で屈曲して外反するものがある。脚部は柱部が中実のものと中空のものがある。柱下部で屈曲して広く外開する。裾部に4個の透し円孔がある。細かい

ヘラミガキを施す。

B_1　坏部下半は，内弯ぎみに短かくのび，上半部は直線的に外方に大きくのびる。脚部は柱下部がゆるく屈曲して外開する。ヘラミガキを施すものと，ハケ目を残すものがある。脚柱部内面はヘラ削り。

B_2　坏部下半は，水平または内弯ぎみに長くのび，上半部は外反するものが多い。上半部の長さは下半部に等しいか，やや長い。脚部は直線的にのびる柱部から屈曲して外開する裾部に続く。柱部内面はヘラ削り。ヘラミガキを施すものはない。

B_3　坏部下半は内弯ぎみに短かくのびる。上半部は外反するものと直線的に外方にのびるものがある。上半部の長さが下半部を上まわる。脚部は基部からラッパ状に外開し，裾部で小さく外方にのびる。柱部内面はヘラ削り。ヘラミガキを施すものはない。

C　坏部下半が水平に長くのび，上半部は短かく，外反するもの，直線的に外方にのびるものがある。脚部は細い基部からゆるく外開し，裾部で小さく外方にのびる。柱部内面はヘラ削り。ヘラミガキを施すものはない。

D　杯部の上・下半部の境が明瞭でなく埦形に大きく開くもの。脚部は柱下部でゆるく外開する。柱部内面はヘラ削り。ヘラミガキを施すものはない。

E　小さな埦形の坏部をもつもの。脚部の形態不明。

小形丸底壺

Aは口径が体部径より大きいもの。**B**はほぼ等しいもの。**C**は口径より体部径が大きく口縁部が長くのびるもの。**D**は口径より体部径が大きく口縁部が短いもの。**E**は頸部のくびれが弱くビーカー状の器形のものに分けた。体部外面の調整はハケ目，ナデ，ヘラ削りが，内面はナデ，ヘラ削り，ナデアゲがあるが，煩雑になるので遂一述べない。なおヘラミガキを施すものはみとめられない。

A_1　口縁部が内弯ぎみに外上方に大きくのびるもの。

A_2　頸部が強くしまって，口縁部は外上方に大きくのびる。体部は丸みをもつ。小形丸底壺よりも，小形壺の範ちゆうに入るであろう。

A_3　口縁部はA_1よりも短かく，外方にのびる。内弯ぎみのもの，外反するものがある。

B_1　頸部が強くしまり，屈曲したのち外上方に短かくのびる口縁部をもつ。内面に弱い段をもつものもあり，二重口縁の退化したものか。

B_2　ゆるく屈曲しながら外上方にのびる口縁部をもつもの。体部下半にヘラ削りを施すものがある。

B_3　B_2と同形態のものの底部に，小さい脚台を付したもの。体部外面はすべてナデ調整。

C_1　口縁部が外上方に大きくのびる。このなかには，端部を外上方にひきだす口縁部で尖底ぎみの体部をもつ一群が特徴的に存在する。

C_2　C_1と同形態だが，口縁部がやや短かいもの。体部外面にヘラ削りを行うものがある。

C_3　C_2よりさらに口縁部の短かいもの。つぎの**D**形態との区別は困難で，**D**に含ませた

ほうがよいかもしれない。

D_1　口縁部が短かく，内弯ぎみに外上方にのびる。

D_2　口縁部が短かく，外反するもの。

E_1　口縁部が内弯ぎみに上方にのびる。口縁部が全体的に肥厚するものがある。端部はいずれも尖りぎみにおわり，体部はナデ調整が主体を占める。

E_2　口縁はわずかに外反する。**E_1** と同じく，口縁端部は尖りぎみにおわり，体部外面もナデ調整で，ハケ目の残存は少ない。E形態は，小型丸底壺とは異なる系譜にあるものかもしれない。

鉢　形　土　器

出土点数が少なく，1形態1点である。タタキ目をもつものはなく，調整はハケ目，ナデを行っている。

A　口径15cmの中形品で，突出した平底に内弯ぎみの体部をもつ。

B　口径20cmほどの中形のもの。屈曲して内弯ぎみに開く，口縁部をもつ。

C　体部径14cmの中形のもので，口縁部のすぼまる塊形をなす。

D　口径，器高とも10cmほどの小形のもので，不安定な丸底をなす。器壁は全体的に薄い。

E　口径15cmの中形のもの。安定した平底に，外方に開く体部をもつ。

F　口径10cmあまりの小形のもので，口縁部の下方で稜がつく。器形は明らかでない。

坏　形　土　器

1点のみの出土である。口径12cmほどの浅い皿状の器形である。内，外面とも細かいヘラミガキを施す。

4　群　の　設　定

出土した土師器の分類は以上のとおりであるが，これは器種ごとに形態，手法の差異をもって区分したにすぎず，編年等は考慮していない。形態分類の初めに，出土土師器は大きく4群に区分されるとした。それは，甕形土器に特徴的にみとめられる手法・形態上の差異によるもので，他の器種のばあい必ずしも相応するものがあるとはかぎらない。

まだ出土土師器の観察が充分に整理されていないので，ここではまず甕形土器における差異とその推移を記すにとどめ，各群の器種構成や編年的位置については次回の報告に行いたい。

Ⅰ群　**A1・2・3**がある。口縁部は体部からするどく屈折して外上方に開き，体部外面にタタキ目を残す。**A1・2**は右上りの粗いタタキ目，**A3**は左上りの細かいタタキ目である。内面は**A2**を除いてヘラ削りを行い，頸部内面は稜線をなす。**A・1**の底部は不安定な小さな平底。

Ⅱ群　**A4・B1**がある。口縁部と体部の境はヨコナデされてくびれる。口縁部はわずかに屈曲して内弯ぎみに外方に開き，端部に外傾したり，内面が肥厚するもの，あるいは内面に段がつくものがある。頸部内面もナデが行なわれ段をなす。体部外面はタタキを残すものも

あるが，細かいハケ目が基本である。

Ⅲ群　B2・3・4がある。口縁部はゆるく屈曲しながら外方にのびる。体部は長めの球形が多く，器壁も厚くなる。体部外面のハケ目に粗く雑なものがあらわれる。

Ⅳ群　C1・2がある。口縁部へ体部の境は不明瞭となり，体部は長めの球形である。外部外面のハケ目は粗く雑なものが多く，器壁も厚めである。内面はヘラ削りとナデ調整がある。

以上のように，甕形土器はⅠ～Ⅳ群に大別されるが，系譜の問題を含めて，次回に詳述したい。

Ⅳ　奈良時代以降の遺構と遺物

1　溝

SD—04（Fig. 30）　本遺構は台地縁辺部に沿い南北に走る溝である。東側肩部は古墳時代溝の覆土を切っているため脆弱で調査中に崩落する事が多く，形状・規模ともに上端では正確には把めなかった。北側ではこれの一部をうかがうことができ，幅1.4～1.7m，深さ70cm程度の規模をもっている。南半部も粗砂層にあって壁が不明瞭で，南壁土層断面（Fig.28）でも壁の立あがりは観察できなかった。

遺物は土師器壺・盤・須恵器坏・長頸壺類である。

土師器（Fig. 38—1～3，9）

壺　1は球状胴部から短く外方にひらく口縁をもつ。口縁内外面はヨコナデ。体部外面はタテハケ目。内面は頸部ヘラナデ，体部はヘラケズリ。暗褐色。焼成堅緻。口径10cm。2は算盤形にととのった胴部に長い内弯気味に外方に伸びる口縁をもつ小型丸底壺である。口縁内外面はヨコナデ。体部外面はハケ目，内面上部に指おさえ，口径5.6cm。高さ9cm。3は扁球状の胴部をもち，底部は若干尖る。外面の一部にハケ目をのこす。内面はヘラケズリ。

これらは古墳時代溝（SD—01）からの混入であろう。

盤　3は不安定な底部からゆるく立あがる胴部に短い直立する口縁をもつ。暗黄褐色。焼成堅緻。口径16cm。底径6.8cm。器高2.9cm。

須恵器（Fig. 38，4～8，10～12）

坏　4は器壁の薄い精良品で，立あがりは内傾気味である。内外面ともにヨコナデ調整。赤味をおびた灰色。口径11cm。5は立あがり内傾して，端部は立つ。受部も同様に小さい。底部外面下半にヨコヘラケズリ。他はヨコナデ。黒灰色。焼成堅緻。口径11cm。6は体部が埦形に似て丸く，口縁はゆるやかに外反する。底部は安定した細身の外開き高台を付す。内外面ともにヨコナデ。ロクロ回転は逆時計まわり。外面灰黒色，内面灰色。焼成堅緻。口径15.8cm，底径9.2cm，器高5.2cm。10は底部最外端に低く，細い直立する高台を付する。やや赤味をおびた灰色。内外面ともにヨコナデ。底径8cm。

壺　7は頸部がゆるく外反し，端部が肥厚する口縁破片。内外面ともにヨコナデ。淡灰色。焼成堅緻。口径11cm。

甕　8は安定した底部破片である。体部外面はヨコナデ，内面はナデ。底部外面は切離し後

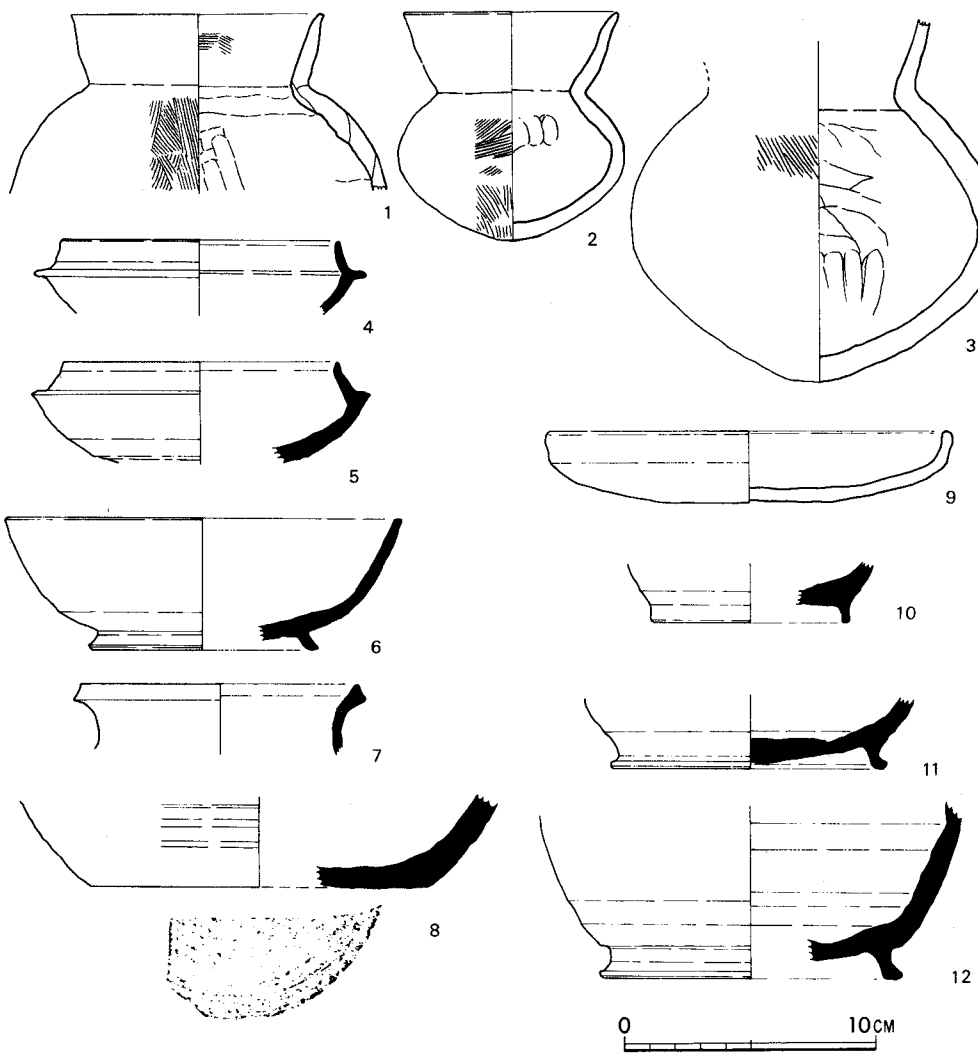


Fig. 38　SD—04出土土器実測図（⅓）

にヘラケズリ。内外面ともに緑色をおびた灰色。焼成堅緻。底径13.4cm。

長頸壺　11は坏部の底部外端いっぱいに張出した位置に安定した低い高台を付す。外面はヨコナデ後に部分的にナデ。内面は体部ヨコナデ，底部はナデ調整。淡灰色。焼成堅緻。底径11cm。12は11と同様の低い安定した高台をもち，体部の屈折部近くまでを残す。体部下半の下位はヨコヘラケズリ，他はヨコナデ。内面は全てヨコナデ。淡灰色。焼成堅緻。底径12cm。

SD—04は時期的にSK—01で出土した布目瓦と関連をもつものと考えられる。

2 土　　坑

SK01

本土坑は，台地端を南北に掘削したＳＤ04埋没後に行なわれたものである。水田開墾時に相当削平されたと思われ深さ20cmにみたない。平面形は不整な矩形を呈し，長辺８m，短辺５mを測る。

ＳＫ01出土遺物

ＳＫ01埋土から出土した遺物は，パンコンテナで３箱ほどになる。弥生式土器・古墳時代須恵器を除けば，大半は奈良時代に属する。いずれも細片となって図示できるものは少ない。とくに全体の¾をこえる土師器甕・坏は図化しうるほど復原できなかった。

須恵器

坏（１）　古墳時代に属する。口径10cm，立上り高1.3cm。口端内面に鈍い段を付す。ⅡＢ期

蓋（２～６）　口径14～16cmの中型と，13cmほどの小型のものがある。２～４はヘラ削りされた平坦な天井部をもち，体部との境に稜がある。５・６は鋭く内折して嘴状の口縁部をなす。

歴史時代の坏は，高台のないＡと，高台をもつＢがある。

坏Ａ（７・８）　底部はヘラ切り離しの後にナデ調整され平坦である。体部は外方に直接的に開くものと，内弯気味にのびるものがある。

坏Ｂ（９～Ｂ・15）　高台が高く外方にふんばる形態のもの（12・13・15），断面四角形のもの（11），細く内方に傾くもの（10），扁平で体部との境近くにつくもの（９）がある。

皿（22）　口径17cm，体部は外反し，口端部は尖りぎみにおわる。

鉢（22）　体部下半を欠く。口径18.5cm口縁～体部内・外面はロクロナデ。

他に平瓶と思われる部破片（16）がある。

土師器

坏Ｂ（16～21）　高台のつく坏である。全形を知りうるものはない。外底はすべてヘラ切り離しで後にナデ調整を加えたものと不調整のものがある。

皿（23）　口径約18cm。口縁部内・外面ロクロナデ。底部はヘラ切り後ナデ調整を加える。

土師器としては，他に甑の把手がある（27・28）

黒色土器（26）器形の不明なもの，突出する底部（？）外面は丁寧にナデ調整されている。内面は丁寧なミガキが施され，黒色を呈し，外面は明灰褐色である。

瓦・塼類（Fig. 40）

パンコンテナ８分目ほどの瓦・塼片が出土した。種類は丸瓦・平瓦・塼で，軒先瓦，道具瓦は検出できなかった。

丸瓦　点類も少なく小破片のため，全体を知りうるものはないが，玉縁付丸瓦のようである。行基葺丸瓦は見あたらない。側面調整は半截したまま，タタキ文様は縄目文のみである。

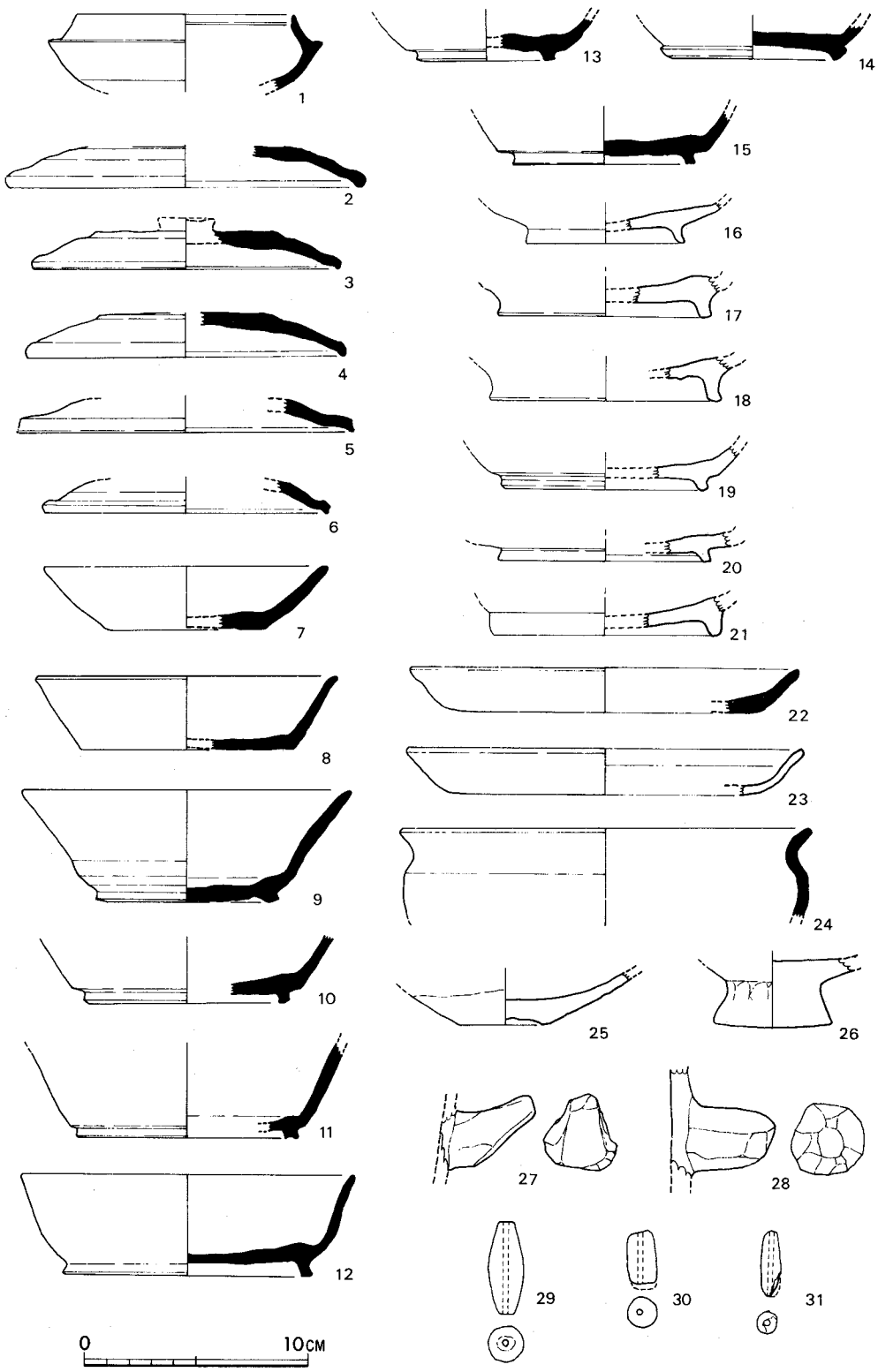


Fig. 39 SK−01出土遺物実測図 ①

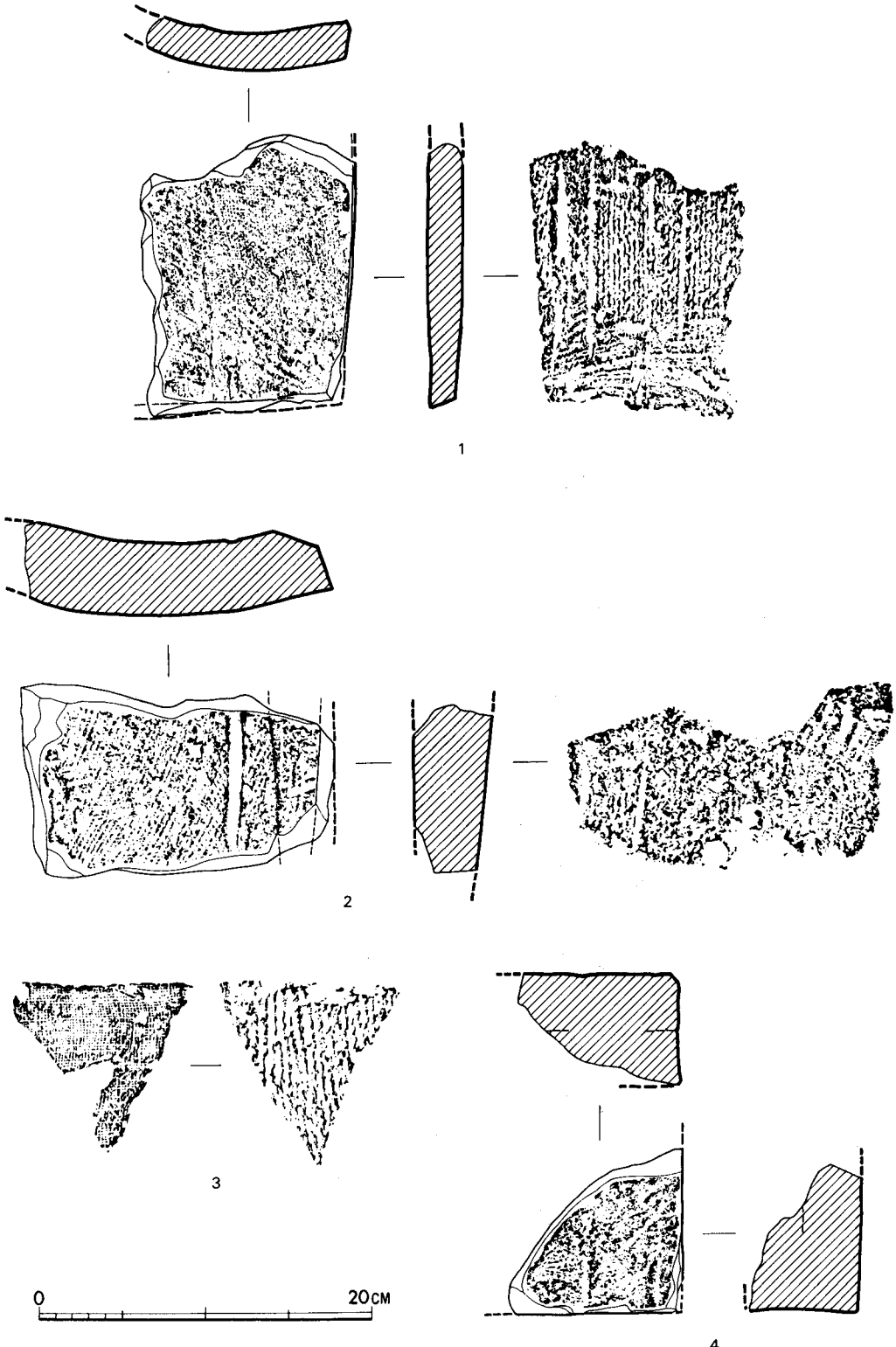


Fig. 40 SK—01出土遺物実測図 ②

平瓦　全出土量の80%を占める。厚さ，調整手法で二種類に区分される。一種（1・3）は厚さ1.5㎝程度で，側面調整は1回ないし2回（うち1回は面取り）のヘラ削りを行っており，その角度は，凹面に対して直角ないし鋭角である。タタキ文様は縄目文（三種）のみである。色調は，灰色，白灰色，赤みがかった褐色等がる。

他の一種（2）は数片しか出土していないが，厚さが4.5㎝もある。側面は2回のヘラ削りによって調整している。色調は白褐色・淡褐色がある。このように厚さが4.5㎝もある瓦は，北部九州では筑前怡土城に見られるのみである。点数が少なく小破片であるため，相互の関係は明らかにしがたい。

塼（4）　小破片が数点出土している。図示したものは形の知りうる唯一の例である。大きさはわからないが，厚さは約7㎝である。本例は粘土板を2枚あわせてつくる。他例では不明。砂粒を多く含み，白色，灰色，淡褐色のものがある。

タタキ文様（1～3）　丸瓦・平瓦とも縄目文に限られる。破片が小さいため詳細な区分はできないが，三種類がみとめられる。1およびそれに類するものが最も多く，2・3は少ない。

V　ま　と　め

D－10a地点は麦野丘陵の北端にあたり，丘陵地と沖積地に境する地点である。今回の調査によって従来不明であった麦野丘陵縁辺部の様子の一端に触れることができたと考える。また出土した遺構・遺物は弥生時代～奈良時代以降に及び沖積地を狭んで北側に対峙する板付丘陵上の各時代遺構群との関連を知る上で諸々の材料を提供したといえる。

ここでは過去のD－10aの地点周辺の成果をふまえて各時代について箇条的にまとめたい。

弥生時代では遺構はみあたらないが，SD－01覆土下の灰白色粗砂層（八女粘土層上にのる）で遺物が出土した。前期では（板付Ⅱ式）板付南丘陵南端部で生活遺構，例えば袋状竪穴（F－8地点①），丘陵端部を縁どる小溝（D・E－9地点②）などが検出されており，出土した小量の土器片ではあるが同期の居住が想定される。続く中期中葉～後期に至っても生活遺構の存在を考えることができよう。

発掘区で検出された遺構は，すべて古墳時代以降に属する。溝は4条検出され，台地東側を蛇行しながら北流する溝SD01と南北にのびるSD04，台地を東西に切断した溝SD02およびその延長と思われるSD03がある。土坑SK01は溝SD04埋没後に堀削されている。

古墳時代に属する溝SD01は，2ケ所に深い「よどみ」があること，水が流れた痕跡が希薄な点から，用水路として機能したとは考えられない。また人工の掘削によるものか，あるいは弥生後期～古墳前期初頭頃に沖積化の過程で生じた小河川敷の痕跡か，現段階で確定することはできない。

SD01には多量の土師器と木器，木製品が出土した。出土遺物が多岐にわたり，また多量のため充分な整理がいきとどかなかった。そのため木器関係についてはすべてを，土師器の

検討についても次回の報告に回さざるをえなかった。

出土した土師器は，甕形土器で4群に大別された。在地の土器以外に，外来系のものや明らかに外からの搬入とみとめられる土器もある。その一つに，Ⅰ群に伴うと予想される二重口縁の甕Dがあるが，他については今後産地の同定を行っていかねばならない。4群の土器のうち，その大半を占めるものはⅢ・Ⅳ群であり，とくに完形品の高坏・小形丸底壺の出土量が多く，また管玉・小玉などが伴出した点などを考慮すれば，出土土師器の後半の群は祭祀的な要素を示唆する点が少くない。しかしその内容も今後の検討に待つことにしたい。

奈良時代には，台地東縁部を削除して南北にのびる溝SD04がある。東側肩は砂層中にあるためその境は明瞭でない。SK01はSD04埋没後に，その上部から台地上に掘削された不整形の土坑であって，ほぼ奈良時代前期から末葉にわたる須恵器・土師器が出土した。その中には瓦・塼が含まれている。後の混入遺物はないため，ほぼ奈良期に属する瓦類と考えて差しつかえないであろう。かつて調査したB—12[3]の地点でも瓦破片が採集されており，現在警察学校のある台地上に奈良時代に属する寺院か官衙が営まれた可能性がつよい。昭和10年代の後半に，この台地が削平された際，多量の瓦が出土し，又，礎石らしき大石が相当に残っていたと伝えられている[4]。今日，何ら知るすべをもたないが，この地にかかる建物群が存在したとするならば，律令時代における那珂郡の郡衙が西に平行してのびる那珂丘陵上に想定されることを含めて，律令時代那珂郡の復原に一つの資料を提出するものと考える。

註 ① 『板付周辺遺跡調査報告書3』所収（福岡市埋蔵文化財調書報告書36集） 1976
② 『板付周辺遺跡調査報告書2』所収（福岡市埋蔵文化財調書報告書31集） 1975
③ ①文献所収
④ 『福岡市埋蔵文化財遺跡地名表（総集編）』（福岡市埋蔵文化財調査報告書12集）1971

SD01土師器観察表

—凡　例—

- 出土層位は黒色粘質土層である。
- 番号上段はFig番号、中段は登録番号、下段はＰＬ番号である。
- 法量については甕・壺・坏類と高坏に区別する。

※印は復原径である

甕・壺・鉢類	高杯
1.口　径	1.口　径
2.体部径	2.脚基部
3.器　高	3.脚端部
	4.器　高

- 備考　１胎土、２焼成、３色調、４その他である
- 甕形土器→甕，壺形土器→壺，高坏形土器→高坏，小型丸底壺→小丸，鉢形土器→鉢の略である。

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
1 381	甕 A_1	1. 15.0* 2. 3.	体部上半¼残存。 口縁部は短く「く」の形に外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部外面上半はタタキ目。 両面とも磨滅がはげしい。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗褐色 4. 外面スス付着
2 338 PL.17	甕 A_1	1. 2. 3.	体部下半残存。 底部は小さく不安定な平底。	体部内面は細いハケ目、外面は粗いタタキ目後ヨコナデ・ナデ。底部内面はユビオサエ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 黒褐色 4. 外面にスス付着
3 339 PL.17	甕 A_1	1. 2. 3.	体部下半残存。 底部は小さく不安定な平底。	体部内面はタテ・ヨコのナデ、外面は平行タタキ目後ナデ。底部内面はユビオサエ、外面はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 黒褐色 4. 体部に黒斑
4 059−1 PL.17	甕 A_2	1. 14.2 2. 20.6 3. 22.2	完形品。 口縁部は短く「く」の形に広く外反し、端部は外上方に引き出され尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形で、底部は小さく不安定な平底。	口縁部内面はヨコハケ目。端部内面から外面はヨコナデ。頸部内面はナデ、体部内面は粗いハケ目（下半は剝離のため調整不明）、外面は右上りの粗いタタキ目後粗いハケ目、底部はナデ。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 外面にスス付着
5 385 PL.17	甕 A_3	1. 15.8* 2. 3.	体部欠損。 口縁部は外上方に直線的にのびる。端部は上方に短く引き出され、外面に稜を有す。頸部内面はするどい稜を有す。	口縁部内面はヨコハケ目後ナデ。外面は左上りのハケ目後ナデ。体部内面はヘラ削り。	1. 密：白雲母・砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 外面にスス付着
6 386	甕 A_3	1. 15.9* 2. 3.	体部欠損。 口縁部は外上方に開く。端部は上方につまみ上げ外面に稜を有す。 頸部内面はするどい稜を有す。	口縁部内面はヨコハケ目後ヨコナデ。外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り。	1. 密：雲母・小砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 外面にスス付着
7 125	甕 A_4	1. 18.0 2. 36.6 3. 30.0	完形品。 口縁部は内弯気味に外上方に開く。端部は外上方に引き出され尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	体部体面はヨコナデ、端部はユビオサエ。外面は頸部までタタキ目後ヨコナデ。体部内面は頸部がユビオサエ、以下はヘラ削り。外面は水平と左上りの粗いタタキ目後細いハケ目。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 外面にスス付着
8 387	甕 B_1	1. 13.4* 2. 3.	体部下半欠損。 口縁部は内弯気味に外上方に短く開く。端部は外傾する面をもち、内方にわずかに肥厚する。頸部の境はわずかに凹む。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はヨコナデで段がつく。体部面は右方向のヘラ削り。肩内面はユビオサエ。外面は細いハケ目。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 外面にスス付着
9 058 PL.18	甕 B_1	1. 14.9* 2. 21.6* 3.	体部下半欠損。¾残存。 口縁部は内弯気味にのびる。端部は面をなし内方に小さく肥厚する。頸部の境は明瞭。体部は肩の下がる球形。	口縁部内面はヨコハケ目、先端部から外面はヨコナデ。頸部内面はナデ。体部内面は左方向のヘラ削り、外面は粗いタテハケ目。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. やや密 3. 暗褐色 4. 外面にスス付着
10 359 PL.18	甕 B_2	1. 15.0 2. 3.	体部下半欠損。 口縁部は「く」の形に外反し、端部は外方に引き出され面を有す。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はナデ。体部内面はヘラ削り、外面は細いハケ目後ナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 外面にスス付着

甕形土器

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
11 130 PL.18	甕 B_2	1．15.6 2．24.5 3．27.5	体部下半一部欠損。 口縁部は「く」の形に外反し、端部は外方に引き出され面を有す。頸部の境は明瞭。体部は下膨みの球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はナデ、肩部外面はヨコナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面は粗いハケ目。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．黒褐色 4．外面にスス付着
11 349 PL.18	甕 B_2	1．9.4 2． 3．	体部下半欠損。 口縁部は「く」の形に外反し、端部は水平に面を有す。頸部の境は明瞭。 体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目を残し後ヨコナデ。 体部内面は右上方向のヘラ削り、外面は不定方向のハケ目。	1．粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．外面にスス付着
13 350 PL.18	甕 B_3	1．15.0 2．22.3 3．	体部下半欠損。 口縁部は短く「く」の形に外反し、端部は外方に引き出され、先端面に段がつき丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。肩部内面はユビオサエ。体部内面中位までは右上方向のヘラ削り、以下はヘラ削り後ナデ、外面はタテ・ヨコのハケ目後ナデ。	1．やや密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．黒褐色 4．外面にスス付着
14 337	甕 B_3	1．17.0* 2． 3．	口縁部~頸残存。 口縁部は外方にのび、端部は面を有す。	口縁部内・外面はヨコナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．軟質 3．黒褐色 4．外面にスス付着
15 087 PL.18	甕 B_4	1．15.0 2．22.0 3．25.5	完形品。 口縁部は短く「く」の形に外反し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は倒卵形。	体部内・外、肩部外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、底部はユビオサエ外面は粗い不定方向のハケ目。	1．やや密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．外面にスス付着
16 112 PL.19	甕 B_3	1．15.0 2．22.4 3．	体部下半欠損。 口縁部は短く内弯気味に開き、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は不定方向のヘラ削り、外面はハケ目。	1．やや密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．外面にスス付着
17 358	甕 B_4	1．17.0 2．25.4 3．	体部下半欠損。 口縁部は外反し、端部は外方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はハケ目後ヨコナデ。頸部内面はユビオサエ。体部内面は右方向のヘラ削り、外面はハケ目。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．外面にスス付着
18 162 PL.19	甕 B_2	1．15.8 2．23.8 3．25.1*	底部一部欠損。 口縁部は短く屈折しながら外反し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はナデ。体部内面は底部より右方向のヘラ削り、外面上半は口縁部より続くヨコナデ、以下はハケ目。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗茶褐色 4．外面にスス付着
19 059—2 PL.19	甕 B_4	1．15.7 2．22.1* 3．	体部下半欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はナデ。内面・肩には粘土鉦接合痕を残す。体部内面上端は右方向のヘラ削り、上半より中位は右上方向のヘラ削り。外面上半は口縁部より続くヨコナデ、以下はハケ目。	1．やや粗：中砂粒を含む 2．堅緻 3．黒褐色 4．外面にスス付着
20 340 PL.19	甕 C_1	1．18.0 2．25.4 3．	体部下半欠損。 口縁部は長く内弯気味にのび、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は不明瞭体部は肩の下がった球形。	口縁部内面は横方向のハケ目、外面は斜行するハケ目。頸部内面は右方向のヘラ削り、外面はヨコナデ。体部内面は左上りのヘラ削り、外面は粗いハケ目。	1．粗：粗砂粒を含む 2．軟質 3．暗褐色 4．外面にスス付着

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
21 035 PL.19	甕 C1	1．15.9 2．23.8※ 3．	体部下半欠損。 口縁部は内弯気味にのび、端部は外方に尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。体部は長めの球形か。	口縁部内・外面ヨコナデ。頸部内面にユビオサエ後ヨコナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り。外面上半は口縁部より続くヨコナデ、以下は粗いハケ目後ナデ。	1．粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．外面にスス付着
22 059－3	甕 C2	1．15.0※ 2． 3．	口縁部・体部上半3/5残存。 口縁部はゆるく外反し、端部は先端内面に段をつけ外方に面を有す。頸部の境は不明瞭。体部は肩の下がった球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は右上りのヘラ削り。外面上半は口縁部より続くヨコナデ。以下は細いハケ目。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．軟質 3．暗褐色 4．外面にスス付着
23 345	甕 C2	1．15.8※ 2． 3．	口縁部・体部2/3残存。 口縁部は屈折しながらゆるく外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面に巻き上げ痕が残るナデ。外面はハケ目。	1．やや密：粗砂粒を含む 2．軟質 3．灰褐色 4．外面にスス付着
24 346	甕 D	1．16.0※ 2． 3．	口縁部1/4残存。 二重口縁。口縁部下端は断面三角形のするどい稜を有し屈折しながら外反し、上端部は外上方に短くのび上面は水平。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上端には列点文がめぐる。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．淡茶褐色 4．外面にスス付着
25 384	甕 D	1．14.0 2．18.9 3．	体部下半欠損。 二重口縁。口縁部下端は断面三角形のするどい稜を有し、ゆるく外方にのびる。上端部は外方に短くのび上面は小さな面を有す。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面から頸部まではヨコナデ。体部上端は右方向のヘラ削り、上半より中位は左上方向のヘラ削り。外面は上半から中位まで斜行・横・斜行順のハケ目。	1．密：細砂粒を含む 2．軟質 3．淡褐色 4．外面にスス付着
26 343 PL.19	甕 D	1．15.9※ 2．22.4※ 3．	体部下半欠損。 二重口縁。口縁部下端は断面三角形のするどい稜を有し、ゆるく外方にのびる。上端部は外上方に短くのび上面は小さな面を有す。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半は右方向のヘラ削り、以下は左上方向のヘラ削り。外面は上半から中位まで縦・横・斜行順のハケ目。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．淡茶褐色 4．外面にスス付着
27 055 PL.20	甕 E1	1．11.2 2．13.4 3．13.6	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は外方に小さな面を有す。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁・頸部内面はユビオサエ後ナデ、外面はヨコナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り後ナデ、外面はナデ。口縁・体部外面に粘土接合痕を残す。	1．やや粗：中砂粒を含む 2．堅緻 3．黄褐色 4．外面にスス付着
28 062 PL.20	甕 E1	1．11.4 2．12.9 3．13.3	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面は磨滅ため調整不明。頸部内面にはヘラ止痕を残す。体部内面中位までは右方向のヘラ削り、以下は右上方向のヘラ削り。外面中位以下は不定方向のハケ目後ナデ。	1．やや粗：中砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．外面にスス付着
29 084 PL.20	甕 E1	1．13.4 2．15.4 3．16.5※	体部下半一部欠損。 口縁部は内弯気味に開き、端部は外上方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目の上ヨコナデ。体部内面上半は右方向、以下は上方向のヘラ削り、外面はタテハケ目。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗茶褐色 4．外面にスス付着
30 032 PL.20	甕 E1	1．13.3 2．15.8 3．16.8	完形品。 口縁部は外上方にのび、端部は水平に面を有す。端面中央に凹線がめぐる。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面は左上方向の粗いハケ目、外面は斜行の粗いハケ目、端部はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面は粗いタテハケ目。外面の一部に剝離がみられる。	1．粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．灰褐色 4．外面にスス付着

甕形土器

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
31 014	甕 E_1	1. 11.0 2. 15.0 3.	体部下半欠損。 口縁部は内弯し、端部は丸く終る。 頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はナデアゲ、外面・頸部はヨコナデ。頸部内面はユビオサエ後ナデ。体部内面は右横方向のヘラ削り、外面は細いタテ・ヨコのハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4. 外面にスス付着
32 347	甕 E_1	1. 14.2 2. 14.4 3.	底部欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外方に引き出され面を有す。頸部の境は明瞭。体部は球形。 口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ、端部にハケ目残す。頸部はナデ。体部内面中位までは右下方向のヘラ削り、以下は右上方向のヘラ削り。外面は細いハケ目後ナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 黒褐色 4. 外面に黒斑
33 161 PL.20	甕 E_1	1. 2. 16.8 3.	口縁部欠損。 頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形。	口縁部内面下半はヨコハケ目。頸部と上半はナデ、以下は右上方向のヘラ削り、頸部外面にヨコナデ。体部は不定方向の斜行ハケ目。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 外面に黒斑
34 183 PL.20	甕 E_1	1. 13.6 2. 18.2* 3.	体部下半欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外上方に尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面から体部上端にかけてユビオサエ、以下は右上方向のヘラ削り。外面上半は粗いハケ目、中位以下は左方向の細いハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4. 外面にスス付着
35 348	甕 E_1	1. 12.0 2. 3.	体部下半欠損。 口縁部は「く」の形に外反し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。体部内面上半はユビオサエ、下半はヘラ削り、外面は頸部ヨコナデ。胴部はタテハケ目後ナデ。	1. やや密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 外面にスス付着
36 156 PL.20	甕 E_1	1. 12.8 2. 3.	体部下半欠損。 口縁部はゆるく外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面は粗いハケ目。頸部から体部上端にかけて粘土紐接合痕を残す。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. やや密 3. 黒褐色 4. 外面にスス付着
37 344	甕 F_1	1. 10.8* 2. 3.	口縁部・体部上半⅔残存。 口縁部は屈折してほぼ直立し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。	口縁部内・外面はヨコハケ目後ヨコナデ。頸部内面はユビオサエ、外面はハケ目。体部内面は左方向のヘラ削り、外面はハケ目後部分的にナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 外面に黒斑
38 093 PL.20	甕 F_1	1. 11.4 2. 3.	口縁部・体部上半残存。 口縁部は内弯気味に外上方に開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。	口縁部内面は細いハケ目、外面はヨコナデ。頸部内面はユビオサエ。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面は細いハケ目。	1. やや密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 外面にスス付着
39 192 PL.21	甕 F_2	1. 10.4 2. 3.	体部下半欠損。 口縁部はなだらかに外反し、端部は外方に面を有す。頸部の境は明瞭。	口縁部内面は斜行のハケ目を残すヨコナデ、外面は細い縦ハケ目。体部内面上半は口縁より続くヨコナデ、以下は右方向のヨコヘラ削り。外面は不定方向のハケ目、中位に一部ヘラミガキ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 体部上半に黒斑
40 164 PL.21	甕 F_1	1. 10.8 2. 13.6 3. 15.7	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。体部はやや長めの球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り、底部はナデ。外面は粗いタテハケ目、下半には指頭圧痕が残る。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 外面に黒斑

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
41 208 PL.21	壺 A	1．16.8 2．26.8 3．	体部下半欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部はナデ。体部内面上半から中位は右方向のヘラ削り、下半は左上方向のヘラ削り。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．灰褐色 4．
42 114—2 PL.21	壺 A	1．20.8 2． 3．	体部欠損。 内弯気味に屈折しながら外反し、端部は外上方に引き出され面を有す。頸部の境は明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部はナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面はヨコナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗灰褐色 4．外面にスス付着
43 383	壺 A	1．19.8* 2． 3．	口縁部¾残存。 口縁部はひろく外反する、中位よりやや下った位置にはりつけによる突起をめぐらす。端部は外上方に面を有し中央に凹線がめぐる。	口縁部内面はヨコナデ、外面は一部にハケ目が残るヨコナデ。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．
44 028	壺 B	1．14.8 2． 3．	体部欠損。 口縁部はなだらかに外反し、端部は外方に引き出され面を有す。	口縁部内・外面はヨコナデ後ナデ。頸部のつけねはユビオサエ後ヨコナデ。体部内面上半は左方向のヘラ削り、外面は粗い斜行ハケ目。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．淡灰褐色 4．
45 342 PL.21	壺 C	1． 9.8 2．12.8 3．13.4	完形品。 口縁部は短くほぼ直立に立ち上がり、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はヨコナデ、外面はヘラ削り。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面は不定方向の粗いハケ目、部分的にナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗茶褐色 4．体部中位に黒斑
46 302 PL.21	壺 C	1． 7.4 2．11.6 3．17.0	口縁部一部欠損。 口縁部は内弯気味に短くのび、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形で、底部は不安定な小さい平底。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はナデ、外面はヨコナデ。体部内面上半はナデアゲ、中位は右方向にヘラ削り、下半は左上方向のヘラ削り。外面上半はヨコナデ、以下はハケ目。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．
47 158 PL.21	壺 D_1	1． 2．11.4 3．	口縁部上半欠損。 二重口縁。口縁部下端は下方にやや拡大される。頸部はつよくしまり境は明瞭。	口縁部内・外面はナデ・ヨコナデ。頸部内面から体部上半は輪づみ痕を残すナデ、以下はナデ。外面上半から中位はハケ目を残すヨコナデ、以下はヘラミガキ後ナデ。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．体部中位に黒斑
48 152 PL.21	壺 D_1	1． 2．13.2 3．	口縁部欠損。 頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。二重口縁になる可能性がつよい。	口縁部内・外面・頸部はヨコナデ。体部内面上半はヘラ削り、以下は左上方向のナデアゲ。中位には接合痕を残す。外面中位まではヨコナデ、以下はハケ目後ヨコナデ、下端はナデ。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．赤褐色 4．体部中位に黒斑
49 064 PL.22	壺 D_2	1．11.3 2．12.1 3．12.1	完形品。 口縁部は屈折して直立気味に立ち上がり、端部は丸く終る。頸部は強くしまり境は明瞭。体部は球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ、歪みが著しい。体部内面中位までは押圧後左横方向の粗いヘラ削り、下半・底部は強い押圧ナデ。外面はナデ。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．灰黒色 4．体部中位に黒斑
50 217 PL.22	壺 E_2	1． 9.8 2．12.7 3．12.7	完形品。 口縁部は内弯気味に長く開く、端部は外方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。体部内面は不定方向のヘラ削り、外面上半はタテハケ以下は斜行ハケ目。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．赤褐色 4．

壺形土器・高坏形土器

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
51 209 PL.22	壺 E_1	1.11.7 2.13.5 3.15.1	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。 頸部はナデ。 体部内面上半から中位は右横方向のヘラ削り、以下はナデ。 外面中位まではヨコナデ、以下はハケ目、部分的にナデ、外面底部はヘラ削り。	1．粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗灰褐色 4．体部中位に黒斑
52 050 PL.22	壺 D_2	1.13.4 2.15.4 3.16.2	底部一部欠損。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。 頸部内面に粘土接合痕を残す。 体部内面上半は接続痕を残しヨコナデ、中位はユビオサエ、以下は左横方向のヘラ削り。 外面は不定方向のハケ目。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．橙褐色 4．外面にスス付着
53 129 PL.22	壺 E_2	1.10.6 2.14.3 3.16.5	完形品。 口縁部は屈折しながら直上し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形。	口縁部内面はハケ目、後ヨコナデ、外面はヨコナデ。 頸部内面には指頭押圧痕を残す。 体部内面はヨコナデ、下半はナデアゲ、外面は細いハケ目、粗い整形。	1．やや密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．
54 341 PL.22	壺 E_2	1.10.2 2.13.3 3.14.7	完形品。 口縁部は直線気味に長くのび、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。 頸部内面指頭押圧痕を残す。 外面はナデ。 体部内面は左横方向のヘラ削り、底部は上方向のヘラ削り。 外面は粗いハケ目、部分的にナデ。 凹凸が著るしい。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．明茶褐色 4．
55 218 PL.22	壺 D_2	1.10.0 2.12.9 3.	底部欠損。 口縁部は内弯気味にやや長くのび、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコハケ目、後ヨコナデ。 外面はタテハケ目、後ヨコナデ。 体部内面は左方向のヘラ削り。 外面上半はタテ、ヨコのハケ目。 以下は磨滅のため不明、一部に細いハケ目が残る。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗黄褐色 4．外面にスス付着
56 301 PL.23	壺 E_3	1.10.4 2.13.6 3.16.0	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は外方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形で中位よりやや上に直径 1.3 cmの穿孔がある。	口縁部内・外面はヨコナデ。 体部内面はナデ、外面は細いハケ目。 底部内面はユビオサエ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗赤褐色 4．外面にスス付着
57 133 PL.23	壺 E_1	1.10.3 2.13.3 3.16.0	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。 体部内面上半はナデ、中位以下はナデアゲ。 外面上半は口縁部より続くヨコナデ、以下はタテハケ目、後ナデ。	1．やや粗：中砂粒を含む 2．堅緻 3．赤褐色 4．体部下半にスス付着
58 076 PL.22	壺 D_2	1.11.0※ 2.13.4 3.12.3	一部欠損。 口縁部は内弯気味に短くのび、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった扁平な球形。	口縁部内面はヨコハケ目、外面から端部内面にかけヨコナデ。頸部内面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ、外面上半はタテハケ目、下半はハケ目の後粗いヘラ削り。底部内面はナデ。	1．密：細砂粒、雲母を含む 2．堅緻 3．淡灰褐色 4．体部外面に黒斑
59 335 PL.23	壺 F	1.12.0※ 2. 3.	体部欠損。 口縁部はゆるやかに外反し、端部は外上方に面を有す。	口縁部内面はヨコナデ。 外面は内面端部からヨコナデ後ナデ。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．外面にスス付着
60 361 PL.23	高坏 A_1	1.22.2 2. 3. 4.	脚部欠損。 坏部、下半部は内弯気味に短くのび、上半部との境は稜を有す。強く屈折して外上方に長くのびる。	坏口縁部内・外面は不定方向のヘラミガキ。端部はヨコナデ。 底部内面は放射状のハケ目。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．赤褐色 4．

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
61 042 PL.23	高坏 A_1	1. 2. 4.0 3. 12.2* 4.	坏部上半欠損。 脚部　柱部は下膨み。中位で屈折して外反し、裾部との境は明瞭。端部は外上方にやや拡大され面を有す。柱部上半部中実。	坏底部内面は不定方向のハケ目後ナデ、外面はナデ。 脚部内・外面はナデ。内面にシボリ痕？ 脚裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗褐色 4.
62 362 PL.23	高坏 A_1	1. 2. 3.8 3. 13.2* 4.	口端部、裾部½欠損。 坏部　下半部は内弯気味に短くのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外上方に長くのびる。 脚部　柱部は外反し、裾部との境は明瞭。裾部に2孔残存、端部は丸く終る。	剝離のため調整不明。 脚裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 橙褐色 4.
63 122 PL.24	高坏 B_1	1. 20.3 2. 3.8 3. 14.4 4. 14.2	完形品。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部はわずかに屈折し外上方にのびる。端部は外方に短く引き出す。 脚部　柱部は外反し、裾部との境は不明瞭。裾端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコハケ目。端部内・外面はヨコナデ。底部内面は不定方向のヘラミガキ、外面はタテハケ目。 脚部内面はヘラ削り、外面はハケ目。 裾部内面はヨコナデ、外面はハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡灰褐色 4.
64 080 PL.24	高坏 B_1	1. 17.9 2. 3.0 3. 12.6 4. 14.3	完形品。 坏部　下半部は外上方にのび、上半部との境はわずかに稜を有す。屈折して再び外上方にのびる。端部は尖り気味に終る。脚部　柱部は外反し、裾部との境は明瞭。裾端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面は粗いハケ目後ナデ。底部内面はナデ、外面はハケ目。脚部内面はヘラ削り、外面はハケ目後ナデ。 裾部内面はハケ目、外面はヨコナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 脚部内面に黒斑
65 023−2 PL.24	高坏 B_1	1. 20.1 2. 3.3 3. 12.5 4. 13.5	完形品。 坏部　下半部は内弯気味にやや長くのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外反し外方にのびる。端部は尖り気味に終る。脚部は「ハ」の形に外反する。裾端部は尖り気味に終る。	坏部口縁内・外面はハケ目後ヨコナデ。底部内面はハケ目後ナデ、外面はナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。柱・裾部の境に指頭押圧痕が残る。	1. 密：細砂粒、雲母を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4. 口縁部に黒斑
66 115 PL.23	高坏 B_1	1. 18.3 2. 3.5 3. 4.	脚裾部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外上方にのび、端部は上方に短く引き出す。脚部　柱部は外反し、裾部との境は明瞭。	坏部口縁内面・外面端部はヨコナデ。外面は粗いハケ目。底部内面はナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面はハケ目後ナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
67 120 PL.24	高坏 B_1	1. 17.4 2. 3.3 3. 10.6* 4. 13.2	脚裾部一部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外反気味にのびる。端部は面を有す 脚部　柱部は外反し、裾部との境は明瞭。裾端底部に突出した面がある。	坏部口縁内・外面、底部外面までヨコナデ。底部内面はナデ。脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4. 口縁部に黒斑
68 165 PL.24	高坏 B_1	1. 20.8 2. 3.0 3. 11.2 4. 11.8	完形品。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外反気味にのび、端部は引き出され垂れ気味に終る。脚部　脚が短い柱部は外反し、裾部の境は明瞭。端部は面を有す。	坏部口縁内面はヨコナデ、外面は細いハケ目後ヨコナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4.
69 118 PL.24	高坏 B_1	1. 18.8 2. 3.2 3. 12.0* 4. 12.5	脚裾部一部欠損。 坏部　浅い底部、下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外上方にのび、端部は丸く終る。 脚部　柱部は外反し、裾部との境は不明瞭。裾端部上面に凹が有り全周する。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内・外面はハケ目後ナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡灰褐色 4.
70 098 PL.24	高坏 B_1	1. 21.4 2. 3.5 3. 13.7 4. 14.8	完形品。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外反気味にのび、端部は丸く終る。 脚部　柱部は外反し、裾部との境は明瞭。端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内面はナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡橙褐色 4.

高坏形土器

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
71 004 PL.24	高坏 B_1	1. 18.2 2. 3.7 3. 14.6* 4. 12.4	脚裾部一部欠損 坏部　下半部は内弯気味にのびる。上部は屈折して外上方にのび、端部は外方に小さく面を有す。脚部　柱部は外反し、裾部との境は明瞭。裾部はほぼ水平で、端部は尖り気味に終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。底部はナデ。脚部内面はヘラ削り、外面はヨコナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4. 外面にスス付着
72 111 PL.25	高坏 B_2	1. 17.8 2. 2.7 3. 11.1 4. 11.8	完形品。 坏部　下半部は外上方にのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外上方にのび、端部は尖り気味に終る脚部　柱部は外反し、裾部との境は不明瞭。端外方・底部に面を有す。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内面はナデ、外面はヨコナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面・裾部内、外面はヨコナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 脚部に黒斑
73 033 PL.25	高坏 C	1. 16.0 2. 2.9 3. 12.4 4. 11.9	脚裾部一部欠損。 坏部　下半部はわずかに内弯気味にのびる。上半部との境は稜を有す。屈折して短くのびる。端部は丸く終る。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し短い。裾部との境は明瞭。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。底部内面はナデ、外面はヨコナデ。脚部内面はヘラケズリ後ナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 口縁部に黒斑
74 021 PL.25	高坏 C	1. 15.8 2. 3.8 3. 11.9 4. 11.8	完形品。 坏部　下半部は外上方に短くのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外反する。端部は丸く終る。脚部　柱部は「ハ」の形に幅広く外反し、裾部との境は不明瞭。裾端部は丸く終る。	坏部口縁内面はヨコハケ目、外面はタテハケ目後ヨコナデ。底部内面は不定方向のナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。脚部内面はナデ、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 脚内面に黒斑
75 068 PL.25	高坏 B_3	1. 18.4 2. 3.8 3. 14.0 4. 14.4	完形品。 坏部　下半部は内弯してのび、上半部との境はわずかに稜を有す。わずかに屈折して外上方にのび、端部は丸く終る。脚部　柱部は「ハ」の形に外反し裾端部は少し肥厚し丸く終る。	坏部口縁内面は粗いヨコハケ目、外面はヨコナデ。 脚部内面は左方向のヘラ削り。外面はヘラ削り後ナデ。裾部内・外面はヨコ裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡茶褐色 4. 口縁部・脚部に黒斑
76 157 PL.25	高坏 B_3	1. 18.6 2. 3.6 3. 12.5 4. 14.5	完形品。 坏部　下半部は外上方にのび、上半部との境はゆるく稜を有す。わずかに屈折して外上方にのび、端部は引き出され丸く終る。脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、裾端部は外方に丸く終る。	坏部口縁内・外面は剝離のため調整不明。脚部内面は左方向のヘラ削り。 外面上半はタテハケ目後ナデ、下半はヨコナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡褐色 4.
77 368 PL.25	高坏 B_3	1. 17.9* 2. 3.5 3. 12.2 4. 12.8	完形品。 坏部　下半部は外上方に短くのび、屈折して直線状に長くのびる。上半部の境に稜を有す。端部は尖り気味に終る脚部　柱部は「ハ」の形に幅広く開き、裾端部は面を有すが境は不明瞭。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。底部内面はナデ、外面はナデ。脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はタテハケ目後ヨコナデ。裾部内外面はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4. 脚部に黒斑
78 010	高坏 C	1. 18.0 2. 3.2 3. 10.4 4. 11.0	完形品。 坏部　下半部は外上方にのび、上半部との境はゆるく稜を有す。わずかに屈折して外上方に短くのび、端部は尖り気味。脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、裾端部は外上方にやや引き出す。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内・外面はナデ。部分的にハケ目痕が残る。 脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はヨコナデ。	1. やや密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4.
79 366 PL.25	高坏 D	1. 22.9 2. 4.1 3. 14.6 4. 16.3	完形品。 坏部　下半部から内弯気味に外上方に長くのびる。端部近くでわずかに外反し、端部は尖り気味に終る。下・上半部の境は不明瞭。脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、脚部の境は不明瞭。	坏部口縁上半内・外面はヨコナデ、中位以下底部内面は粗いハケ目、外面はタテハケ目。 脚部内面はヘラ削り後ナデ、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡茶褐色 4. 口縁部内面に黒斑
80 128 PL.25	高坏 D	1. 16.9* 2. 3.6 3. 11.8 4. 12.3	完形品。 坏部　下半部から外上方に長くのびる。端部はわずかに引き出し面を有す。下・上半部の境は不明瞭。脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、裾部の境は不明裾端部は外方に引き出し面を有す。	坏部口縁内面はヨコハケ目、外面はヨコナデ。底部内面は不定方向のハケ目。 脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 脚部・口縁部内面に黒斑

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
81 354	高坏 E	1. 2. 3.6 3. 4.	口縁部残存。 坏部 下半部から内弯気味に外上方にのびる。	坏部口縁内面は放射状にハケ目後ナデアゲ。 外面はタテハケ目後ヨコナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黄褐色 4.
82 355	高坏 E	1. 2. 2.9 3. 4.	口縁部残存。 坏部 下半部から内弯気味に外上方にのびる。	坏部口縁内面は磨滅のため調整不明。 外面はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 外面に黒斑
83 078 PL.26	高坏 B_1	1. 18.5 2. 3.2 3. 4.	脚部欠損。 坏部 下半部は外上方に短くのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外上方にのびわずかに外反して、端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ後粗いヘラミガキ。底部内面はハケ目後粗いヘラミガキ、外面はハケ目後ナデ再後粗いヘラミガキ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4.
84 364 PL.26	高坏 B_2	1. 18.8 2. 3. 4.	脚部欠損。 坏部 下半部は内弯気味に短くのび、上半部との境は稜を有す。極くわずかに屈折し外上方に長くのびる。端部は若干厚し丸く終る。	坏部口縁内・外面はハケ目後ヨコナデ 底部内・外面はハケ目後ナデ。 坏部境の外面はヨコハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4.
85 061 PL.26	高坏 B_3	1. 2. 3.4※ 3. 4.	脚部欠損。 坏部 下半部は外上方に短くのび、上半部との境は稜を有す。強く屈折して外上方に短くのび、端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内・外面はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色
86 127 PL.26	高坏 B_2	1. 17.6※ 2. 3. 4.	脚部欠損。 坏部 下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。屈折し外反気味にのびる。端部は小さい面を有す。	坏部口縁内・外面はハケ目後ヨコナデ 底部内・外面はヨコナデ。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4. 口縁部内面・脚部に黒斑
87 365 PL.26	高坏 B_3	1. 20.1※ 2. 3. 4.	坏部½残存。 坏部 下半部は内弯気味に短くのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外上方にのび、端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。底部との境内面はハケ目が残る。底部内・外面はナデ。 坏部外面の稜部分に指頭押圧痕が残る。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4. 口縁部内面に黒斑
88 109 PL.26	高坏 B_2	1. 17.6※ 2. 3.0 3. 4.	脚裾部欠損。 坏部 下半部は短く外反し、上半部との境はするどく稜を有す。屈折して外反しながらのびる。端部は尖り気味に終る。 脚部 柱部は「ハ」の形に外反する。	坏部口縁内面はヨコハケ目、外面はタテハケ目後ヨコナデ。端部内・外面はヨコナデ。底部内・外面はナデ。脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
89 363	高坏 C	1. 17.8 2. 3. 4.	脚部欠損。 坏部 下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外上方にのび、端部は垂れ気味に終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内・外面はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗黄褐色 4. 口縁部内面に黒斑
90 103 PL.26	高坏 C	1. 15.1 2. 2.9 3. 4.	脚裾部欠損。 坏部 下半部は外上方にのび、上半部との境は稜を有す。強く屈折して外上方に外反しながらのびる。端部は尖り気味に終る。 脚部 柱部は「ハ」の形に外反する。	坏部口縁内・外面はハケ目後ヨコナデ 底部内・外面はナデ。 脚部内面は粗いヘラ削り、外面はナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.

高坏形土器

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
91 135 PL.26	高坏 C	1．16.7 2．3.2※ 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は外上方に短くのび、上半部との境は稜を有す。わずかに屈折して外上方に短くのび、端部近くでわずかに外反し、端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はハケ目後ナデ。 端部内・外面はヨコナデ。 底部内・外面はハケ目後ナデ。 坏部境の外面は押圧後ナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．
92 067 PL.26	高坏 B_2	1．17.8 2． 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は外上方にのび、上半部との境は稜を有す。わずかに水平な面を残し外反気味にのびる。端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内面はナデ、外面はヘラ削り。	1．やや密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．
93 179 PL.26	高坏 C	1．17.3 2．3.2 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は外上方にのび、上半部との境は稜を有す。屈折して内弯気味にのび、端部近くで外上方に引き出され、端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内面はナデ、外面はタテハケ目。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗灰褐色 4．口縁部内・外面に黒斑
94 212 PL.26	高坏 B_2	1．19.5 2． 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。屈折して内弯気味にのび、端部近くでわずかに外反する。端部は面を有す。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 底部内面は不定方向のナデ。外面はタテハケ目後ヘラ削り。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．淡茶褐色 4．
95 168 PL.26	高坏 B_2	1．16.7 2． 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境はわずかに稜を有す。わずかに屈折して外反しながらのびる。端部は尖り気味に終る。	坏部口縁内面はヨコナデ、外面はハケ目後ヨコナデ。底部内・外面はナデ。 口縁部と底部の境内面は指頭押圧が残る。外面はハケ目。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗赤褐色 4．
96 094 PL.27	高坏 B_2	1．17.4 2． 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外反しながらのびる。端部は尖り気味に終る。	坏部口縁内・外面はハケ目後ヨコナデ 中位内面はヨコハケ目。 底部内・外面はナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．軟質 3．暗褐色 4．
97 107 PL.27	高坏 B_2	1．17.3 2． 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は内弯気味に短くのび、上半部との境は稜を有す。屈折して外反しながらのびる。端部は丸く終る。	坏部口縁内面はヨコハケ目、部分的にナデ、外面はヨコナデ。 底部内・外面はハケ目後ナデ。 中位外面は粗いヨコハケ目。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗灰褐色 4．
98 193 PL.27	高坏 B_2	1．16.3 2．3.1 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は外上方に短くのび、上半部との境はわずかに稜を有す。屈折して内弯気味に長くのびる。端口は丸く終る。	坏部口縁内面はヨコハケ目、外面はヨコナデ。底部内面はナデ、外面はヨコナデ。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．茶褐色 4．口縁部に黒斑
99 148 PL.27	高坏 B_2	1．17.4 2． 3． 4．	脚部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのび、上半部との境は稜を有す。わずかに段がつき内弯気味にのびる。端部近くでわずかに外反する。端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。 中位はハケ目。 底部内・外面はヨコナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．口縁部に黒斑
100 110 PL.27	高坏 B_3	1．17.9 2． 3． 4．	坏部上半部残存。 坏部　上半部は外上方にのび、端部近くで外反する。端部は丸く終る。	坏部口縁内・外面はヨコナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．暗黄褐色 4．

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
101 047 PL.27	高坏 B_2	1. 15.6 2. 3. 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部は内弯して開き、端部は丸く終る。 柱部と裾部の境は明瞭。	脚部内面はヨコナデ、外面はハケ目後ナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
102 197 PL.27	高坏 B_2	1. 2. 3.3 3. 12.5 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部との境は明瞭。裾部は短く、端部は尖り気味に終る。 裾部内面は水平。	脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。 一部に左下りのタタキ目痕が残る。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
103 037 PL.27	高坏 B_1	1. 2. 3.4 3. 12.5 4.	坏部口縁欠損。 坏部　下半部は外上方にのびる。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部との境は明瞭。裾部はやや外反し、端部は丸く終る。	底部内面はハケ目後ナデ、外面はタテハケ目。 脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はハケ目後ヘラ削り、ナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
104 088 PL.27	高坏 B_2	1. 2. 3.6 3. 12.5 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部でなだらかに屈折する。裾部との境は不明瞭。裾部は短く、端部は丸く終る。	脚部内面は左方向のヘラ削り。外面上半はヨコナデ、中位以下はナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4.
105 063 PL.27	高坏 B_2	1. 2. 3.3 3. 12.7 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部でなだらかに屈折する。裾部は短くのび、端部は丸く終る。 柱部と裾部の境は不明瞭。	脚部内面はヘラ削り、外面はタテハケ目。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4.
106 121 PL.27	高坏 B_2	1. 2. 3.4 3. 4.	坏部・脚裾端部欠損。 脚部　柱部はふくらみをもつ「ハ」の形で外反する。裾部との境は明瞭。	脚部内面は粗いヘラ削り、外面はナデ 裾部内・外面はヨコナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 脚部に黒斑
107 123 PL.27	高坏 B_2	1. 2. 3. 10.0 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部は短く開き、端部は丸く終る。	脚部内面は押圧後ナデ、外面はナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 脚部に黒斑
108 131 PL.28	高坏 B_2	1. 2. 3.3 3. 12.1 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形にひろく外反し、下部で屈折する。裾部は短く開き端部は丸く終る。	脚部内面はヘラ削り、外面はヘラ削り後ヨコナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 赤褐色 4.
109 216 PL.28	高坏 B_2	1. 2. 3.2 3. 10.1 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部は短くなだらかに開き、端部は面を有す。	脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡橙褐色 4.
110 074 PL.28	高坏 B_2	1. 2. 2.9 3. 13.2 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に短くひろく外反し、下部で屈折する。裾部は長くなだらかに開き、端部は尖り気味に終る。柱部と裾部の境は不明瞭。	脚部内面はヘラ削り、外面はヘラ削り後ヨコナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.

高坏形土器

番番	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
111 108 PL.28	高坏 B_2	1. 2. 3.2 3. 12.0 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は「ハ」の形で短くひろく外反し、下部で屈折する。裾部は短くなだらかに開き、端部は尖り気味に終る。柱部と裾部の境は不明瞭。	脚部内面はヘラ削り、外面はヨコナデ、一部粗いタテハケ目を残す。 裾部内面はハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4.
112 051	高坏 B_2	1. 2. 3. 12.0* 4.	坏部、脚裾部一部欠損。 脚部 柱部は「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部は長く開き、端部は上方に立ち上り丸く終る。 柱部と裾部の境は明瞭。	脚部内面は左方向のヨコナデ、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
113 031 PL.28	高坏	1. 2. 3.1 3. 12.4 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は「ハ」の形に短く外反し、下部で屈折する。裾部は短く開き、端部は尖り気味に終る。 柱部と裾部の境は明瞭。	脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。 柱・裾部外面の境に指頭押圧痕がめぐる。	1. 密：細砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4. 裾部外面に黒斑
114 019 PL.28	高坏	1. 2. 3.5 3. 12.2 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は「ハ」の形にゆるやかに外反し、下部で屈折する。裾部は短く開き、端部は丸く終る。 柱部と裾部の境は明瞭。	脚部内面は右方向のヘラ削り、外面はタテハケ目、一部ナデが残る。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4.
115 023−1 PL.28	高坏	1. 2. 4.0* 3. 14.3* 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は「ハ」の形に幅広く外反し、下部で屈折する。裾部は短く開き端部は丸く終る。 柱部裾の3箇所に穿孔。	脚部内面はヘラ削り、外面はナデ。裾部内・外面はヨコナデ。 柱部下半外面に指頭押圧痕が残る。	1. 密：細砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 灰黒褐 4.
116 026 PL.28	高坏	1. 2. 3.6 3. 11.2 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は「ハ」の形に短く外反し下部で屈折する。裾部は短く開き、端部近くでやや水平な面を有し、尖り気味に終る。柱部と裾部の境は不明瞭。	脚部内面はヘラ削り、外面上半はナデ、下半から裾部外面はヨコナデ後ナデ。 裾部外面はヨコハケ目後ヨコナデ。	1. 密：砂粒を含まない 2. 堅緻 3. 暗黄褐色 4.
117 370 PL.28	高坏	1. 2. 3.0 3. 11.5 4.	坏部口縁欠損。 坏部 下半部は内弯気味に短くのびる。 脚部 柱部はややふくらみをもつ「ハ」の形で短く外反する。裾部はひろく、短く屈折し、端部はわずかに引き出され丸く終る。	坏部底外面はヨコナデ・ナデ。 脚部内面はヘラ削り、外面はヨコナデ・ナデ。裾部内・外面はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4.
118 138 PL.28	高坏	1. 2. 3.6 3. 12.3 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は中位で脹らむ「ハ」の形に外反し、下部で屈折する。裾部は大きく開き、端部は外上方にのび丸く終る。	脚部内面は右方向のヨコナデ、外面はヘラ削り後ヨコナデ。 裾部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 裾端部に黒斑
119 089 PL.28	高坏	1. 2. 3.0 3. 12.6* 4.	坏部欠損。 脚部 柱部は下膨みで「ハ」の形で外反し、下部で屈折する。裾部は大きく開き、端部は外上方にのび丸く終る。	脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はヘラ削り後ナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
120 073 PL.28	高坏	1. 2. 3.9* 3. 15.2* 4.	坏部欠損。 脚部 柱部はひろく「ハ」の形で外反し、端部は尖り気味に終る。	脚部内面上半はナデ、下半は粗いヨコハケ目、外面はナデ。端部内・外面はヨコナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗黄褐色 4.

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
121 008 PL.28	高坏 C	1. 2. 3. 12.5 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は細く開く「ハ」の形で外反し、裾部に続く。端部はするどく、外上方に引き出され尖る。	脚部内面上半は粗いヘラ削り、下半はヨコハケ目、外面はタテハケ目後ナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1．密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．灰褐色 4．脚部に黒斑
122 376 PL.28	高坏 C	1. 2. 3. 12.6 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形で外反し長くのびる。裾部はわずかに屈折して短く、端部は下方に尖り気味で終る。	脚部内面上半はヘラ削り、中位はヘラ削り後ヨコナデ、下半はハケ目後ヨコナデ、外面上半はヘラ削り後ヨコナデ下半はヘラ削り。 裾部内面はハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。	1．粗：粗砂粒を含む 2．軟質 3．暗赤褐色 4．
123 375 PL.28	高 坏	1. 2. 3. 11.4 4.	坏部欠損。 脚部　柱部はひろく「ハ」の形で外反し、裾部でわずかに屈折する。端部は肥厚し丸く終る。	脚部内面はヘラ削り、外面はタテハケ目後ヨコナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．脚裾部に黒斑
124 189 PL.29	高 坏	1. 2. 3.8* 3. 11.1 4.	坏部欠損。 脚部　柱部は短くひろく「ハ」の形で外反し、裾部はわずかに屈折して短い。端部は丸く終る。	脚部内面は左方向のヘラ削り、外反はハケ目後ナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．茶褐色 4．
125 367 PL.29	高坏 C	1. 2. 4.0 3. 13.9 4.	坏部欠損。 脚部　柱部はひろく「ハ」の形で外反し、裾部でわずかに屈折する。端部は肥厚し丸く終る。	脚部内面は左方向のヘラ削り、外面はハケ目後ナデ。 裾部内・外面はヨコナデ。 裾部内面に指頭押圧痕を残す。	1．やや粗：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．淡灰褐色 4．脚部に黒斑
126 053 PL.29	高 坏	1. 2. 3.6 3. 4.	坏部・脚裾部欠損。 脚部　柱部はひろく「ハ」の形で外反する。	脚部内面はヘラ削り、外面はヘラ削り後ヨコナデ。	1．やや密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．灰褐色 4．脚部に黒斑
127 085 PL.29	高 坏	1. 2. 3.1 3. 4.	坏上半部・脚裾部欠損。 坏部　下半部は内弯気味にのびる。 脚部　柱部はひろく「ハ」の形で外反し、裾部はわずかに屈折する。	脚部内面上半はヨコハケ目、外面はタテハケ目、下半はヨコナデ。 内面上半指頭押圧痕を残す。	1．密：粗砂粒を含む 2．堅緻 3．暗褐色 4．
128 069 PL.29	高 坏	1. 2. 3.0 3. 4.	坏部・脚裾部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形に外反し、下部でわずかに屈折する。	脚部内・外面はナデ。	1．やや密：細砂粒を含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．
129 025 PL.29	高 坏	1. 2. 3.4 3. 4.	坏口縁部・脚裾部欠損。 坏部　下半部は内弯気味に短くのびる。 脚部　柱部は「ハ」の形で外反し、下半で膨む。	底部内面はヨコナデ後ナデ、外面は細いタテハケ目。 脚部内面は左方向のヘラ削り、外面は基部がヨコナデ、以下はナデ。	1．密：砂粒を若干含む 2．堅緻 3．淡褐色 4．
130 373	高 坏	1. 2. 3.4 3. 4.	坏部・脚裾部欠損。 脚部　柱部は「ハ」の形で外反する。	脚部内面はヘラ削り、外面はヨコナデ。	1．密：中砂粒を含む 2．堅緻 3．白褐色 4．脚部に黒斑

高坏形土器・小型丸底壺

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
131 369	高 坏	1. 2. 2.9 3. 4.	脚柱部残存。 脚部 柱部は長い「ハ」の形で外反する。裾部が一部残存。	脚部内面はヘラ削り、外面はナデ・ヨコナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4.
132 372	高 坏	1. 2. 2.7 3. 4.	脚柱部残存。 脚部 柱部は短い「ハ」の形で外反する。裾部が一部残存。	脚部内面はヘラ削り、外面はヘラミガキ。裾部外面はハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4. 脚裾部に黒斑
133 320 PL.29	小 丸 A_1	1. 8.1 2. 7.5 3. 7.9	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。体部はやや扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内面は指頭圧痕を残すハケ目後ユビオサエ、外面はハケ目後ナデ。端部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はナデ、下半はナデアゲ、外面(肩以)はハケ目、以下はヘラ削り後ナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4. 口縁部から体部上半にかけ黒斑
134 011 PL.29	小 丸 A_1	1. 9.8 2. 8.4 3. 8.8	完形品。 口縁部は内弯気味に長く開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はヘラ削り後ナデ、下半はナデアゲ。外面は粗い斜行ハケ目。	1. やや粗：粗砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
135 099 PL.29	小 丸 A_1	1. 10.6 2. 9.0 3. 8.6	完形品。 口縁部は内弯気味に長く開き、端部は丸く終る。 頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はナデ、下半はナデアゲ。外面上半（肩部）はタテハケ目が一部に残るヨコナデ。以下は粗いハケ目。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
136 101 PL.29	小 丸 A_1	1. 10.0 2. 9.6 3. 9.5	完形品。 口縁部は外反し、端部は外方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内面はヨコハケ目、端部から外面はヨコナデ。頸部内面はヨコナデ。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面は細い不定方向のハケ目。	1. 密：細砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
137 048 PL.29	小 丸 A_2	1. 10.3 2. 10.3 3. 12.8	完形品。 口縁部は内弯気味に長く外上方に大きく開き、端部は丸く終る。頸部はつよくしまり、境は明瞭。体部は球形。 口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はヘラ削り、体部内面上半から下半は左方向のヘラ削り、上半（肩部）は後ナデ、底部はユビオサエ。外面はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
138 002 PL.29	小 丸 A_3	1. 8.3 2. 8.0 3. 7.8	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外方に丸く終る。頸部の境は明瞭。 体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は左方向のヘラ削り、底部はナデ。外面は粗い斜行ハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
139 210 PL.30	小 丸 A_3	1. 8.9 2. 8.1 3. 8.6	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。 体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は上方向のナデアゲ。外面肩はヨコナデ、以下はヘラ削り。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 口端部に黒斑
140 322 PL.30	小 丸 A_3	1. 9.0 2. 8.0 3. 8.6	完形品。 口縁部は内弯気味に短く外上方に開き端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。 体部は肩の下がった球形で、底部は不安定で小さい平底。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は左方向のヘラ削り。外面肩はタテハケ目、中位以下はヘラ削り後ナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 体部に黒斑

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
141 012 PL.30	小丸 A_3	1. 8.4 2. 7.8 3. 7.7	完形品。 口縁部は外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形で、底部は不安定で小さい平底。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部上半（肩）下半内面はヘラ削り。底部はナデ。外面上半はハケ目、下半はナデ。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4.
142 137 PL.30	小丸 A_3	1. 9.0※ 2. 9.3※ 3. 9.0	口縁部・体部½欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は尖る。頸部の境は明瞭。体部は肩が下がり稜をもつ球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。肩部内面はユビオサエ、外面はヨコナデ。体部内面中位以下はナデアゲ。外面は不定方向のハケ目。（部分的にナデで磨消す）	1. やや密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4.
143 334	小丸 A_3	1. 10.2※ 2. 8.6※ 3.	体部下半欠損。 口縁部は内弯気味に外上方に開き、端部は丸く終る。頸部の境は不明瞭。体部は肩の下がった球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。体部内面上半はユビオサエ、下半はナデアゲ。外面はナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 口縁部と体部に黒斑
144 172 PL.30	小丸 A_3	1. 8.4※ 2. 7.8 3. 2.4	口縁部一部欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外方にするどく引き出す。頸部の境は明瞭。体部は肩の下がった球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はナデ（指頭圧痕が残る）下半はヘラ削り。外面はハケ目後ヘラ削り後ナデ。（部分的にハケ目が残る） 底部は不定方向のハケ目。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 体部に黒斑
145 200 PL.30	小丸 A_3	1. 9.1※ 2. 8.0※ 3. 9.5	口縁部・体部½欠損。 口縁部は内弯気味に外上方に開き、端部は内方にやや屈折して丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形で尖り気味。	口縁部内・外面はハケ目後ヨコナデ。（内・外面にハケ目が残る）体部内面上半はナデ、中位以下は上方向のナデアゲ。外面は剝離のため調整不明。	1. やや密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 明茶褐色 4. 体部に黒斑
146 052 PL.30	小丸 A_3	1. 9.7 2. 8.7 3. 8.9	完形品。 口縁部は外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩の下がった球形で、底部は尖り気味。	口縁部内面はヨコナデ後ナデ、外面はヨコナデ。体部内面はナデ、外面肩はタテハケ目後ナデ、以下は不定方向の細いハケ目。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 体部に黒斑
147 324 PL.30	小丸 A_3	1. 9.7 2. 8.7 3.	底部欠損。 口縁部は外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はタタキ目後ヨコナデ。外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ。外面上半はヨコナデ、中位以下はタタキ目後細いハケ目。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4.
148 040	小丸 A_3	1. 9.0 2. 8.8 3. 10.9	完形品。 口縁部はわずかに屈折して長くのび、端部は丸く終る。頸部の境は不明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ。外面はタテハケ目を残すヨコナデ。肩部内面に指頭押圧痕。体部内面中位まで右方向のヘラ削り、以下はナデ。外面上半はタテハケ目、中位以下は下寧なヘラ削り。底部外面はナデ。	1. 密：細砂粒・雲母を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 体部に黒斑
149 329 PL.30	小丸 A_3	1. 9.5※ 2. 9.0※ 3. 9.6	口縁部・体部½欠損。 口縁部は短く外反し、端部は丸く終る頸部の境は明瞭。体部は球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ、肩部内面はユビオサエ。外面はヨコナデ。体部内面は左方向のヘラ削り、外面もヘラ削り。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗灰褐色 4. 体部に黒斑
150 015 PL.30	小丸 A_1	1. 8.2 2. 9.1 3. 10.3	完形品。 口縁部は内弯気味に短く開き外反する端部はやや尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。体部は扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。（一部にハケ目を残す）肩部外面に指頭押圧痕。体部内面中位までは左方向のヘラ削り以下はナデ。外面上半は口縁部より続くヨコナデ、中位以下は不定方向のハケ目。部分的に磨消す。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 体部に黒斑

小型丸底壺

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
151 006 PL.30	小丸 B_1	1. 9.7 2. 8.4 3. 9.0	完形品。 口縁部は短く開き、屈折して外上方に長くのびる。端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはったやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。肩部内面はナデ。体部内面中位まではヘラ削り後ナデ。以下はナデアゲ。外面はナデ。(一部に指頭押圧痕が残る)。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 体部に黒斑
152 097 PL.30	小丸 B_1	1. 7.5 2. 8.0 3. 8.1	完形品。 口縁部は内弯気味に大きく開く。内面中位にやや段がつく。端部は丸く終る頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り。外面はヨコナデ。 口縁部中位に粘土接合痕を残す。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
153 181 PL.31	小丸 B_2	1. 7.9 2. 8.5 3. 7.9	完形品。 口縁部はやや内弯気味に長くのび、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった扁平な球形で、底部はやや平担な面を残す。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面に指頭押圧痕。体部中位はナデ。以下はナデアゲ。外面はヘラ削り後ナデ。底部はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
154 316 PL.31	小丸 B_2	1. 8.0 2. 9.0 3. 8.8	完形品。 口縁部は内弯気味に立ち上がり、端部は外方に小さな面を有す。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面は細いハケ目を残すヨコナデで肩部まで続く。体部内面はナデアゲ、外面はハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4.
155 057 PL.31	小丸 A_3	1. 8.7 2. 8.1 3. 8.9	完形品。 口縁部は屈折しながら長くのび、端部はわずかに外反し丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面中位までは左方向のヘラ削り、以下はナデ。外面上半はヨコナデ、中位は斜行ハケ目後ナデ磨消し、下半は不定方向のハケ目。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 体部に黒斑
156 188 PL.31	小丸 B_2	1. 8.2 2. 8.5 3. 8.3	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形で、底部は不安定な平底。体径と口径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はナデ、中位は右方向のヘラ削り下半はナデアゲ。外面上半はハケ目、下半はヨコナデ・ヘラ削り。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 口縁部から体部上半にスス付着
157 319 PL.31	小丸 B_2	1. 8.6 2. 8.8 3. 8.3	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は不安定な平底。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内面は粗いヨコハケ目後ヨコハケ。外面は粗いタテハケ目後ヨコナデ。肩部内面はヘラ削り後ユビオサエ。体部内面中位は左方向のヘラ削り、以下はナデアゲ、外面中位は粗いハケ目、下半はヘラ削り後ナデ、底部はハケ目。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4.
158 211 PL.31	小丸 B_2	1. 9.4 2. 9.2 3. 8.7	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内面は粗い斜行ハケ目。外面は粗いタテハケ目後ヨコナデ。体部外面中位まで続く。体部内面はヘラ削り、外面下半はタテ・ヨコハメ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4. 口端部に黒斑
159 186 PL.31	小丸 B_2	1. 8.9 2. 9.4 3. 8.7	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。外面に巻き上げ痕（継ぎ目）を残す。肩部内面はヘラ削り。体部中位以下はナデ、外面はハケ目後ナデ。(一部に指頭押圧痕による凹凸が残る)底部は粗いハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
160 003 PL.31	小丸 B_2	1. 9.2 2. 9.3 3. 10.5	完形品。 口縁部は内弯気味に開き外反する。端部は外方に丸く終る。頸部の境は明瞭体部は球形で、底部中央はわずかに凹む丸底。	口縁部内・外面はハケ目後ヨコナデ、外面はその上に細いヘラミガキ。体部内面上半は横方向のヘラ削り、下半はナデアゲ。外面上半はハケ目、中位以下はナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 口縁部から体部、体部に黒斑各1

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
161 049 PL.31	小丸 B_2	1. 9.4 2. 9.2 3. 10.3	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は肩のはった球形で、底部は尖り気味。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面、外肩までヨコナデ。体部内面肩ヨコナデ、以下は左上方向のナデ、外面は下半が左方向の粗いヘラ削り。	1. やや密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 口縁部から体部、口縁部内面に黒斑
162 225 PL.31	小丸 B_2	1. 9.1 2. 9.0 3. 10.3	完形品。 口縁部は内弯気味に短く開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は右方向のヘラ削り、外面は不定方向のハケ目、下半はナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
163 180 PL.31	小丸 B_3	1. 8.2 2. 8.6 3. 10.1	完形品。 口縁部は内弯気味に外上方にのび、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はわずかに肩のはった球形で、底部に小さな脚台がつく。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はヘラ削り後ナデ、中位以下はナデ。体部上半はヨコナデ、中位以下はヘラ削り後ナデ。底部から脚台外面はヨコナデ、脚台内面はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黒褐色 4.
164 213 PL.31	小丸 C_1	1. 7.1 2. 8.7 3. 9.6	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は外上方にするどく尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部はやや尖り気味。	口縁部内・外面、肩までヨコナデ。頸部内面はヘラ削り。体部内面はナデ外面は細いハケ目。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡茶褐色 4. 口縁部から体部に黒斑
165 303 PL.32	小丸 C_1	1. 7.8 2. 8.8 3. 9.1	完形品。 口縁部はわずかに屈折しながら外反し端部はやや外方に引き出される。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はタテハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。体部内面は強いナデアゲ、外面はヨコナデ、中位にヘラ削りを残す。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4.
166 174 PL.32	小丸 C_1	1. 8.1 2. 9.6 3. 9.8	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は外上方にするどく引き出される。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は尖り底。	口縁部内面はハケ目後ヨコナデ、外面はタテハケ目（頸部にかけてヨコナデ）端部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はヘラ削り、ユビオサエ、中位はヘラ削り、以下はナデアゲ。外面はタテハケ目後中位にヨコハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 体部下半に黒斑
167 176 PL.32	小丸 C_1	1. 8.2 2. 9.1 3. 10.4	完形品。 口縁部は内弯気味に開き外反する。端部は外方に丸く終る。頸部の境は明瞭体部はやや肩のはった球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面は左方向のヘラ削り。体部内面上半はナデ、下半はナデアゲ。外面上半はナデ、中位は横方向のハケ目、以下はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4.
168 151 PL.32	小丸 C_2	1. 9.5 2. 10.4 3. 10.4	完形品。 口縁部はやや内弯気味に開き、端部は外上方に引き出される。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ（外面に一部ハケ目を残す）体部上半はナデ、以下はナデアゲ、外面上半はヨコナデ、以下はナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 体部に黒斑
169 141 PL.32	小丸 C_2	1. 9.1 2. 10.6 3. 9.6	完形品。 口縁部は内弯気味に短く開き外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は不安定な平底。	口縁部内・外面はヨコナデ、頸部内面はナデ、外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はヘラ削り後ナデ、以下はハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡赤褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
170 126 PL.32	小丸 B_1	1. 9.6 2. 10.3 3. 10.8	完形品。 口縁部は内弯気味にやや長くのび、外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形。	口縁部内・外面はヨコナデ、体部内面中位までナデ、底部はナデアゲ。外面はナデ、底部はハケ目。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 体部に黒斑

小型丸底壺

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
171 066 PL.32	小丸 C_2	1. 5.3 2. 8.2 3. 7.7	完形品。 口縁部は内弯気味にのび、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はヘラ削り。体部内面はヨコナデ、底部はナデ、外面はナデ。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
172 177 PL.32	小丸 C_2	1. 8.3 2. 8.5 3. 6.9	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部内面はハケ目。体部内面上半はナデ、以下はナデアゲ。外面上半はハケ目後ナデ下半はナデ、底部に粗いハケ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4.
173 041 PL.32	小丸 C_3	1. 7.6 2. 7.9 3. 8.7	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外上方にやや尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内・外面は粗いヘラ削り。底部内面はナデ	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
174 318 PL.32	小丸 A_3	1. 9.3 2. 8.6 3. 8.0	完形品。 口縁部は屈折しながら短く外反し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内面は粗いハケ目、外面は粗いタテハケ目。端部内・外面はヨコナデ頸部外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り後ナデ、外面はヘラ削り後ヨコナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
175 044 PL.32	小丸 C_2	1. 8.1 2. 7.8 3. 9.2	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はナデアゲ。体部内面上半はヘラ削り、下半がナデアゲ。外面はナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 体部に黒斑？
176 159—1 PL.33	小丸 C_2	1. 8.1 2. 9.0 3. 9.0	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外上方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はハケ目後ヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はタテハケ目、中位以下はナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 体部に黒斑
177 178 PL.33	小丸 C_2	1. 8.0 2. 10.0 3. 9.3	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外上方に尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部はやや尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は剝離のため調整不明、外面はタテハケ目後ナデ。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡茶褐色 4. 体部に黒斑
178 321 PL.33	小丸 C_2	1. 8.1 2. 8.4 3. 8.8	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、外反して、端部は外上方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はヨコナデ、中位以下はナデ(一部粗いハケ目が残る。)	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 口縁部から体部に黒斑
179 140 PL.33	小丸 C_2	1. 8.3 2. 9.4 3. 9.9	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、外反して、端部で外上方にのび尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。肩部内面はナデ、外面はヨコナデ。体部内面中位以下はヘラ削り、外面上半から中位まではヨコナデ、以下は不定方向のヘラ削り後ナデ。底部はナデ。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡茶褐色 4.
180 317 PL.33	小丸 C_2	1. 8.2 2. 9.2 3. 9.5	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は面を有す。体部は球形で、底部は不安定な小さい平底。	口縁部内・外面はヨコナデ。肩部内面はナデ（指頭押圧痕を残る。外面はヨコナデ。体部内面中位はヘラ削り、下半はナデ、外面上半はヨコハケ目、中位以下は斜行ハケ目。底部は一定方向のハケ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4.

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
181 145 PL.33	小丸 C_2	1. 8.6 2. 8.8 3. 9.2	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形で、底部は平底気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。肩部内面に粘土接合痕を残す。体部内面中位まではナデ、以下はナデアゲ。外面中位まではタテハケ目後ナデ（部分的にハケ目が残る。）以下はヘラ削り。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
182 146 PL.33	小丸 C_2	1. 7.8 2. 9.3 3. 9.1	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は不安定な平底。	口縁部内・外面はヨコナデ、中位はハケ目、端部はヨコナデ。肩部外面はヨコナデ。体部内面中位まではヘラ削り下半以下はヨコナデ、外面はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
183 150 PL.33	小丸 C_2	1. 9.2 2. 9.3 3. 9.2	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は不定方向のヘラ削り、外面中位までがヨコ・タテのハケ目、以下がナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
184 144 PL.33	小丸 C_2	1. 9.2 2. 9.0 3. 9.6	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は外上方に引き出され面を有す。頸部の境は明瞭。体部は球形。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内面はヘラ削り、外面はハケ目後ヨコナデ（一部ハケ目が残る）。 体部内面上半はヘラ削り、以下はナデ外面はヘラ削り後ナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
185 153 PL.33	小丸 C_2	1. 8.7 2. 9.2 3. 10.2	完形品。 口縁部は内弯気味に長くのび、端部は外上方に尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形で、底部は尖り気味	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はナデ、以下はナデアゲ。外面上半はヨコナデ、以下は丁寧なヘラ削り。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
186 308 PL.33	小丸 C_2	1. 8.1 2. 8.5※ 3. 8.7	体部中位一部欠損。 口縁部は内弯気味に短く開き、端部は外上方に引き出され尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形で、底部はやや尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は左・左上・上方向のヘラ削り。外面はナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
187 226 PL.33	小丸 C_2	1. 7.2 2. 8.4 3. 8.0	完形品。 口縁部は短く屈折して外上方に開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はタテハケ目後ヨコナデ。体部外面中位まで続く。以下はタテハケ目。内面は上方にナデアゲ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
188 206 PL.34	小丸 C_2	1. 7.1 2. 7.8 3. 7.4	完形品。 口縁部は短く屈折して外上方に開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形で、底部は不安定な平底。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はナデ（指頭押圧痕を残す。）中位以下は上方向のナデアゲ。外面上半はヨコナデ。中位以下はヘラ削り後ナデ底部はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡赤褐色 4. 体部に黒斑
189 214 PL.34	小丸 C_2	1. 8.4 2. 8.0 3. 7.9	完形品。 口縁部は短く屈折して開き、端部はやや外方に尖り終る。頸部の境は明瞭。体部は球形で、底は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は左上方向のナデアゲ。外面上半はヨコナデ、中位はタテハケ目、下半はナデ・ヨコナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4.
190 323 PL.34	小丸 C_2	1. 9.4※ 2. 8.8※ 3. 8.0	¾残存。 口縁部は外反し、端部は外方に丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや肩のはった扁平な球形。	口縁部内・外面、肩外面はヨコナデ。体部内面は右方向のヘラ削り。外面中位はナデ、以下は不定方向のハケ目後ナデ。底部内面はナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗茶褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑

小型丸底壺

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
191 182 PL.34	小丸 C_3	1. 8.3 2. 8.7 3. 8.1 4.	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半は右方向のヘラ削り後ヨコナデ。下半はヘラ削り。外面上半はナデ（中位に一部分ハケ目が残る）下半は細い斜行ハケ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
192 154 PL.34	小丸 C_3	1. 7.5 2. 8.7 3. 8.8 4.	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形で、底部はわずかに尖り気味。	口縁部内面から端部はヨコナデ、外面はタテハケ目後ナデ。体部内面はナデ、底部内面はナデアゲ、外面はタテ・斜行ハケ目後ナデ、底部外面は不定方向のヘラ削り。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 体部に黒斑
193 056 PL.34	小丸 C_3	1. 8.7 2. 8.9 3. 9.0 4.	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。粘土接合痕を残す。体部内面は指頭押圧後ヨコナデ、下半以下はナデ。外面上半はナデ、中位以下は右下方向の粗いヘラ削り。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡茶褐色 4.
194 328 PL.34	小丸 C_2	1. 8.8* 2. 9.7* 3. 4.	体部下半欠損。 口縁部は外反し、端部は尖り気味に終る。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は左方向のヘラ削り、外面上半はナデ、以下は斜行ハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗灰褐色 4.
195 305 PL.34	小丸 C_2	1. 9.1 2. 10.2 3. 10.0 4.	完形品。 口縁部は外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形で、底部は不安定な小さい平底。	口縁部内面は粗い斜行ハケ目、外面はタテハケ目、端部はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はタテハケ目、中位はヨコナデ、下半はタテハケ目、底部はヨコハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 体部に黒斑
196 095 PL.34	小丸 C_2	1. 7.3 2. 8.1 3. 4.	底部欠損。 口縁部は外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。頸部内面はヘラ削り。体部内面は右上方向のヘラ削り、外面上半より中位はヨコナデ、以下は右方向のヘラ削り。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗黄褐色 4.
197 332 PL.34	小丸 C_3	1. 7.9 2. 8.5 3. 4.	体部下半欠損。 口縁部は内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。体部は球形。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目。体部内面中位はナデアゲ、ヘラ削り。 全体に磨滅がはげしい。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 赤褐色 4. 口縁部に黒斑
198 312 PL.34	小丸 C_3	1. 10.3 2. 11.0 3. 4.	体部下半欠損。 口縁部は屈折しながら外反し、端部は外上方に面を有す。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は上方向のナデアゲ、外面は肩部までヨコナデ、以下は部分的にヘラ削りを残す不定方向のハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
199 166 PL.34	小丸 C_3	1. 8.7 2. 10.7 3. 10.8 4.	完形品。 口縁部は外反し、端部は水平に面を有し中央に凹線がめぐる。頸部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。内面の一部にハケ目が残る。体部内面中位までが右方向のヘラ削り、以下はナデアゲ。外面上半はナデ、中位以下は右下方向と不定方向のハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4.
200 136 PL.35	小丸 C_3	1. 10.7 2. 11.7 3. 10.9 4.	完形品。 口縁部は屈折しながら外反し、端部外上方に面を有す。頸部の境は明瞭。 体部は扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面、頸部内面はヨコナデ、体部内面はナデアゲ（ヘラ？）外面は粗雑な不定方向のハケ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
201 018 PL.35	小丸 C_3	1. 8.5 2. 9.6 3. 10.2	完形品。 口縁部は内弯気味に開き、端部は外上方に尖り気味に終る。頚部の境は明瞭。体部は球形。底部はわずかに凹む丸底。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はヨコナデ、中位はタテハケ目、以下は不定方向のハケ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 体部に黒斑　外面
202 090 PL.35	小丸 D_1	1. 6.8 2. 7.3 3. 6.6	完形品。 口縁部は短く内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頚部の境は明瞭。体部はやや扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。外面の一部にタテハケ目が残る。体部内面上半はヘラ削り、以下はナデ。外面は丁寧なヘラ削り。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4.
203 202 PL.35	小丸 D_1	1. 7.0 2. 8.2 3. 7.8	完形品。 口縁部は短く内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頚部の境は明瞭。体部は肩のはったいびつな球形。	口縁部内面はタテハケ目後ヨコナデ。外面端部はヨコナデ、口縁部から体部は細いタテハケ目後ヨコナデ。体部内面はヘラ削り。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4.
204 307 PL.35	小丸 E_1	1. 9.0 2. 9.2 3. 8.1	完形品。 口縁部内弯気味に外上方の開き、端部は尖り気味に終る。頚部の境は不明瞭。体部は扁平な球形。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。内面にハケ目が残る。体部は横方向のヘラ削り。外面は不定方向のハケ目後ヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗褐色 4.
205 160 PL.35	小丸 D_1	1. 8.1 2. 9.2 3. 9.0	完形品。 口縁部は屈折して外反し、端部は外上方に尖り気味に終る。頚部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頚部内面はナデ、外面はハケ目後ヨコナデ（一部ハケ目が残る）。体部内面中位はナデアゲ、以下はユビオサエ。外面中位は右方向のハケ目、以下はナデ。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4. 体部に黒斑
206 309 PL.35	小丸 D_1	1. 8.7 2. 3.	体部下半欠損。 口縁部は内弯気味に外上方に開き、端部は丸く終る。頚部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は左方向のヘラ削り。外面はハケ目後ナデ（部分的にハケ目が残る）。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4.
207 190 PL.35	小丸 D_1	1. 8.8 2. 9.5 3. 8.5	完形品。 口縁部は短く内弯気味に開き、端部は丸く終る。頚部の境は明瞭。体部はやや肩の下がる扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頚部内面はヘラ削り、外面はヨコナデ（部分的にハケ目が残る）体部上半はユビオサエ、中位以下は右上方向のヘラ削り。外面上半はナデ、下半はナデ後不定方向のハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
208 083 PL.35	小丸 D_2	1. 6.3 2. 6.9 3. 7.2	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は丸く終る。頚部の境は明瞭。体部はやや肩のはった球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はヨコナデ、中位以下はタテハケ目。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
209 075 PL.35	小丸 D_2	1. 2. 11.6 3.	完形品。 口縁部は外上方に短く開き、端部は尖り気味に終る。頚部の境は明瞭。 体部は扁平な球形で、底部はやや平担に仕上げる。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面はハケ目後ナデ（部分的にハケ目が残る）。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡赤褐色 4. 口縁部に黒斑
210 195—1 PL.35	小丸 D_2	1. 6.7 2. 8.1 3. 7.5	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は外上方に面を有す。頚部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は尖り気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面はヨコナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.

小型丸底壺

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
211 159—2	小丸 D_2	1. 7.4 2. 8.9 3. 8.1	完形品。 口縁部は短く外反し、端部はほぼ水平に面を有す。頸部の境は不明瞭。 体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はユビオサエ、中位はナデ、下半はユビオサエ。外面中位までナデ、下半は粗いハケ目後ナデ、凹凸がはげしい。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
212 043 PL.35	小丸 D_2	1. 8.0 2. 8.9 3. 8.3	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は平底気味。	口縁部内面は粗いヨコハケ目。外面はヨコナデ。体部内・外面はナデ。 全体に磨滅がはげしい。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4. 体部に黒斑
213 173 PL.36	小丸 D_2	1. 8.2 2. 9.1 3. 7.9	完形品。 口縁部は短く内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。 体部は凹凸のはげしい扁平な球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。頸部外面の一部分にタテハケ目が残る。体部内面中位までは右方向のヘラ削り、以下はナデ。外面上半はヨコナデ、中位から下半はナデ、底部はヘラ削り後部分的にナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4.
214 092 PL.36	小丸 D_2	1. 9.1 2. 9.4 3. 7.5	完形品。 口縁部は短く内弯気味に開き、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。 体部は重心の低い扁平な形態で、底部は小さい平底。	口縁部内面はヨコナデ、外面はタテハケ目後ヨコナデ。頸部外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ、外面は斜行ハケ目、下半・底部はナデ。	1. 密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4. 体部に黒斑
215 124 PL.36	小丸 D_2	1. 2. 10.7 3. 8.7	完形品。 口縁部は短く外反し、端部は丸く終る。体部は扁平な球形で、底部は尖り気味	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面上半はユビオサエ、中位はナデ、下半はナデアゲ。外面中位が粗い斜行ハケ目、下半はヨコナデ。 体部は全体に磨滅している。	1. やや粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
216 091 PL.36	小丸 E_1	1. 8.3 2. 9.2 3. 8.2	完形品。 口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部は尖り気味に終る。頸部の境は不明瞭。 体部は扁平な球形。	口縁部内・外・肩外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ後ナデ。外面上半はナデ、以下は不定方向の粗いハケ目。 口縁部から肩外面にかけて粘土接合痕跡が残る。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
217 104 PL.36	小丸 D_1	1. 8.8 2. 11.0 3. 9.9	完形品。 口縁部はわずかに屈折して外反し、端部はやや外方に開き丸く終る。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は平底気味。	口縁部内面は斜行ハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り、外面上半はヨコナデ、中位は細い斜行ハケ目、下半はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4.
218 194 PL.36	小丸 E_1	1. 8.1 2. 8.0 3. 7.8	完形品。 口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部は尖り気味に終る。頸部の境は屈折せず、体部は全体にビーカー状の形態をなす。底部は不安定な平底。口径と体径はほぼ等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ、外面はヘラミガキ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡赤褐色 4. 体部に黒斑
219 331	小丸 E_1	1. 7.0 2. 9.6 3.	体部下半欠損。 口縁部はほぼ垂直に短く立ち上がり、端部は尖り気味に終る。頸部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内面はタテナデ後ヨコナデ、外面はヨコナデ。体部内面は右方向のヘラ削り、外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4. 口縁部から体部にかけ黒斑
220 215 PL.36	小丸 E_1	1. 8.9 2. 9.6 3. 9.1	完形品。 口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部は尖り終る。頸部の境は不明瞭。 体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ、底部内面はユビオサエ。外面上半はヨコナデ、下半は不定方向の粗雑なハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
221 082 PL.36	小丸 E_1	1. 7.1* 2. 10.0* 3. 10.0*	完形品。 口縁部は内弯気味に立ち上がり、端部は尖り気味に終る。頚部の境は不明瞭。体部は球形。	口縁部内面は斜行ナデ、端部はヨコナデ。外面はナデ後ヨコナデ。体部内面はヘラ削り。外面はヨコナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 体部に黒斑
222 327 PL.36	小丸 E_2	1. 7.2 2. 7.2 3.	体部下半欠損。 口縁部はわずかに外反し、端部は尖り気味に終る。頚部はくびれず、体部は全体にビーカー状の形態をなす。 口径と体径は等しい。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面はヘラ削り？。外面は不整なナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 茶褐色 4. 体部に黒斑
223 046 PL.36	小丸 E_2	1. 8.3 2. 7.1 3. 8.1	完形品。 口縁部はわずかに外反し、端部は小さな面をなす。頚部の境は不明瞭。 体部はビーカー状の形態をなす。底部は平底気味。	口縁部内・外面はヨコハケ目後ヨコナデ。頚部内・外面はユビオサエ（ナデ）。体部内面はタテ・ヨコナデ。外面はヘラ削り後粗いナデ。	1. やや粗：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4. 底部内面に黒斑
224 304 PL.36	小丸 E_2	1. 9.6 2. 11.3 3. 8.7	完形品。 口縁部はほぼ垂直に立ち上がり、端部は外上方に引き出され尖り気味に終る。頚部の境は不明瞭。体部は扁平な球形。	口縁部内面はヨコハケ目、外面はタテハケ目後ヨコナデ。端部はヨコナデ。頚部外面はタテハケ目。体部内面はヘラ削り。外面上半はヨコナデ（磨滅？）下半は細いタテハケ目後ナデ。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗赤褐色 4. 体部に黒斑
225 333	小丸	1. 9.0 2. 3.	体部欠損。 口縁部は長く内弯気味に開き、端部は外方に丸く終る。頚部の境は不明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 外面にスス付着
226 311	小丸	1. 10.9 2. 3.	体部欠損。 口縁部は直線的に外反し、端部は丸く終る。頚部の境は不明瞭。	口縁部内・外面はヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 黒褐色 4.
227 306 PL.36	小丸 C_2	1. 2. 8.6 3.	口端部欠損。 口縁部は直線的に外方する。 頚部の境は明瞭。体部は球形。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部上半はタテハケ目後ヨコナデ、下半はヨコハケ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4. 外面にスス付着
228 187 PL.37	小丸	1. 2. 9.2 3.	口縁部上半欠損。 口縁部はわずかに外反する。頚部の境は明瞭。体部は扁平な球形で、底部は平底気味。	口縁部内・外面はヨコナデ。頚部内面はハケ目。体部内面はナデアゲ、外面上半はヨコナデ、下半はヘラ削り後ヨコナデ、底部はヘラ削り。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4.
229 175 PL.37	小丸	1. 2. 8.4 3.	口縁部欠損。 体部は扁平な球形で、底部は平底気味。	体部内面はナデアゲ、外面上半はヨコナデ、以下はヘラ削り。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗褐色 4. 胴部中位に黒斑
230 102 PL.37	小丸	1. 10.0 2. 3.	体部欠損。 口縁部は直線的に外反し、端部は外上方に面を有す。頚部の境は明瞭。	口縁部内面・端部外面はヨコナデ。外面は粗いタテハケ目。頚部内面は右方向のヘラ削り。外面はヨコナデ。	1. やや密：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4.

小型丸底壺

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
231 207 PL.37	小 丸	1. 2. 8.6 3.	口縁部欠損。 口縁部は内弯気味に開く。頸部の境は明瞭。体部は扁平な球形。底部は尖り気味。	口縁部内面は斜行ハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ、外面上半はタテハケ目、以下はヨコナデ。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡赤褐色 4.
232 315 PL.37	小 丸	1. 2. 9.5 3.	口縁部上半欠損。 口縁部は外反する。頸部の境は明瞭。体部は球形。	頸部内面から体部外面上半までヨコナデ。体部内面はナデアゲ、底部はナデ。外面中位以下はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黒褐色 4. 体部に黒斑
233 017 PL.37	小 丸	1. 2. 9.2 3.	口縁部欠損。 頸部の境は明瞭。体部は肩のはった扁平な球形。	頸部内面はヘラ削り後ヨコナデ。体部内面はナデアゲ、外面上半はヨコナデ、中位以下はナデ。 体部外面に丹塗り？。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗黄褐色 4. 体部中位にスス付着
234 313 PL.37	小 丸	1. 2. 8.4 3.	口縁部欠損。 体部は球形。	体部内面上半はナデアゲ、以下はユビオサエ、外面上半はヨコナデ、以下はナデ。	1. 粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗黒褐色 4.
235 326 PL.37	小 丸	1. 2. 10.0 3.	口縁部欠損。 体部は肩のはった扁平な球形。	頸部内面はユビオサエ。体部内面はヘラ削り後ナデ、外面はハケ目後ヨコナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗褐色 4. 体部に黒斑
236 005 PL.37	小 丸	1. 2. 9.9 3.	口縁部欠損。 体部は肩の下がった扁平な球形で、底部は尖り気味。	体部内面上半はナデ、下半はナデアゲ、外面上半はヨコナデ、下半は細いハケ目。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 暗褐色 4.
237 314 PL.37	小 丸	1. 2. 9.8 3.	口縁部欠損。 体部は肩の下がった扁平な球形。底部は不安定な小さい平底。	頸部内面はナデ。体部内面中位はユビオサエ、以下はヘラ削り、外面上半はヨコナデ、中位以下は細いハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡赤褐色 4. 体部外面にスス付着
238 310 PL.37	小 丸	1. 2. 7.8 3.	口縁部欠損。 頸部の境は明瞭。体部は肩の下がった扁平な球形。底部は平底気味。	体部内面上半はナデ、下半はナデアゲ、外面はヨコナデ、底部はナデ。	1. 密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡褐色 4.
239 196 PL.37	小 丸	1. 2. 8.8 3.	口縁部欠損。 頸部の境は明瞭。体部は肩のはった扁平な球形で、底部は尖り気味。	体部内面はヘラ削り、外面上半はヨコナデ、中位の一部にヨコハケ目、以下はナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 軟質 3. 淡灰褐色 4.
240 325 PL.37	小 丸	1. 2. 9.1 3.	頸部⅔・体部残存。 頸部の境は明瞭。体部は肩のはった扁平な球形で、底部は尖り気味。	頸部内面はヨコナデ。体部内面上半はユビオサエ、中位以下はナデアゲ。外面は磨滅のため調整不明。	1. 粗：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 灰褐色 4.

番号	種類	法量	形態の特徴	手法の特徴	備考
241 330 PL.37	小丸	1. 2. 11.7※ 3.	口縁部・底部欠損。 体部は肩のはった尖り気味の球形。	体部内面上半はナデ、中位はナデアゲ。外面上半はヨコナデ、中位はヘラ削り後ナデ。	1. やや密：細砂粒を含む 2. 軟質 3. 暗灰褐色 4.
242 201 PL.38	鉢A	1. 15.2 2. 6.1 3. 9.7	完形品。 安定した平底から、内弯気味に長くのび、端部はやや内側に丸く終る。	体部内面はヨコナデ？、外面は磨滅のため調整不明。底部内面はユビオサエ、外面は細いタテハケ目。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡灰褐色 4.
243 204 PL.38	鉢B	1. 18.3 2. — 3. 10.0※	底部一部欠損。 口縁部は屈折して外反し短くのびる。端部は水平に面をなし中央に凹みがめぐる。体部は椀状をなす。	口縁部内・外面はヨコナデ。体部内面は右方向のヘラ削り、底部は左上方向のヘラ削り。外面は粗いハケ目後ヘラ削り。部分的にナデが残る。 体部外面は凹凸がはげしい。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 橙褐色 4. 外面にスス付着
244 227	手づくね	1. 4.2 2. — 3. 3.3	完形品。 体部は斜め外方に広がり、口縁端部はほぼ垂直に立ち上がり、尖り気味に終る。	内面はヨコナデ、外面はナデ？。	1. 密：細砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4. 体部に黒斑
245 352	鉢C	1. 12.7 2. — 3.	底部欠損。 深い碗形で、体部は外上方にのび、口縁部はわずかに内弯する。端部は尖り気味に終る。	内面上半はヨコナデ、下半はユビオサエ。外面はヨコナデ、下半に粗いハケ目痕が残る。底部近くはヘラ削り？。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黄褐色 4. 体部に黒斑
246 134 PL.38	鉢D	1. 11.0 2. — 3. 6.8	完形品。 砲弾形の深い碗形をなす。底部はやや尖り気味の丸底。体部は内弯気味に外上方に長くのび、端部は尖り気味に終る。	端部内面はヨコハケ目後ヨコナデ、外面はヨコナデ。体部内面はヨコナデ、外面は粗いタテハケ目。	1. 粗：中砂粒を含む 2. 堅緻 3. 黄褐色 4. 底部に黒斑
247 071 PL.38	鉢E	1. 14.2 2. 5.0 3. 6.5	完形品。 安定した平底を持つ体部は突出した底部から内弯気味に外上方にのび、端部は尖り気味に終る。	端部内・外面はヨコナデ。体部内面はナデアゲ、外面はナデ。底部内面はユビオサエ後ナデ。外面はナデ。	1. やや粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡黄褐色 4. 体部に黒斑
248 379	鉢D	1. 11.6 2. — 3. 5.4	完形品。 深い碗形をなす。体部は内弯気味に外上方にのび、端部は尖り気味に終る。	内面はナデ。端部外面はヨコナデ、以下はナデ。	1. 粗：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 淡褐色 4.
249 353	鉢F	1. 11.0 2. 3.	体部下半欠損。 体部上半で屈折し、口縁部は内弯気味に外上方に短くのび、端部は丸く終る。	体部内面はヨコナデ、外面上半はヨコナデ、下半は不定方向のハケ目。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 灰褐色 4.
250 351 PL.38	坏A	1. 11.8 2. 6.0 3. 3.1	完形品。 体部は内弯気味に短くのび、端部は丸く終る。	内面は左方向のヘラ削り後ヘラ磨き。外面はヘラ磨き。	1. 密：粗砂粒を含む 2. 堅緻 3. 赤褐色 4. 底部外面に黒斑

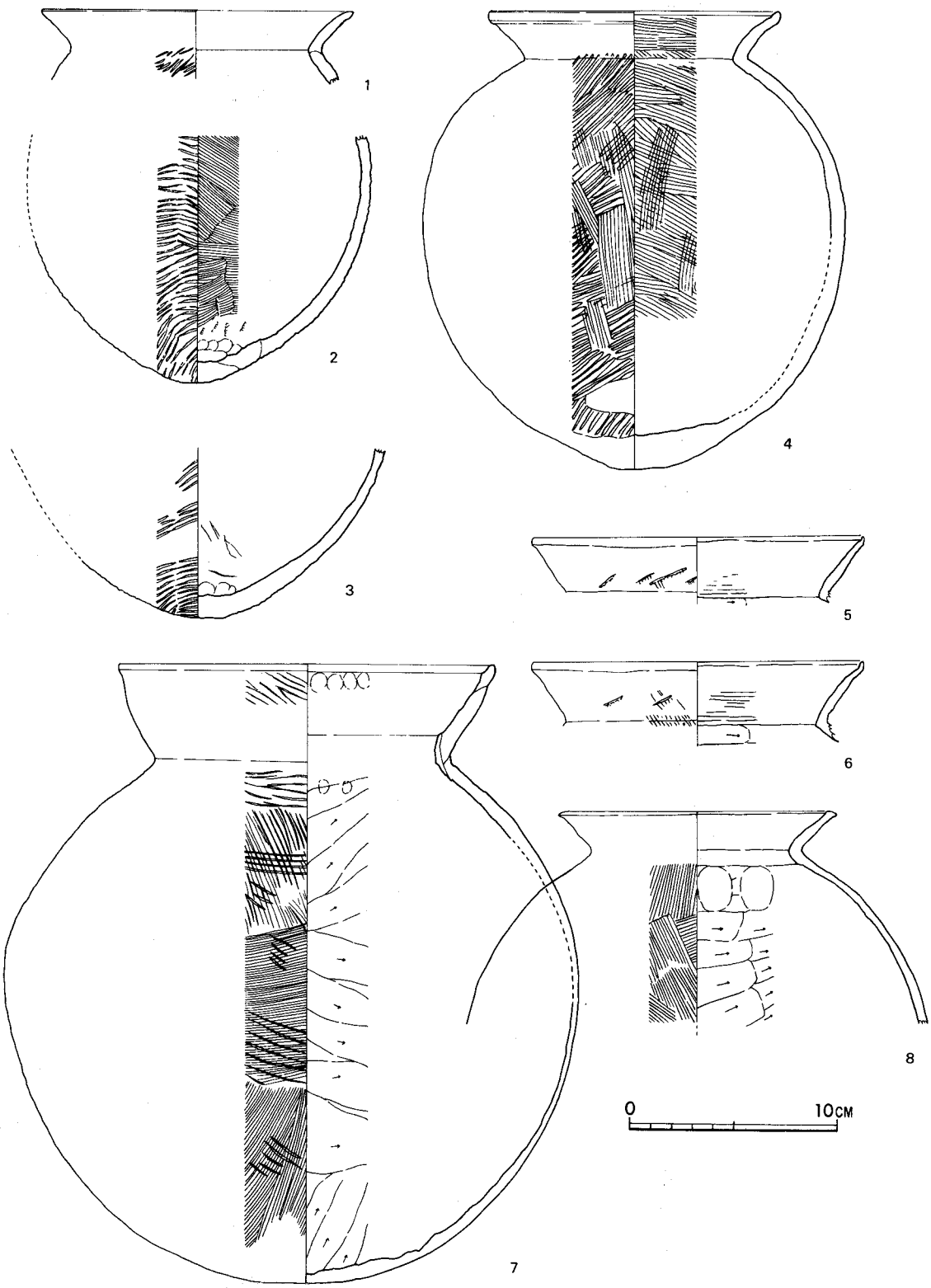


Fig. 41 SD—01出土土師器実測図①

甕形土器

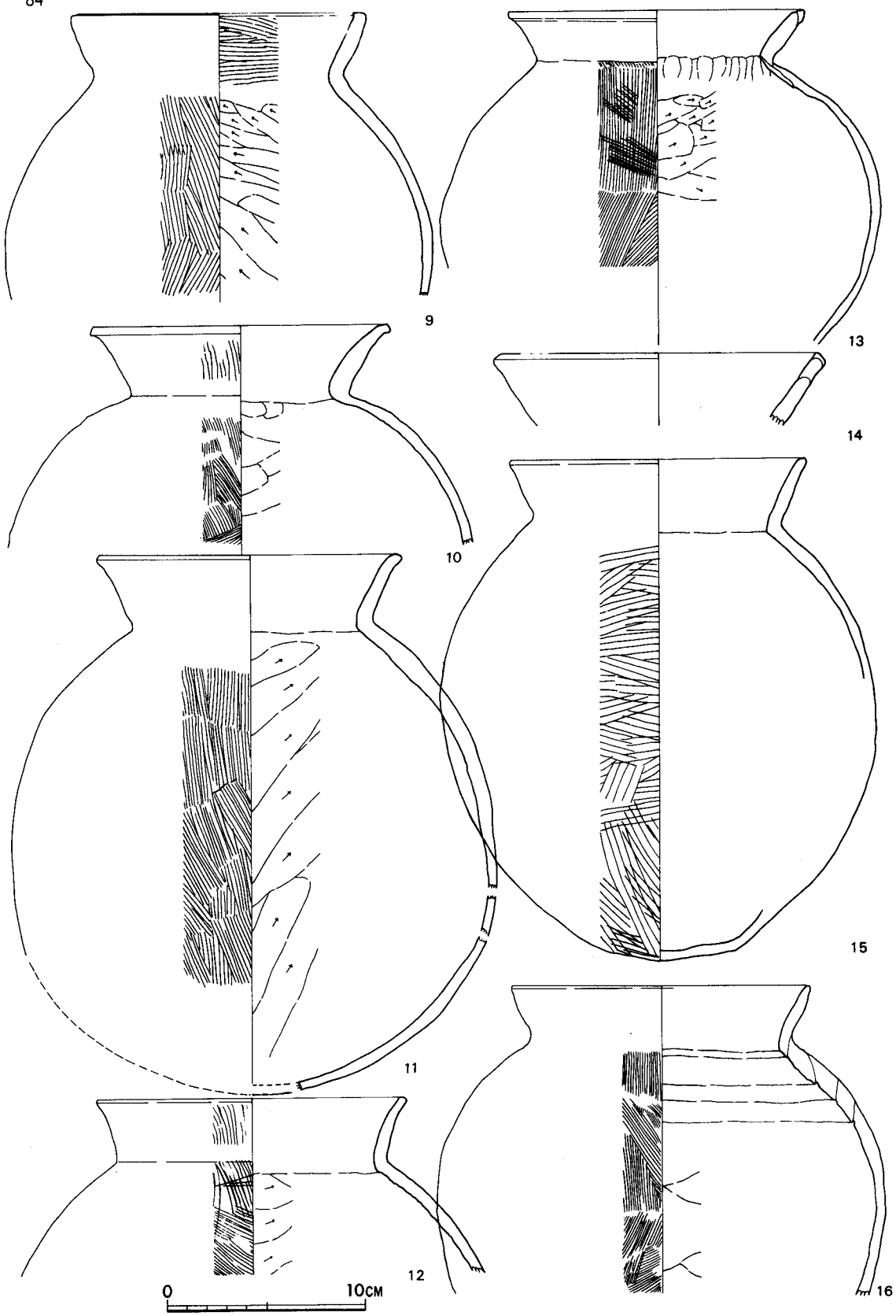


Fig. 42 SD−01出土土師器実測図②

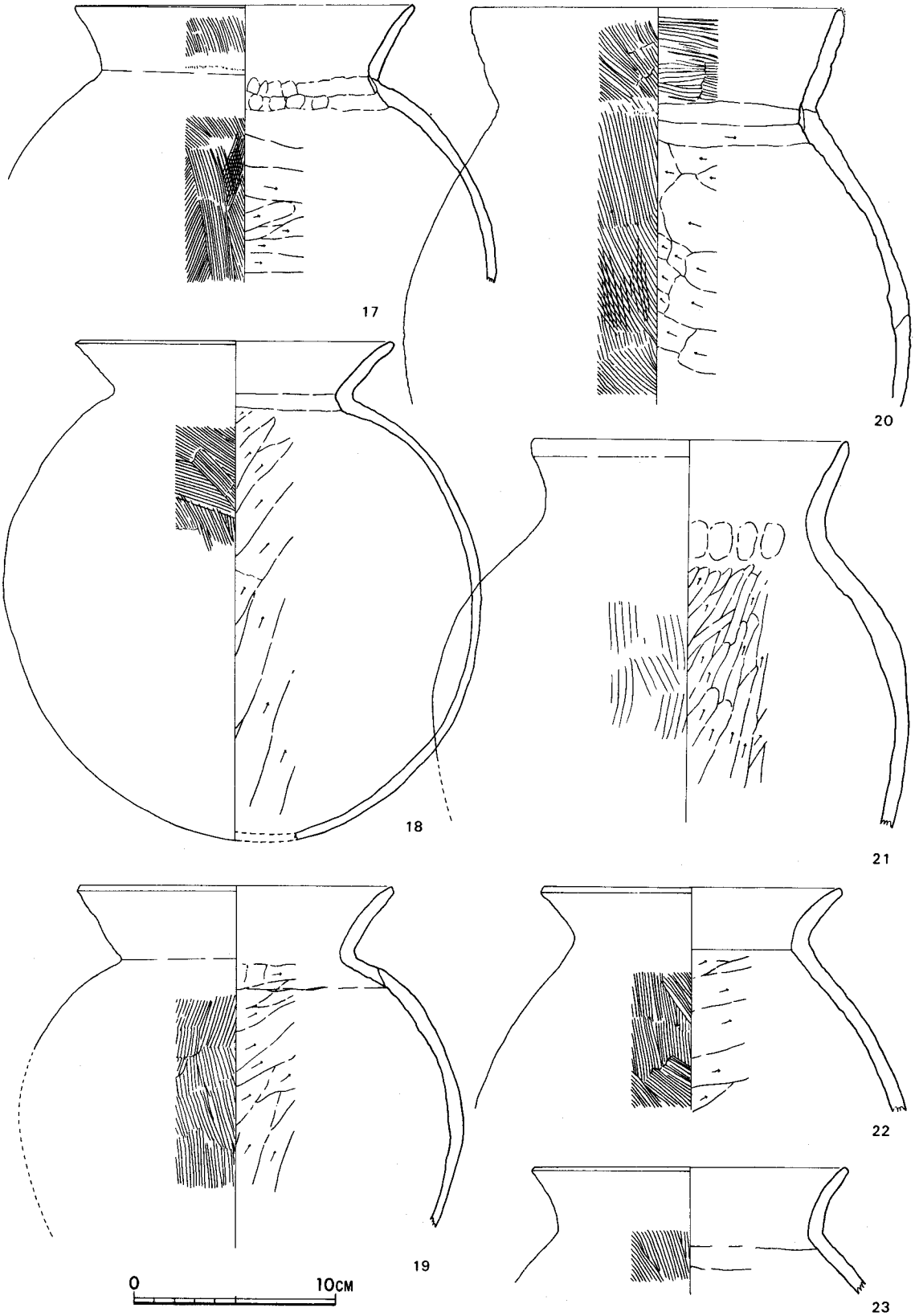


Fig. 43　SD−01出土土師器実測図③

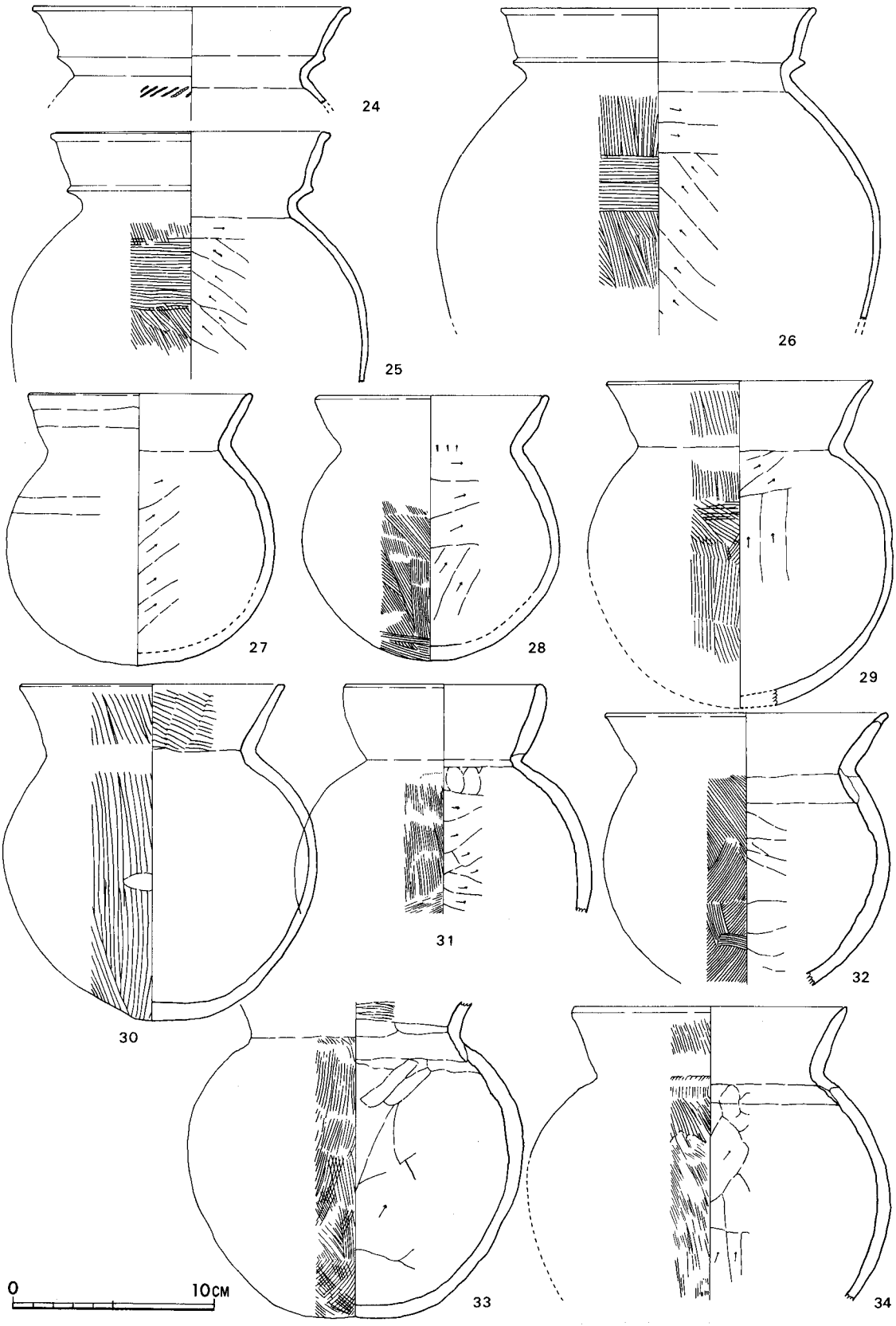


Fig. 44 SD−01出土土師器実測図④

甕形土器・壺形土器

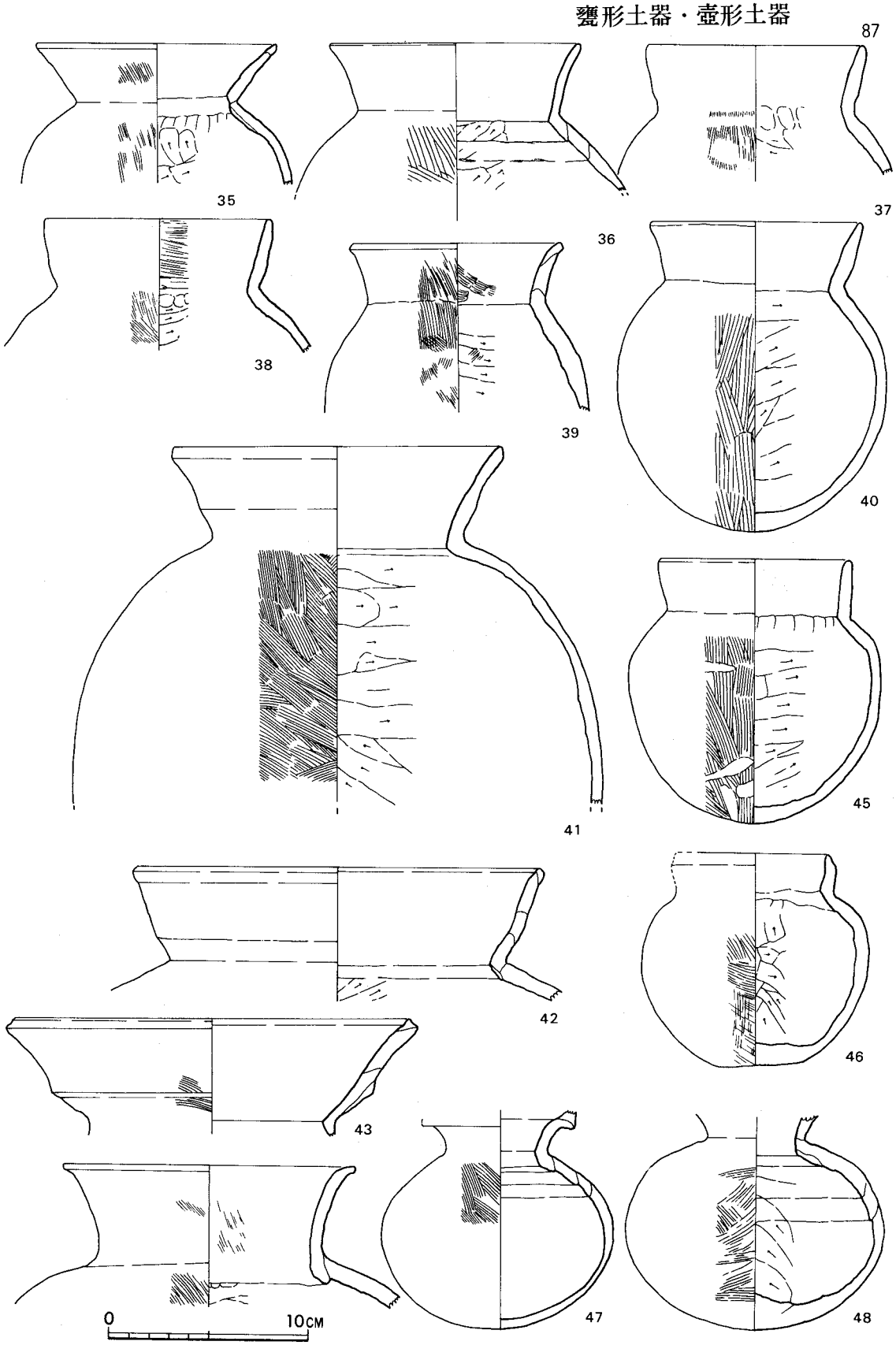


Fig. 45　ＳＤ－01出土土師器実測図⑤

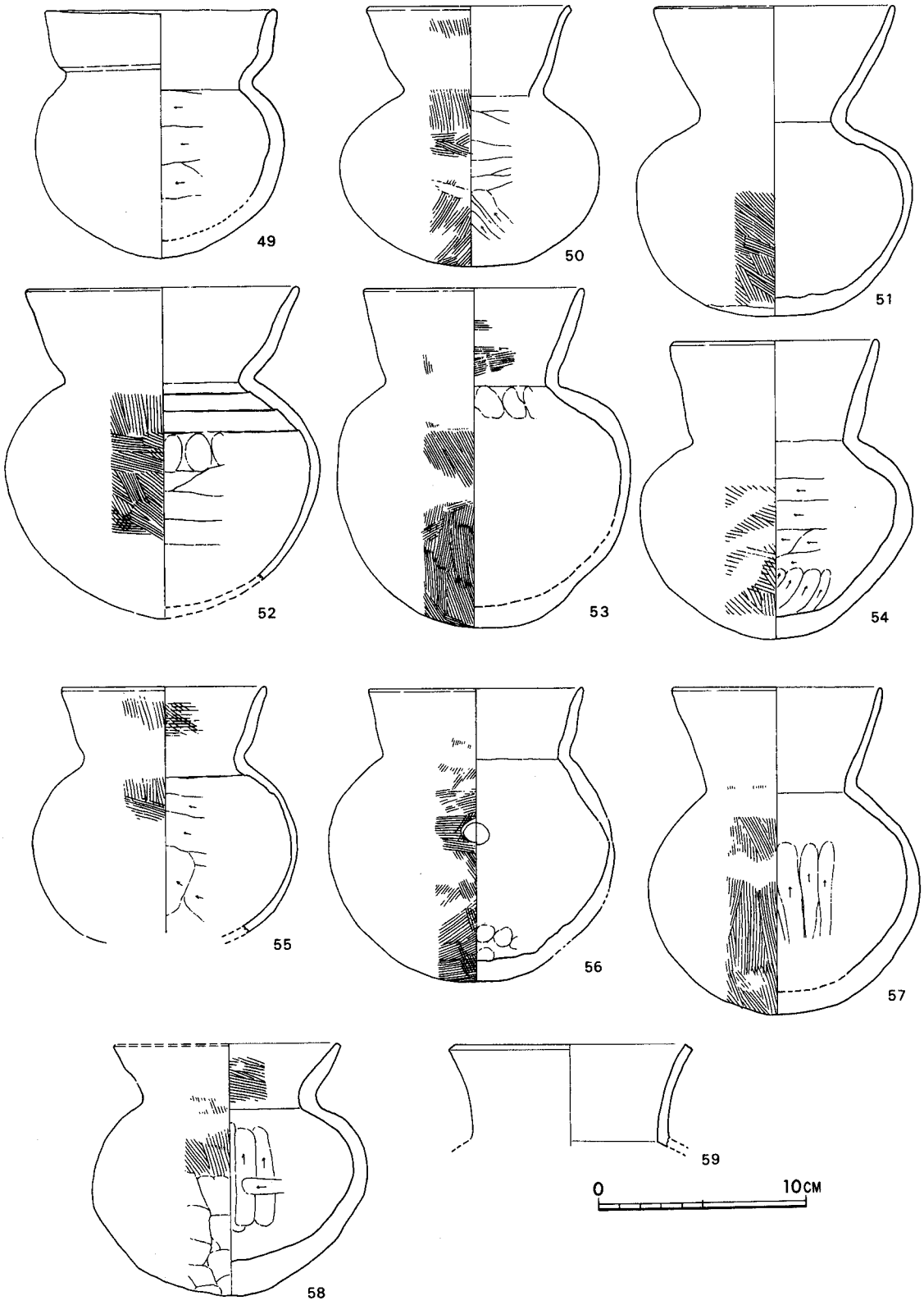


Fig. 46 SD—01出土土師器実測図⑥

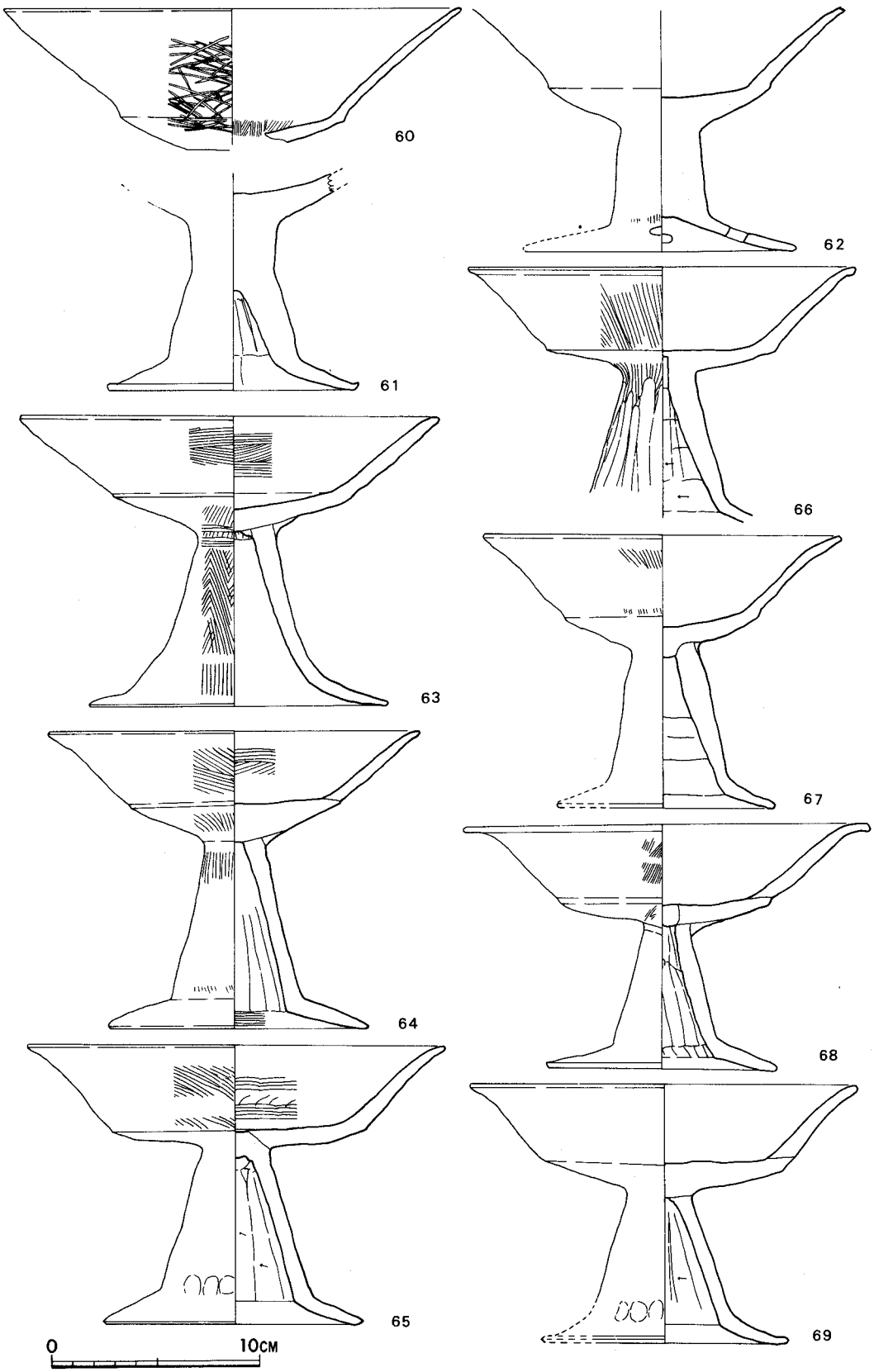


Fig. 47 SD−01出土土師器実測図⑦

高坏形土器

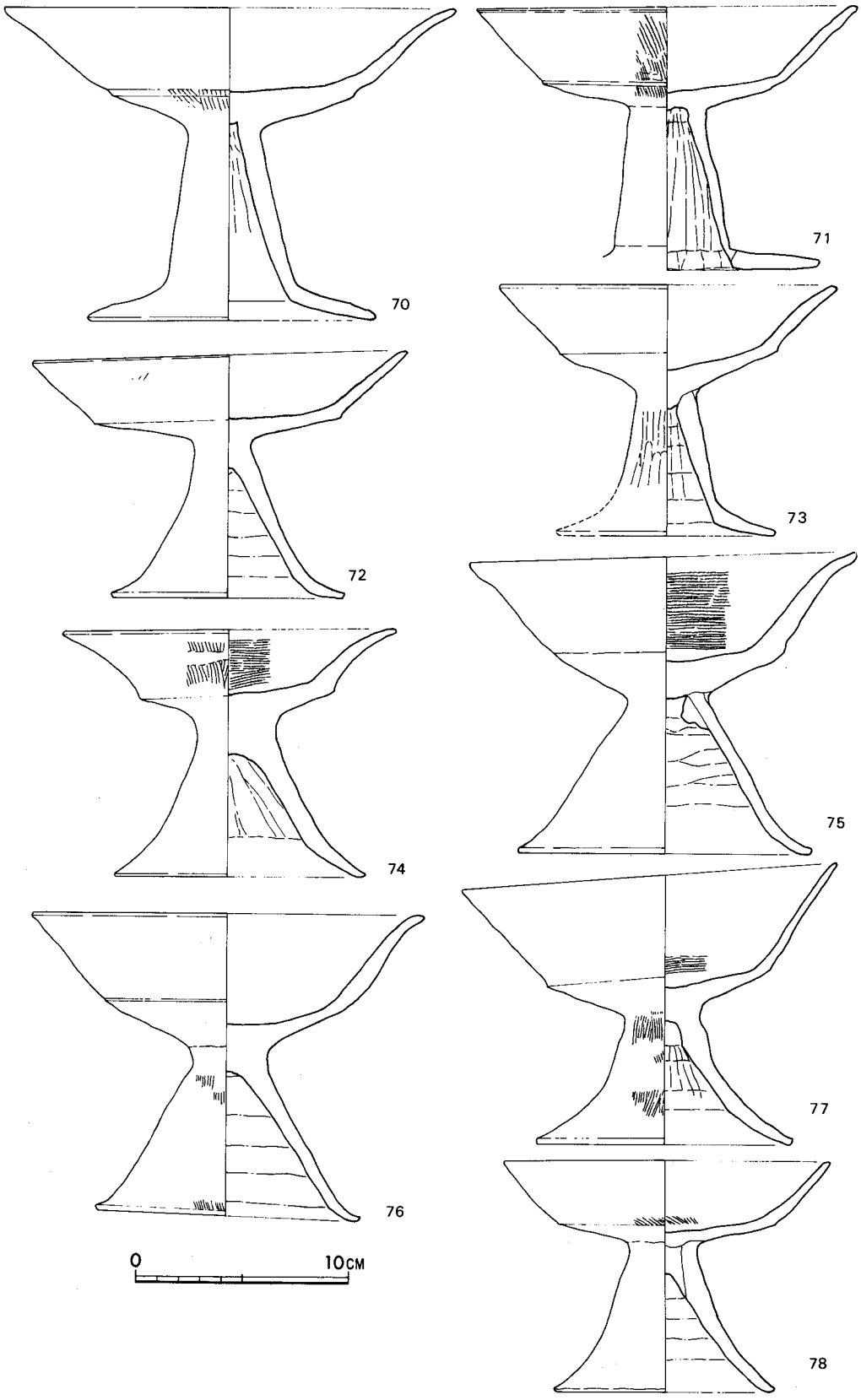


Fig. 48 SD−01出土土師器実測図⑧

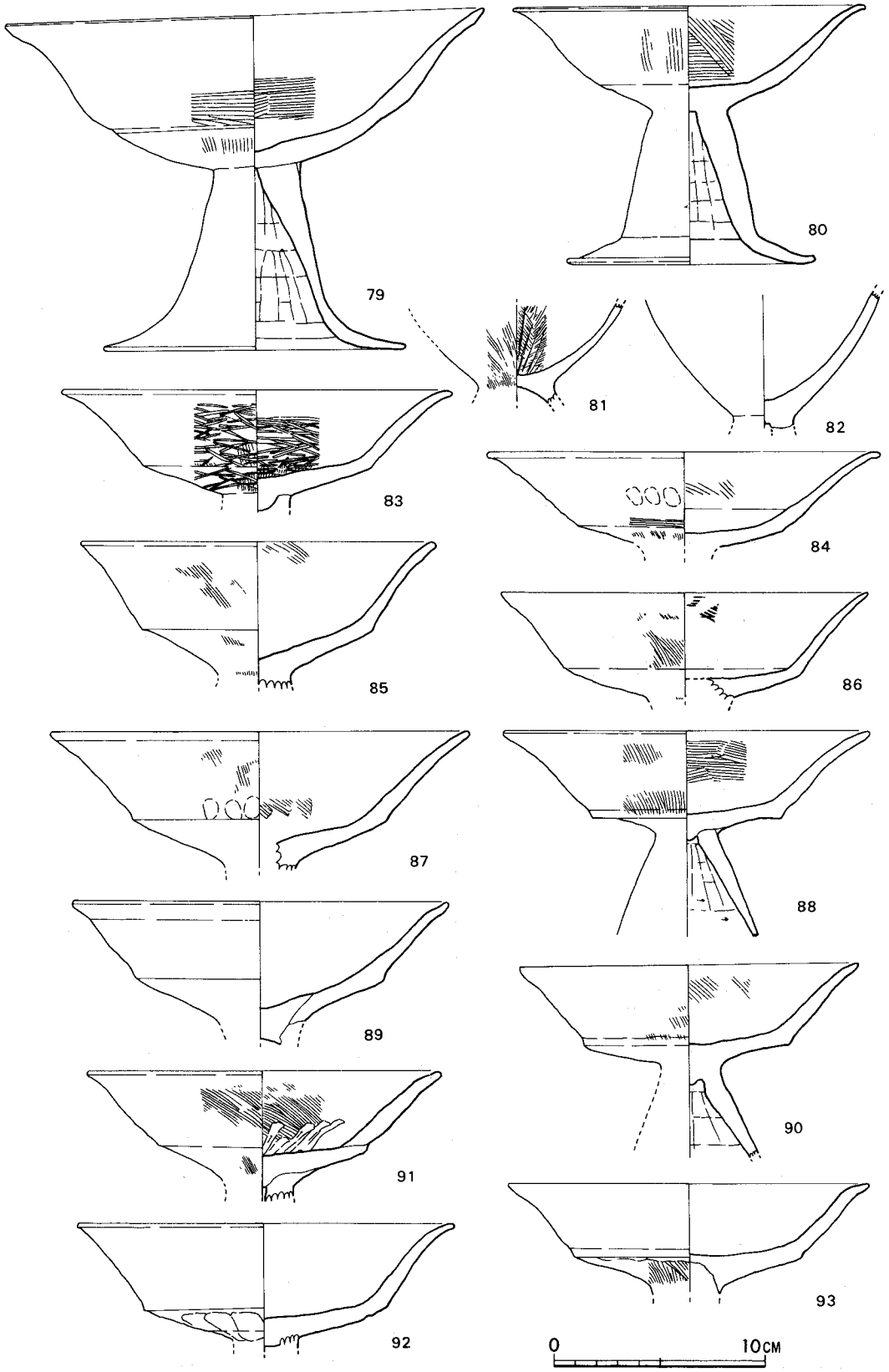


Fig. 49 ＳＤ—01出土土師器実測図⑨

高坏形土器

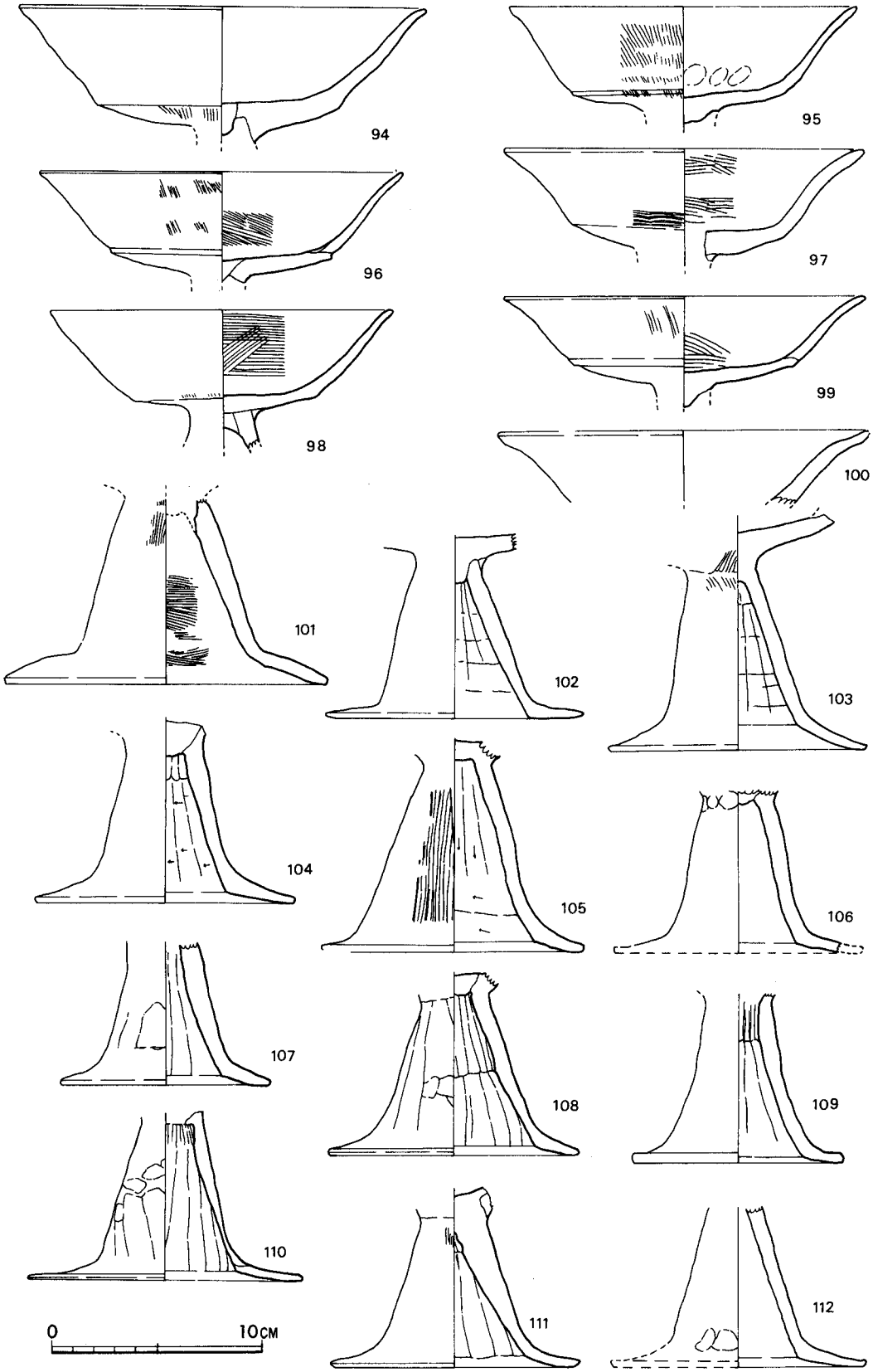


Fig. 50 ＳＤ—01出土土師器実測図⑩

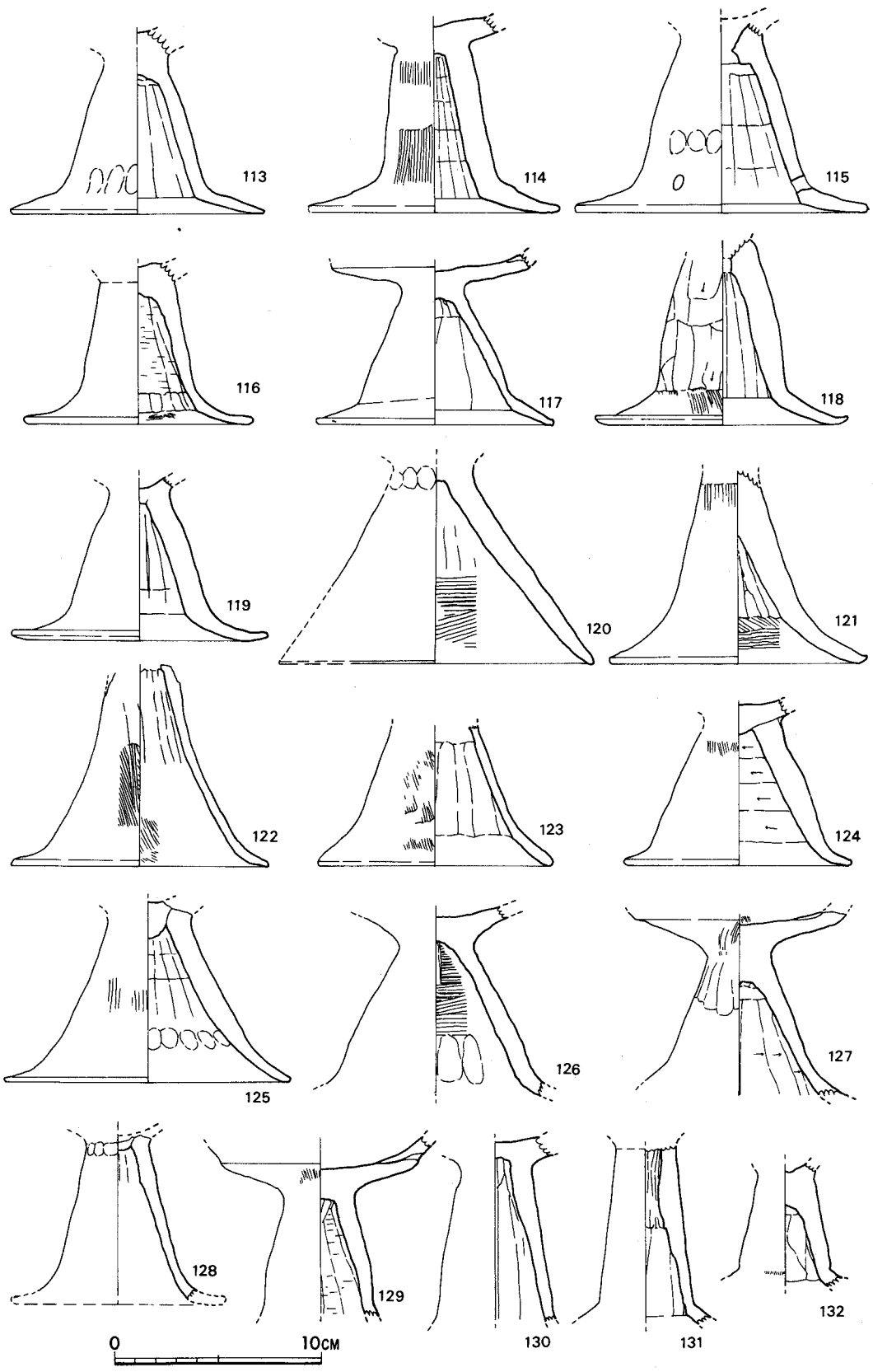


Fig. 51 SD−01出土土師器実測図⑪

小型丸底壺

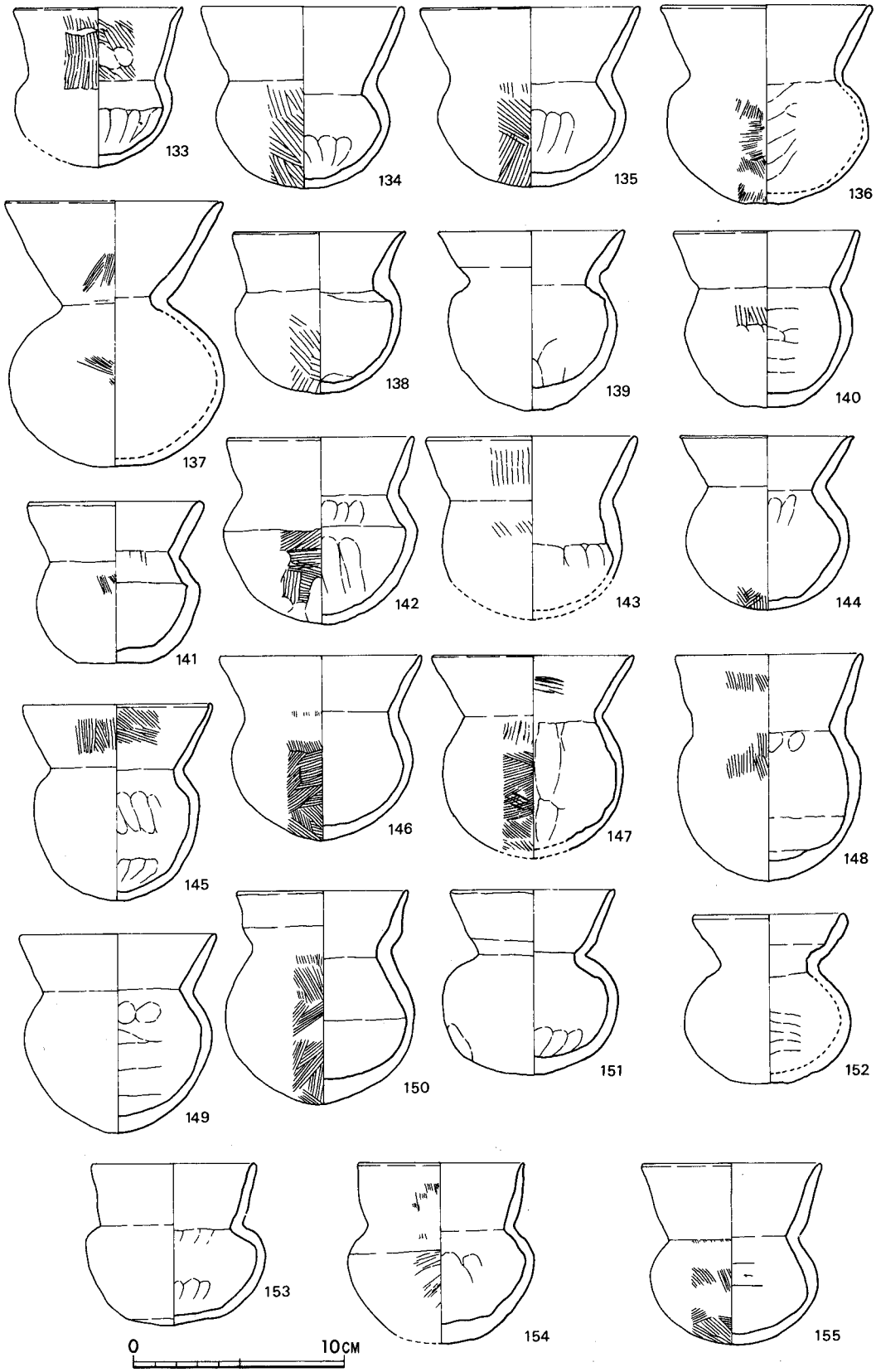


Fig. 52 ＳＤ−01出土土師器実測図⑫

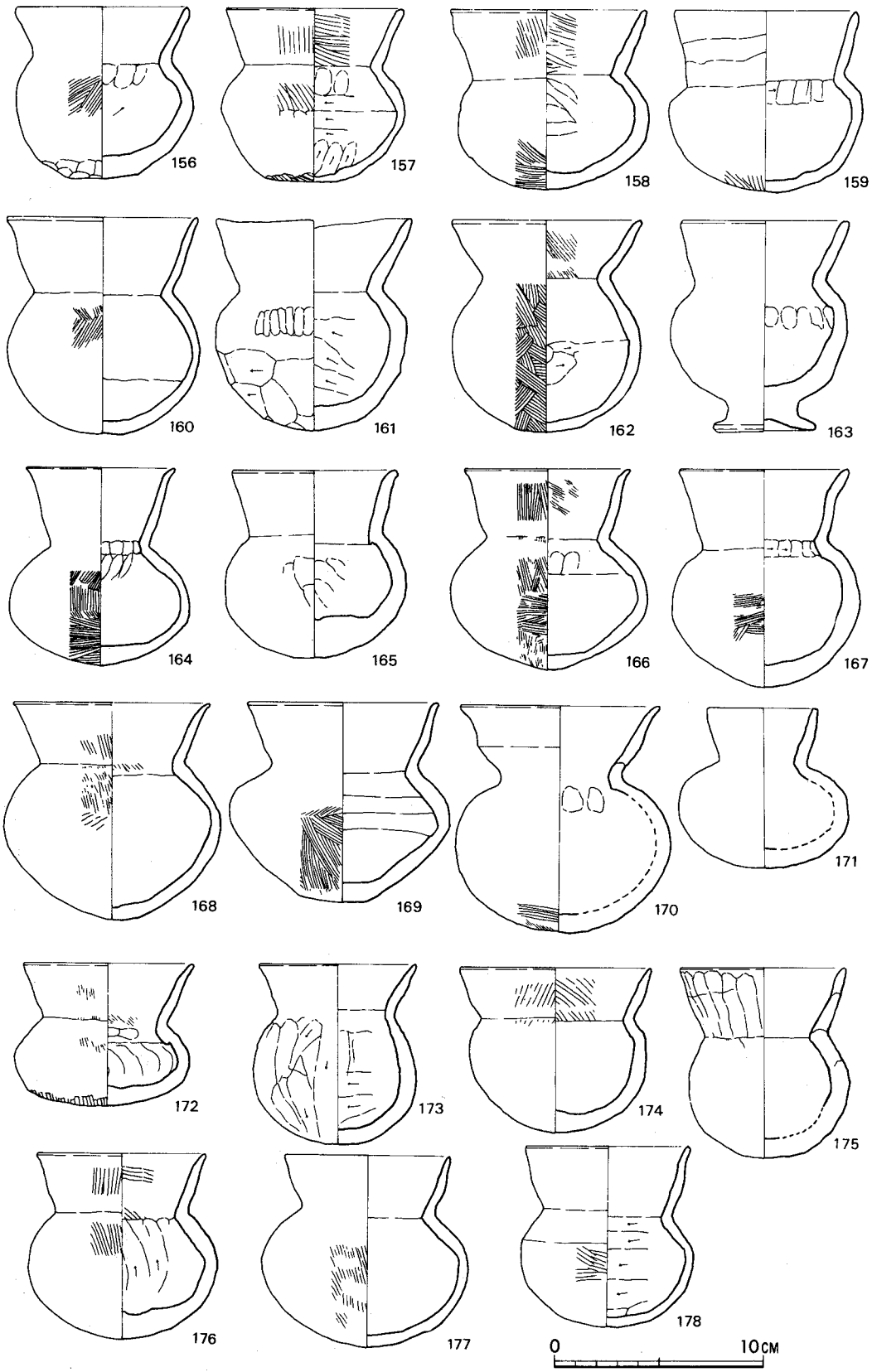


Fig. 53 SD—01出土土師器実測図⑬

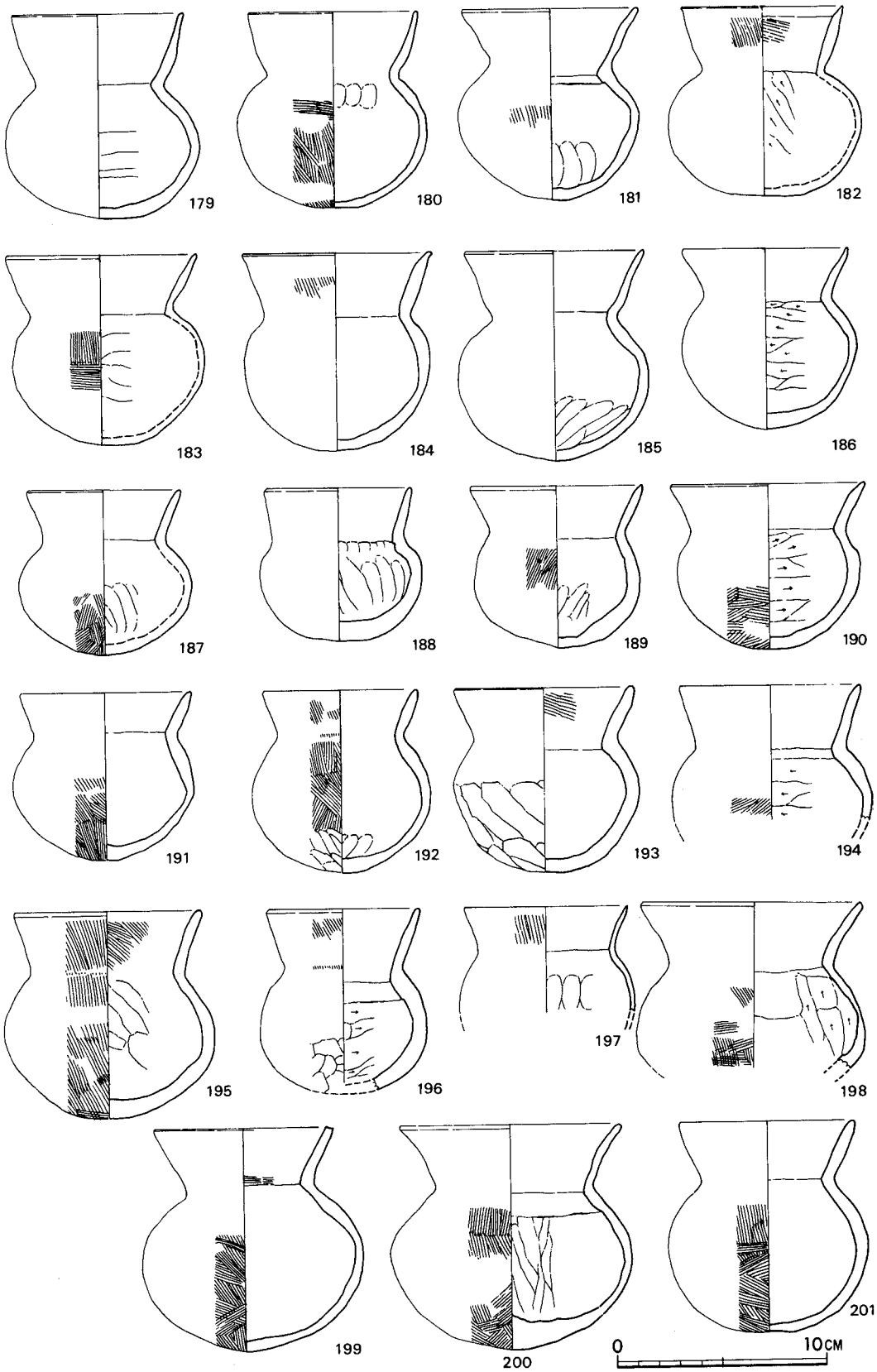


Fig. 54 SD−01出土土師器実測図⑭

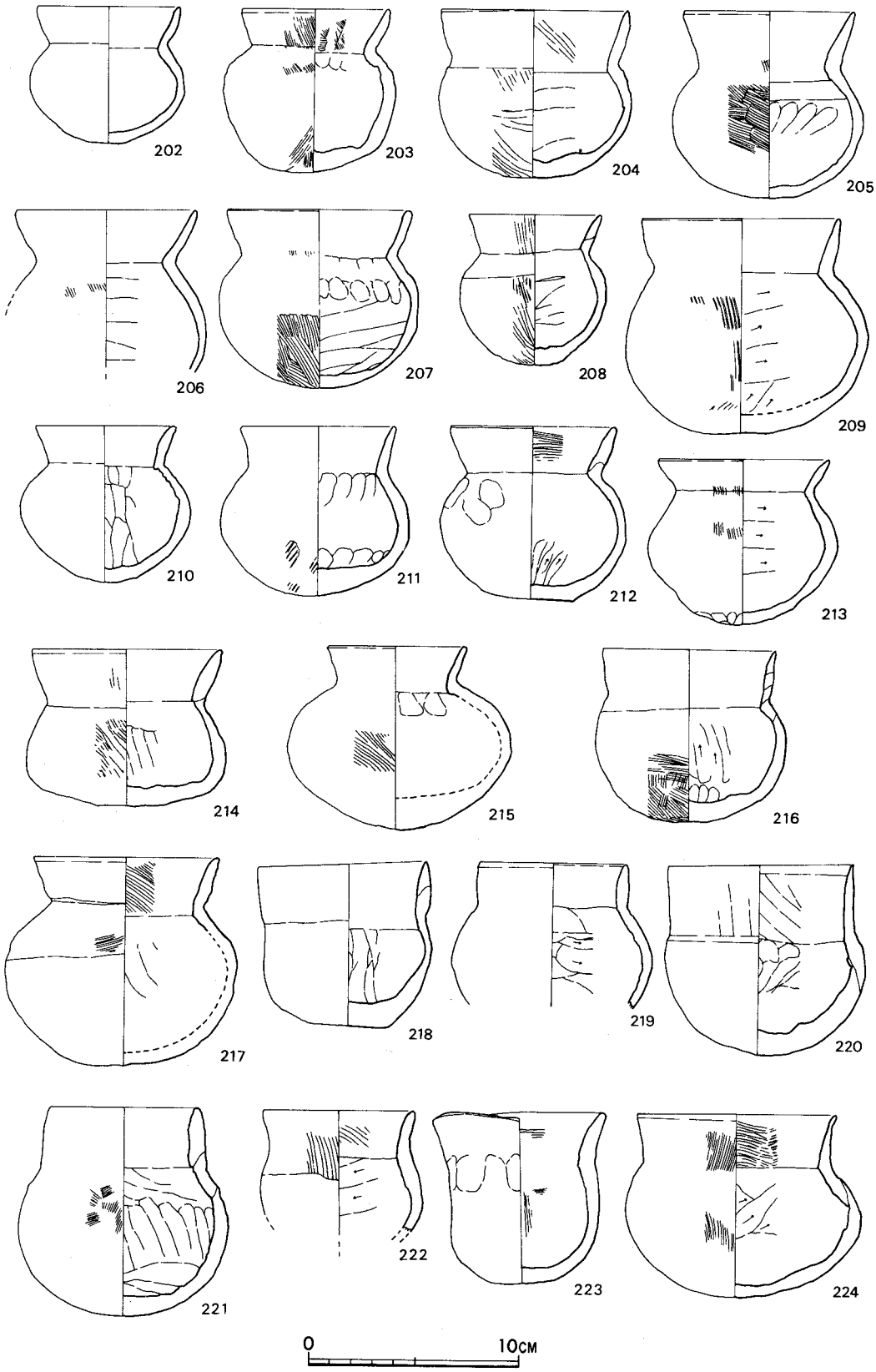


Fig. 55 SD−01出土土師器実測図⑮

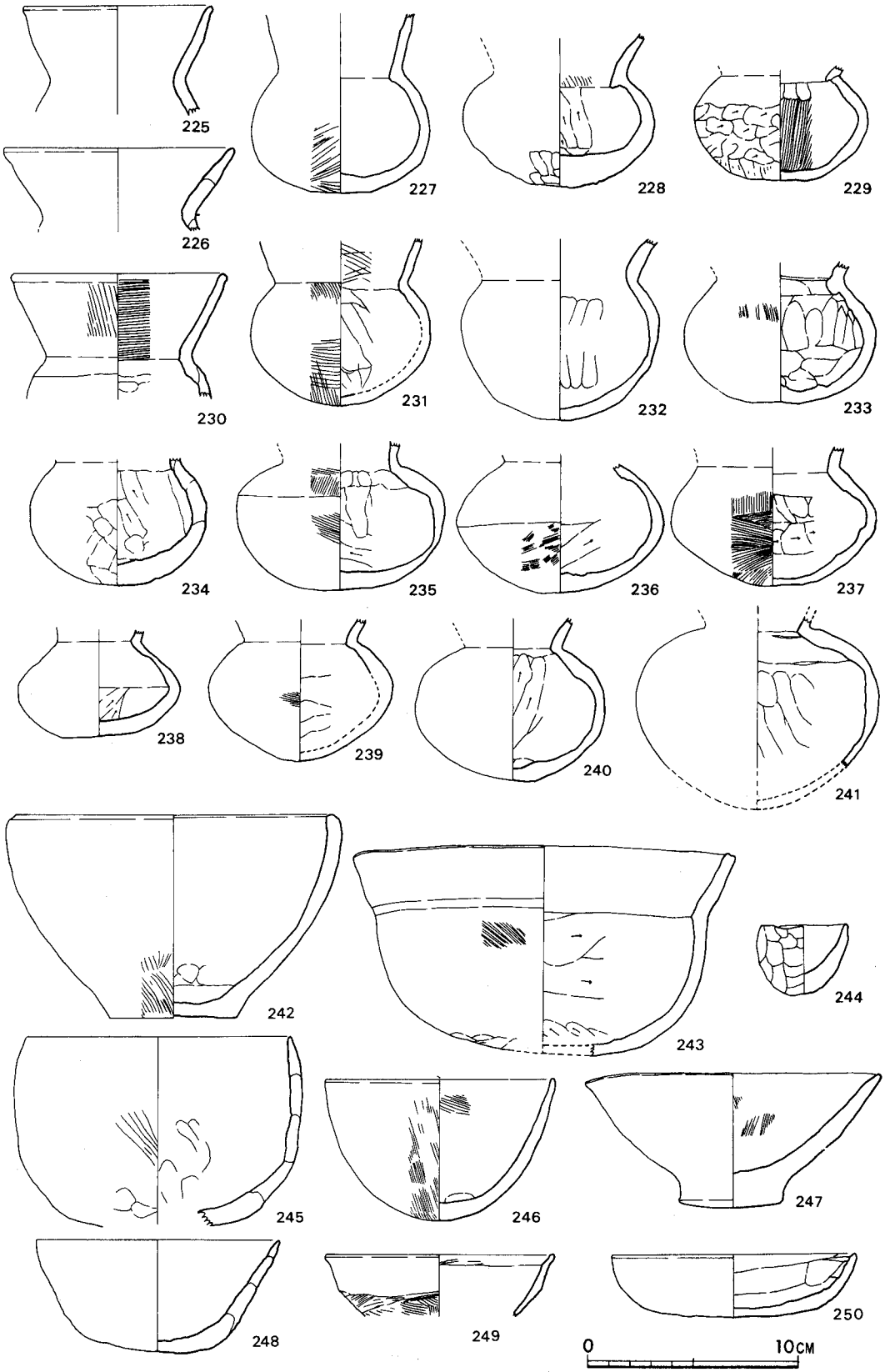
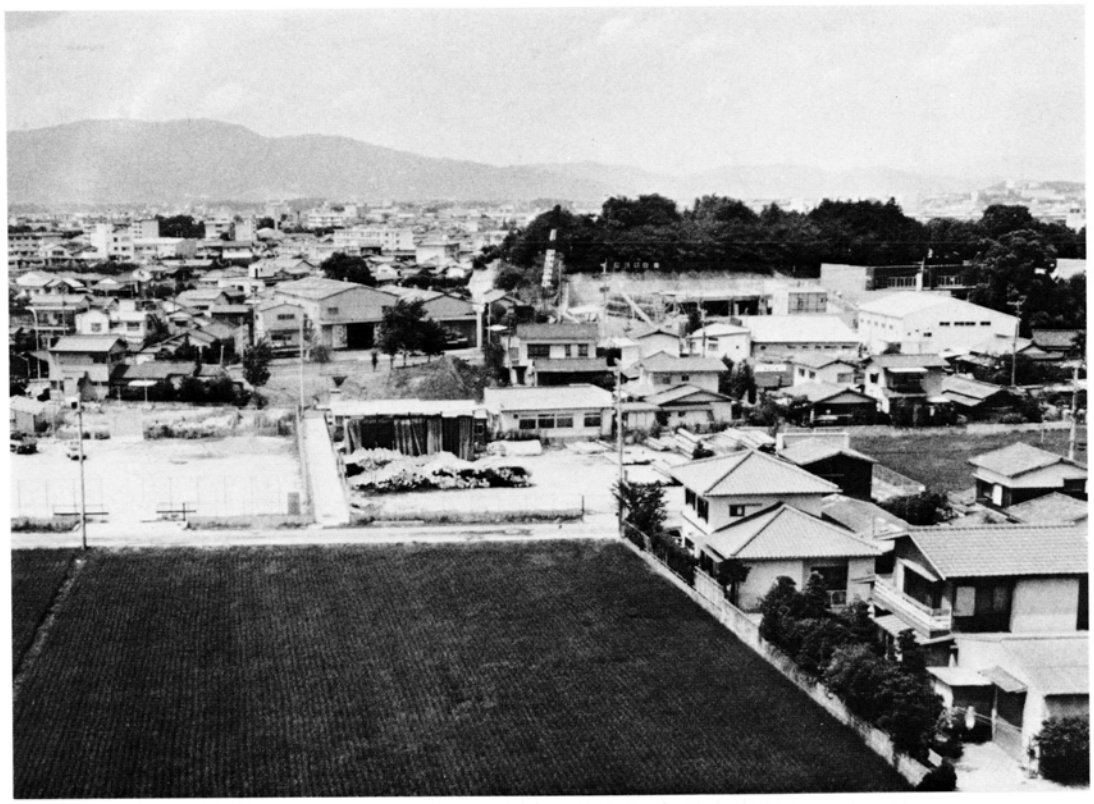


Fig. 56 ＳＤ−01出土土師器実測図⑯

PLATES

1．E－5・6地点全景（調査前　東から）

2．E－5・6地点全景（調査中　西から）



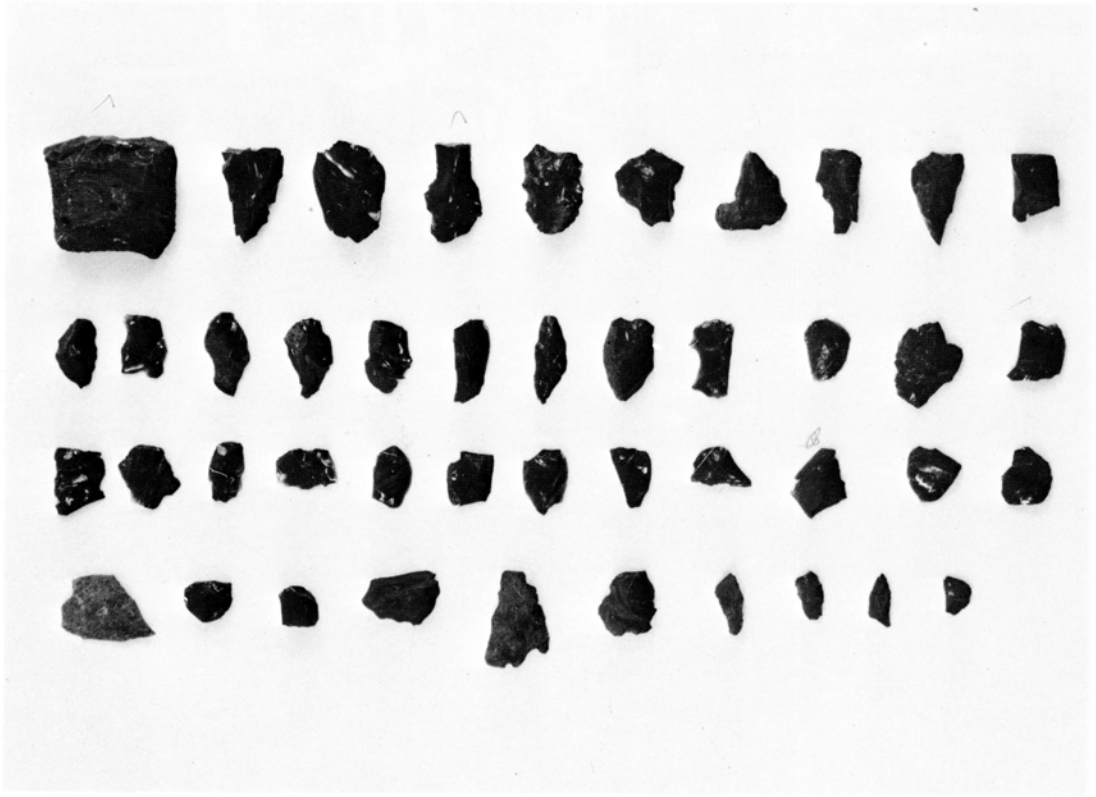
1．諸岡G区遠景(東から)

2．諸岡G区全景(調査前)

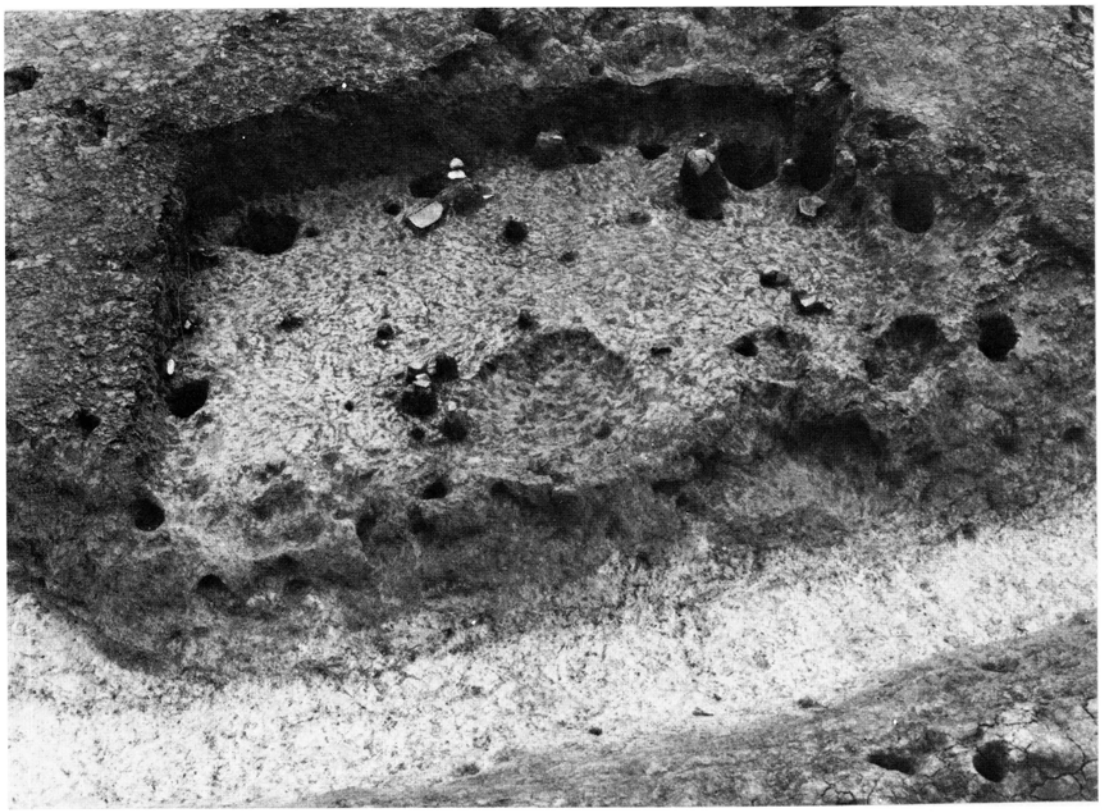
1．諸岡G区遺構全景(東から)

2．諸岡G区遺全景(東南から)

1．先土器時代調査区全景

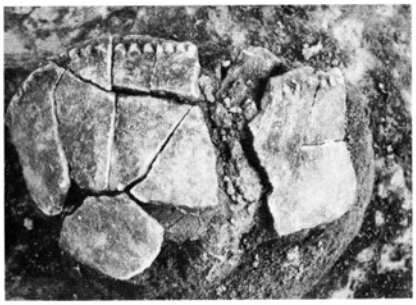


2．諸岡G区出土細石核・剝片類

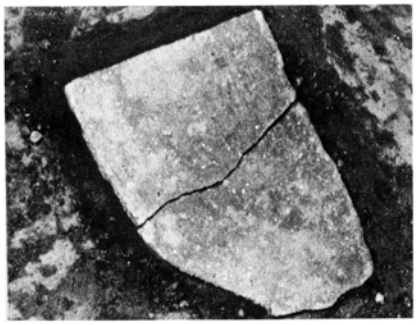


1．SC－01（住居址）出土状況

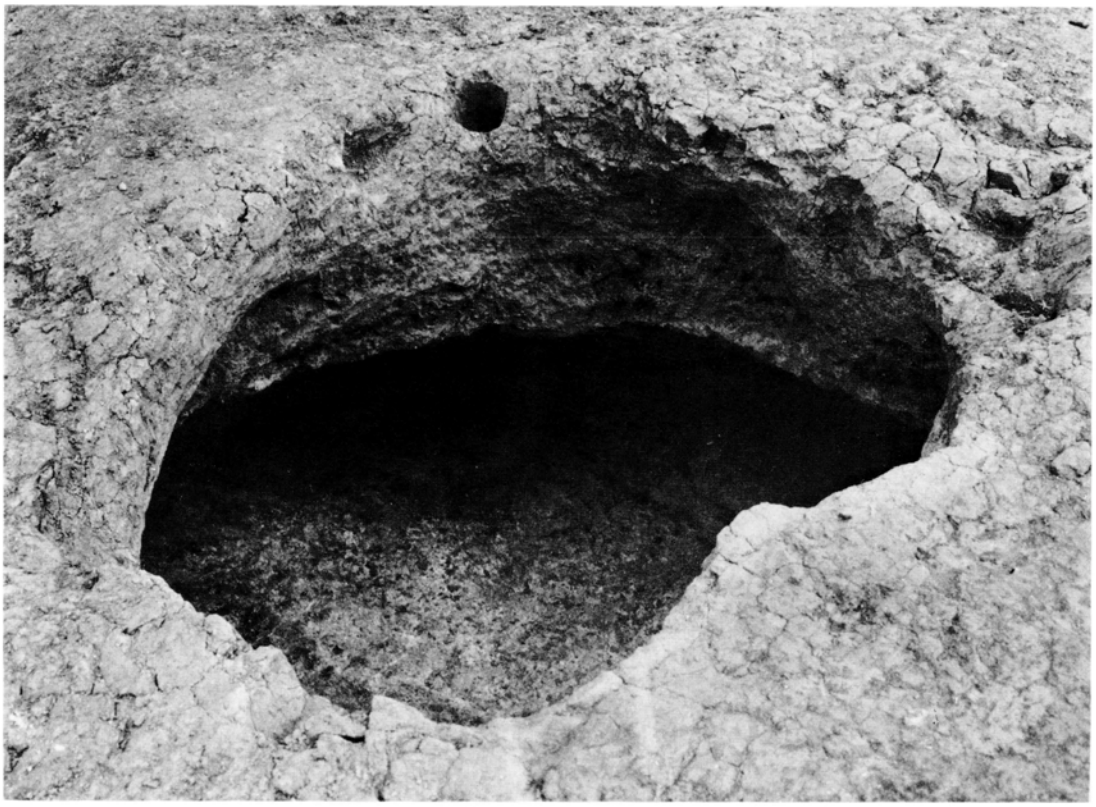
2．遺物出土状況(西壁)



3．P－16 出土状況

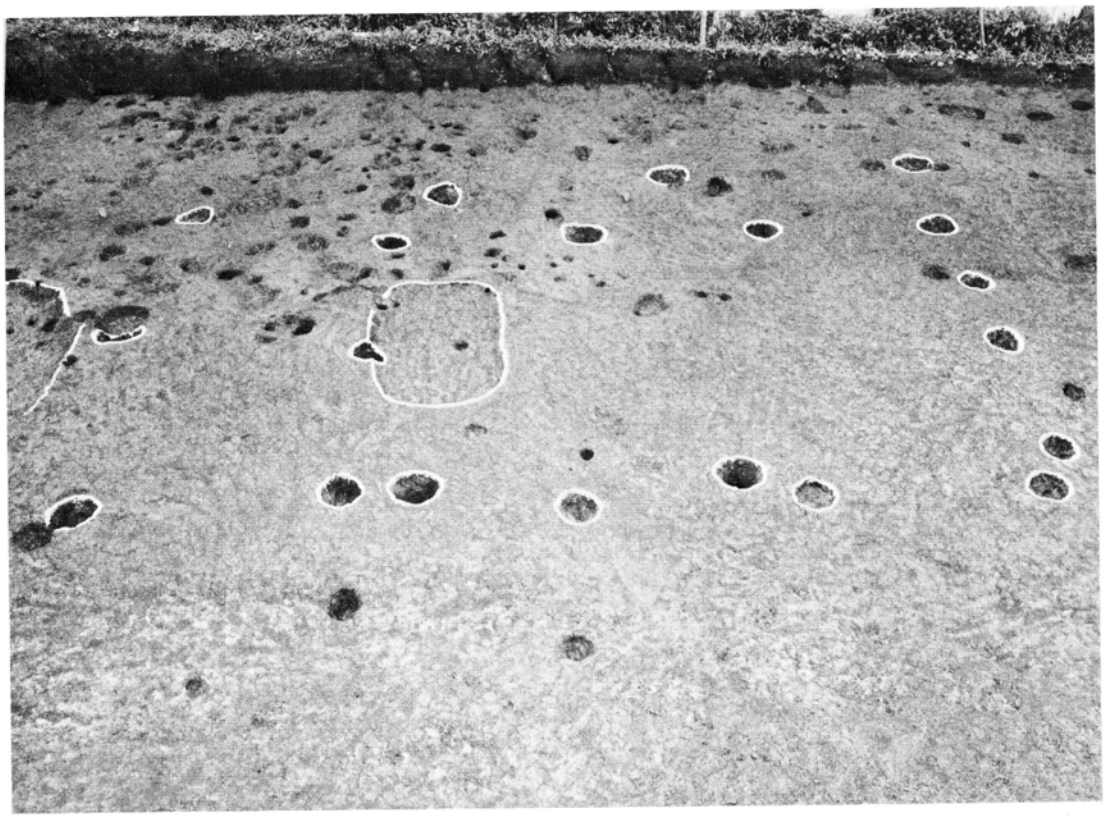


4．P－6 出土状況



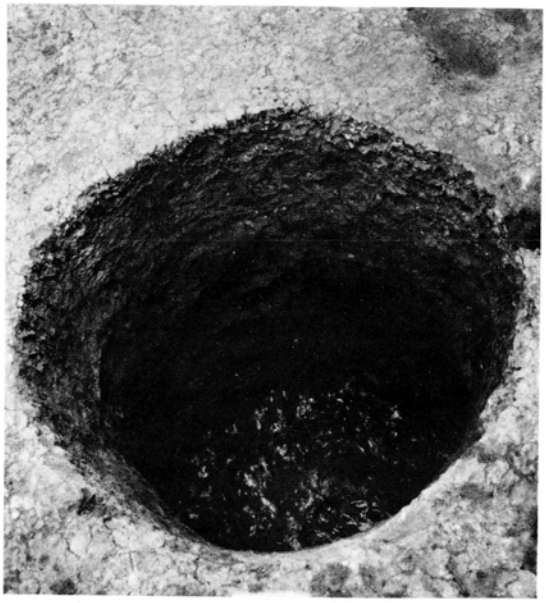
1．SP－01（貯蔵穴）出土状況

2．SB－01･02（掘立柱建物）出土状況（南から）



1．SB01･02，SK－02･03 出土状況(西から)

2．SB－01･02とSD－01 (溝)出土状況(南から)



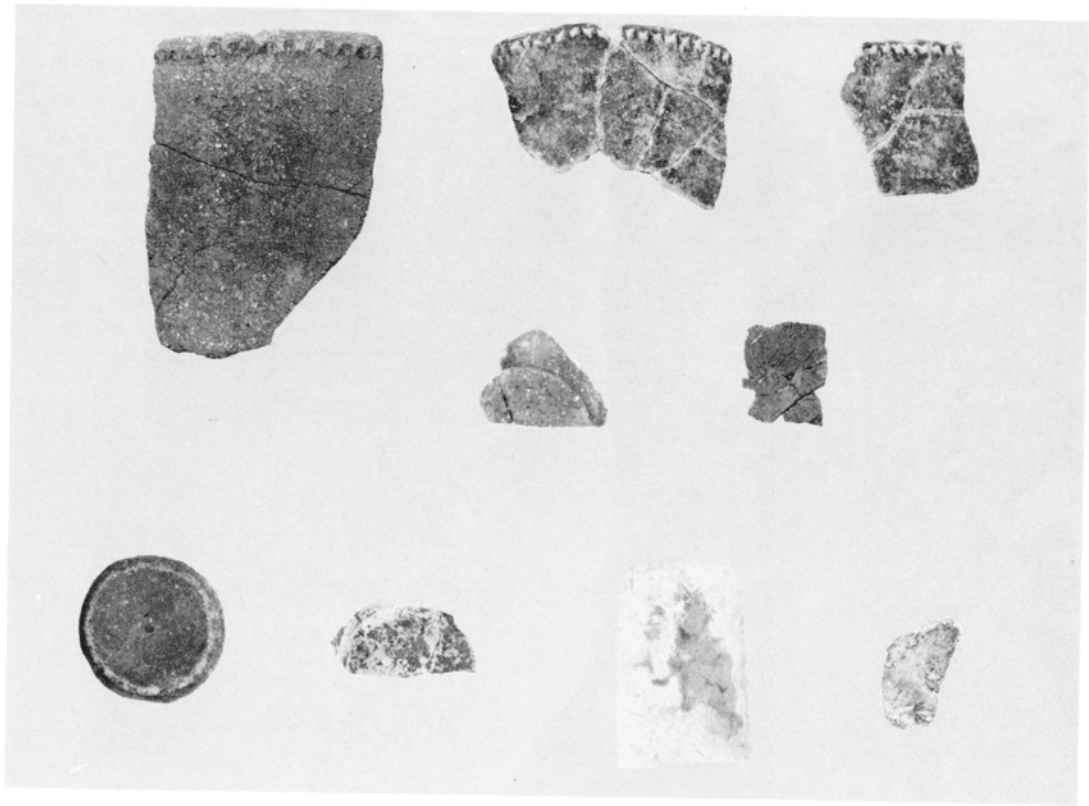
1．SE－01 出土状況

2．SE－02 出土状況

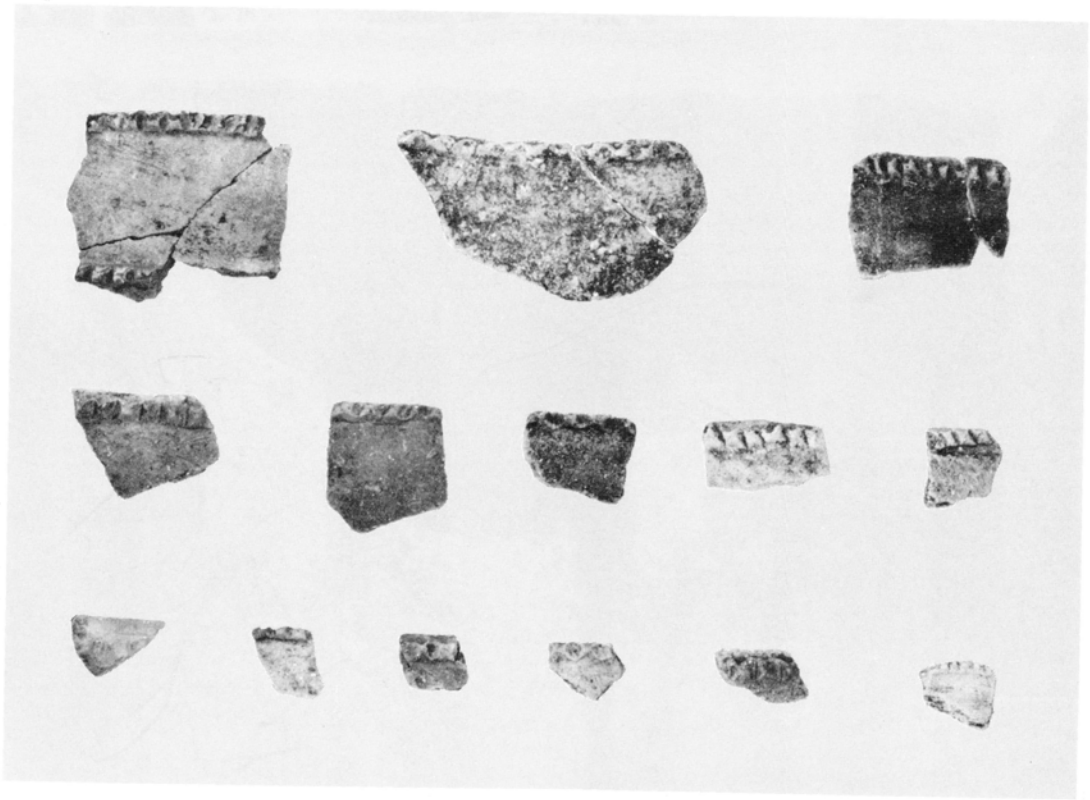
3．SK－05（土坑墓）出土状況（東から）

1．SD－02（溝）出土状況（東から）

2．SD－02　西壁土層断面

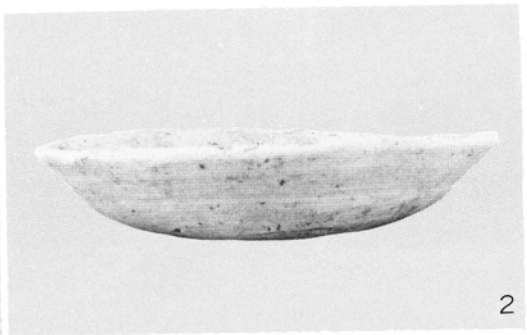


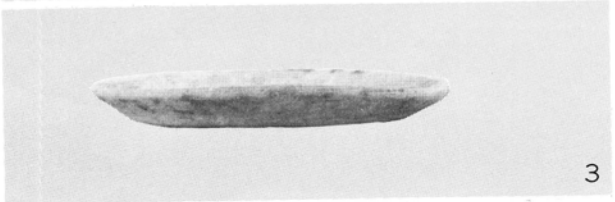
1．SC－01（住居址）出土遺物

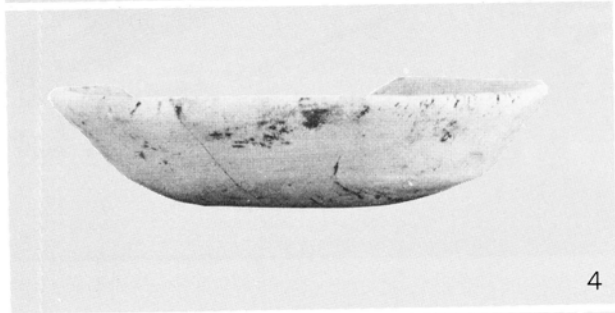


2．SP－01（貯蔵穴）出土甕類

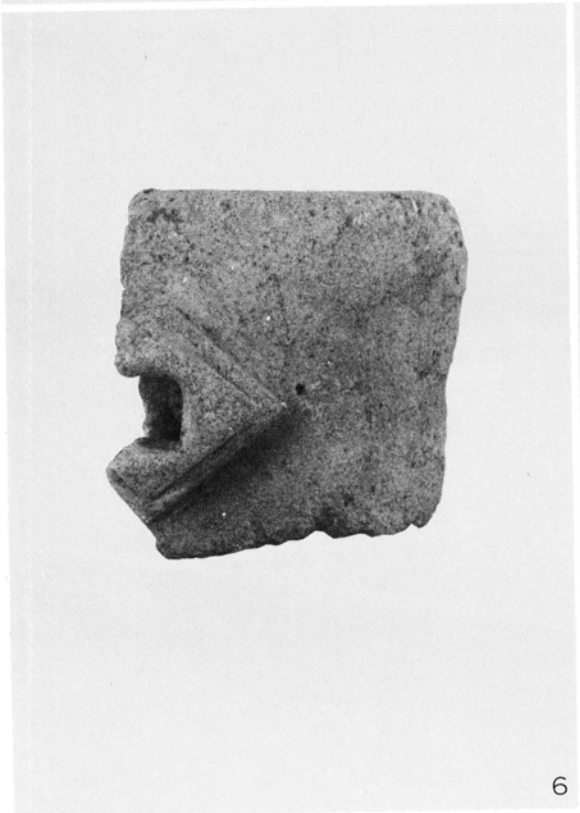
1


2


3

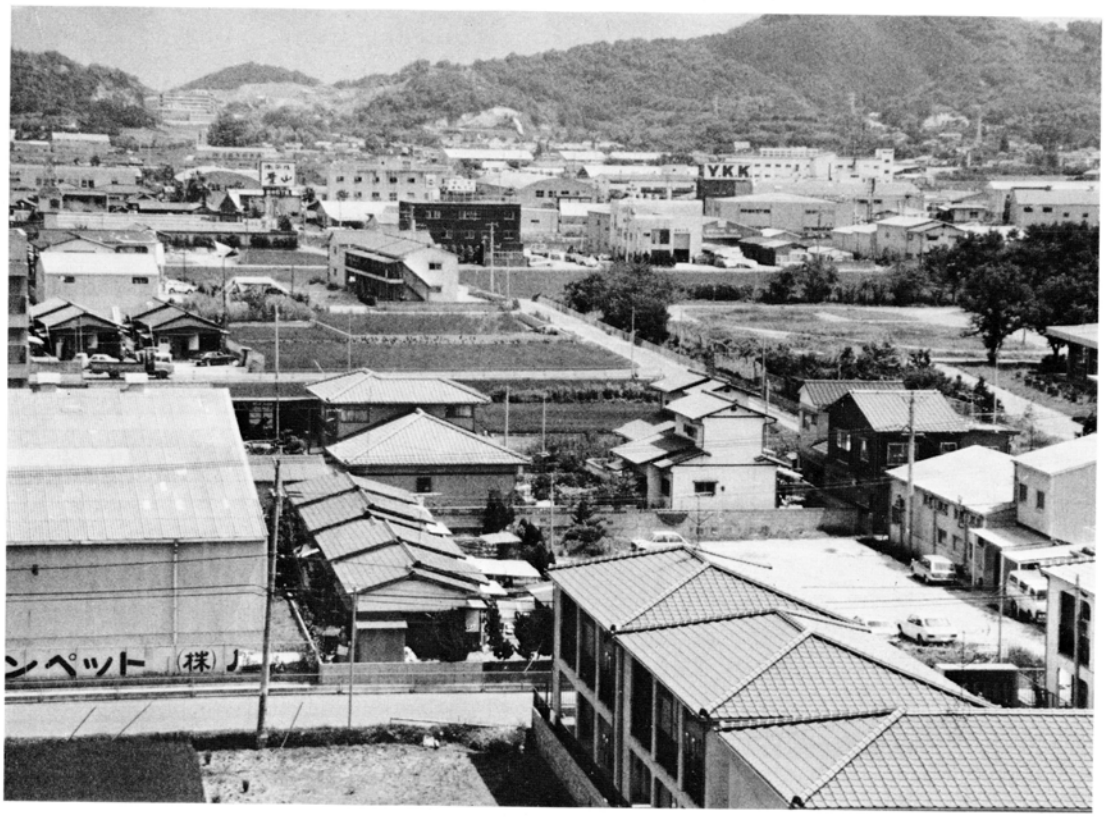

4

5


6

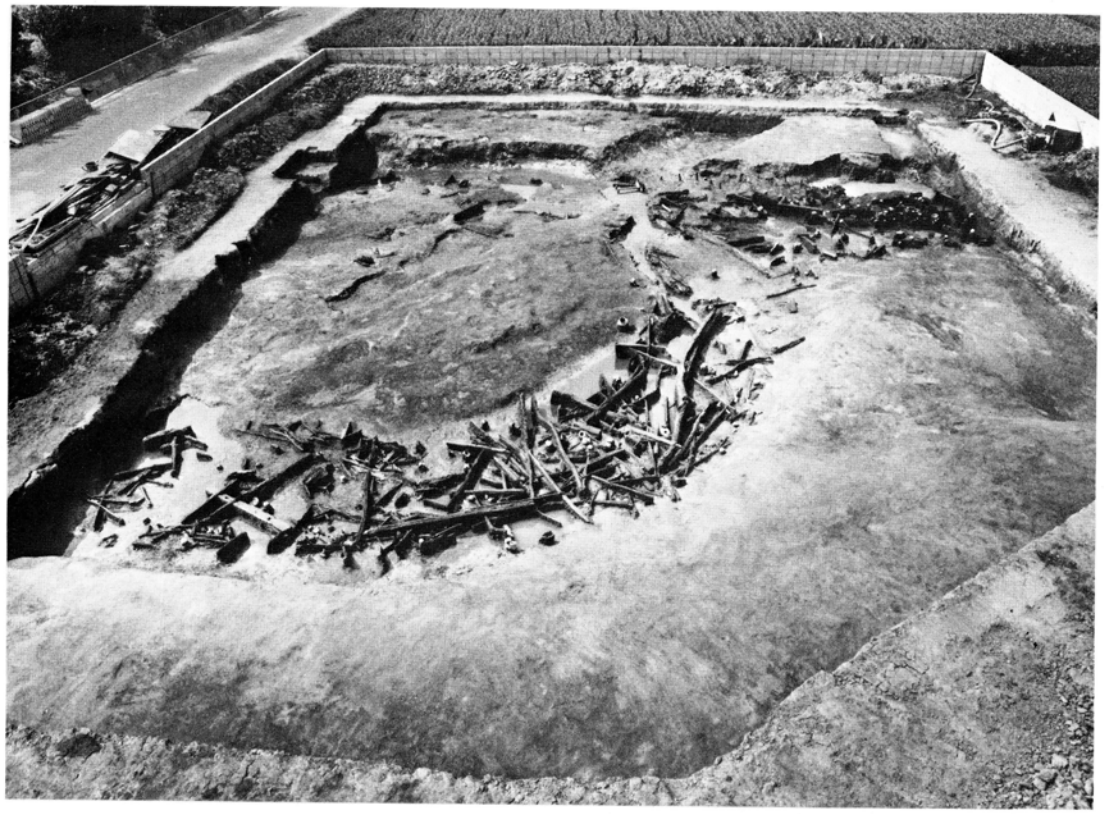
7

諸岡G区出土遺物（1・2－SD－05，3・4－SE－02，5－表採，6・7－SD－02）



1．D－10a 地点遠景　（西から）

2．D－10a 地点全景(東南から)



1．D－10a 地点遺構全景(東から)

2．D－10a 地点遺構全景(調査終了時)

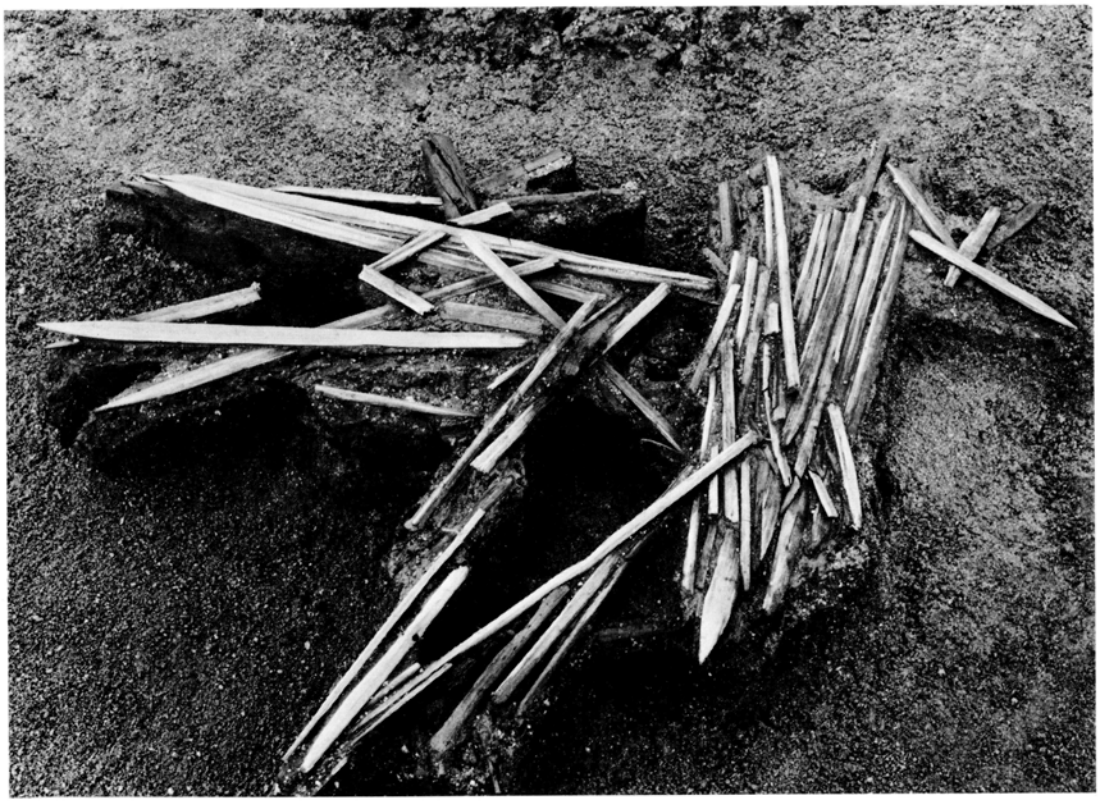
1．D－10a 地点遺構全景（調査終了時）

2．SD－01（溝）北隅遺物出土状況（北から）

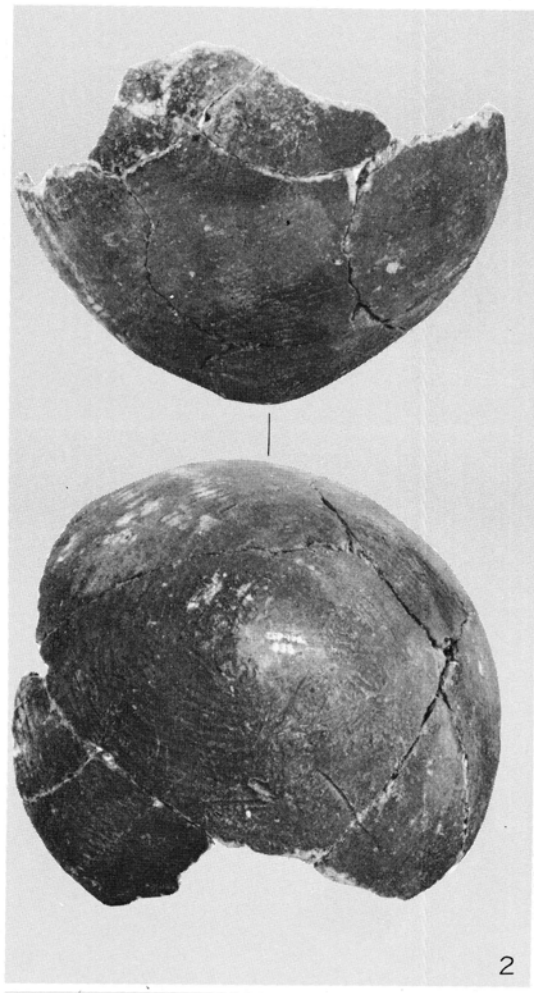
1．SD－01　南側遺物出土状況(南から)

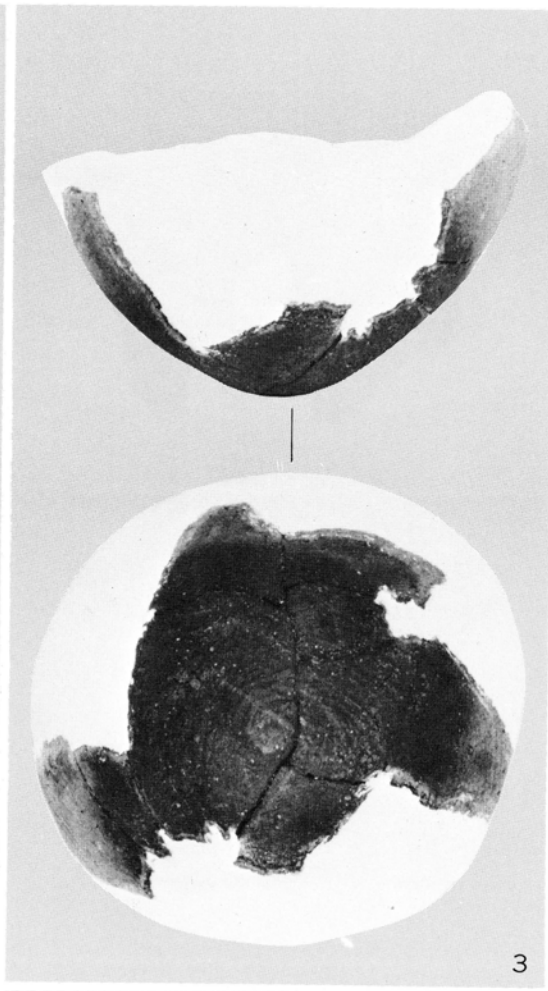
2．SD－01　南側遺物出土状況(竪杵など)

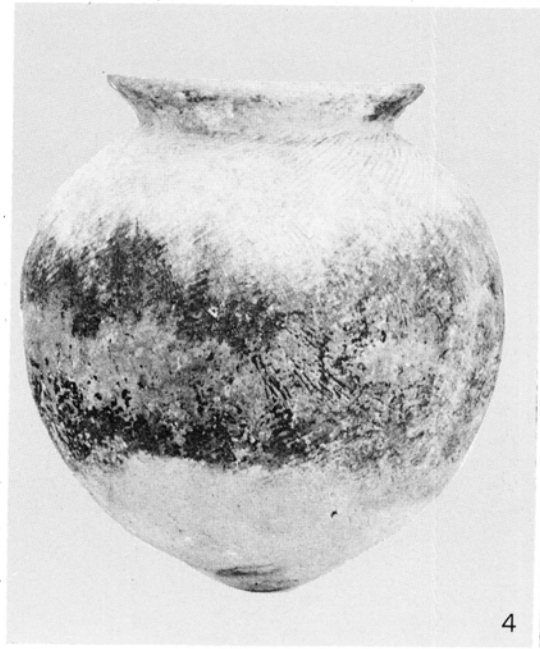
1．二又鍬出土状況（SD－01 北隅）

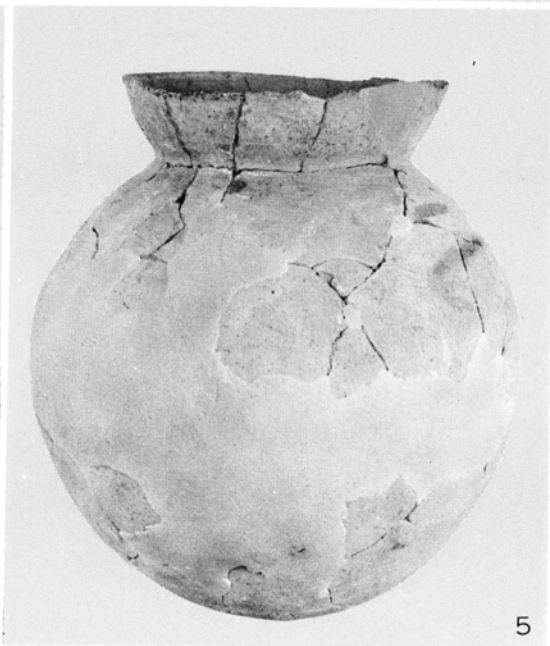


2．斎串状木製品出土状況（SD－01 南側）

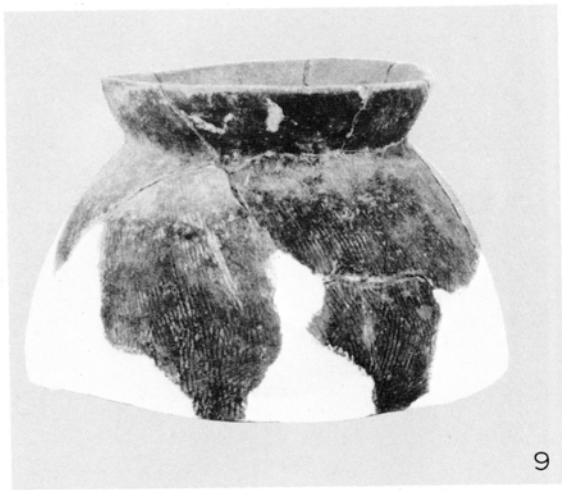


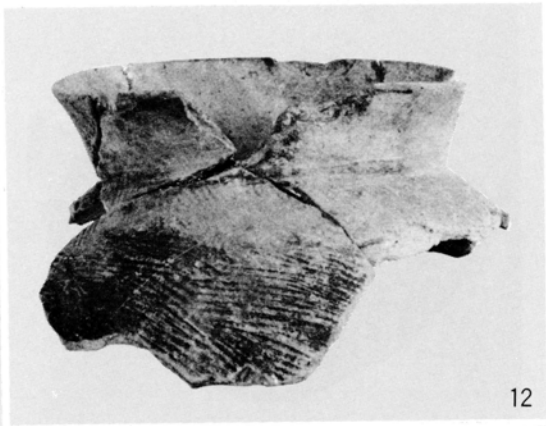


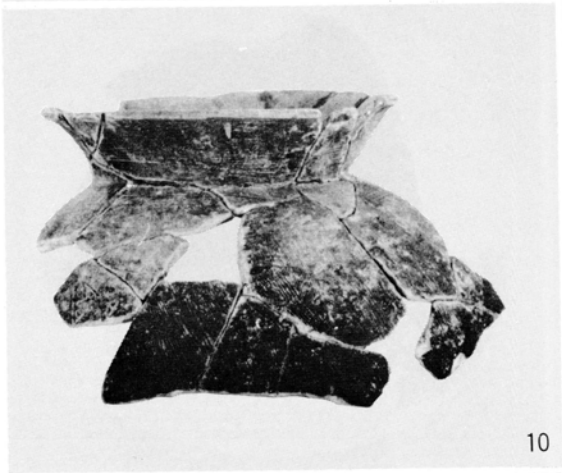




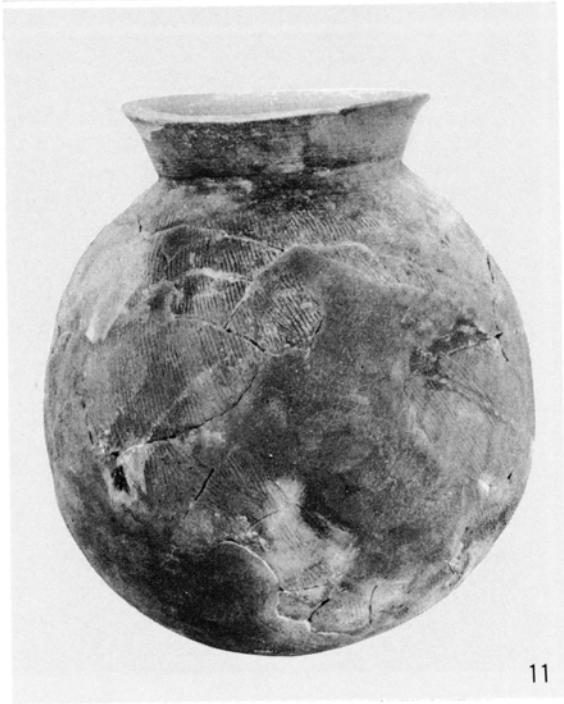
SD－01　出土土師器　①


9


12

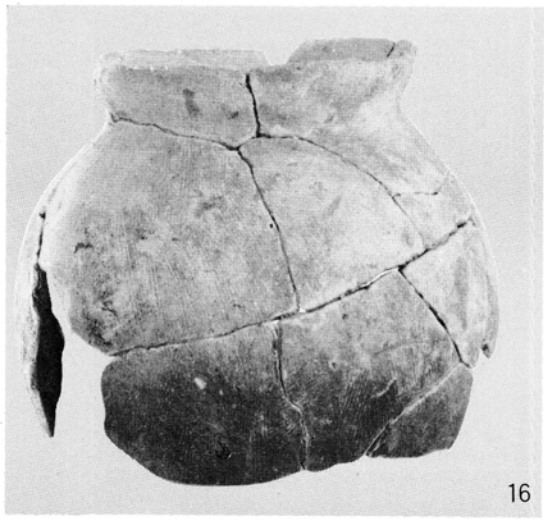

10

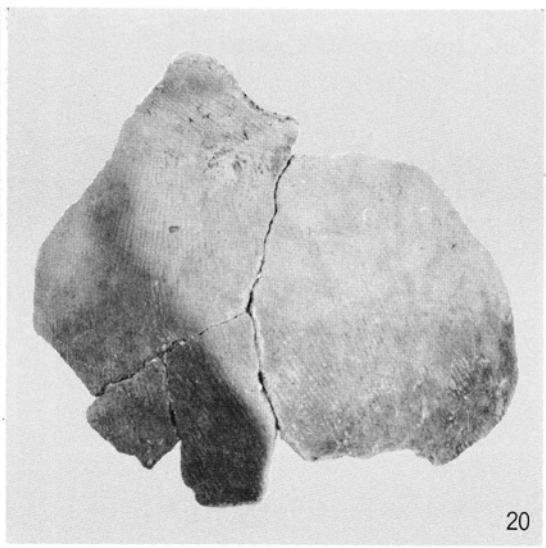
13

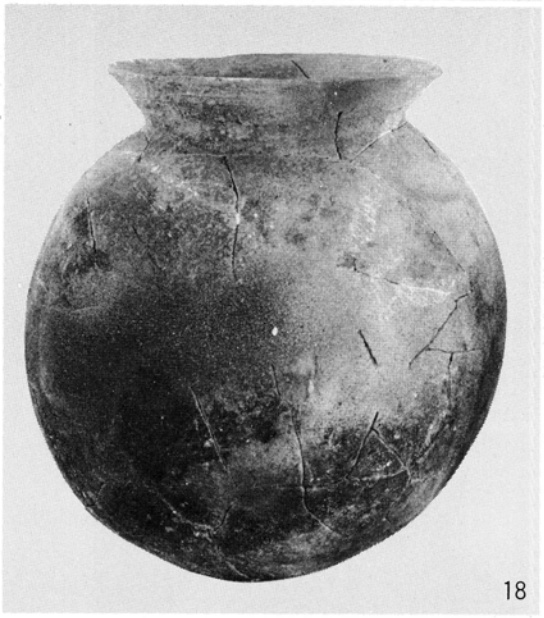

11

15

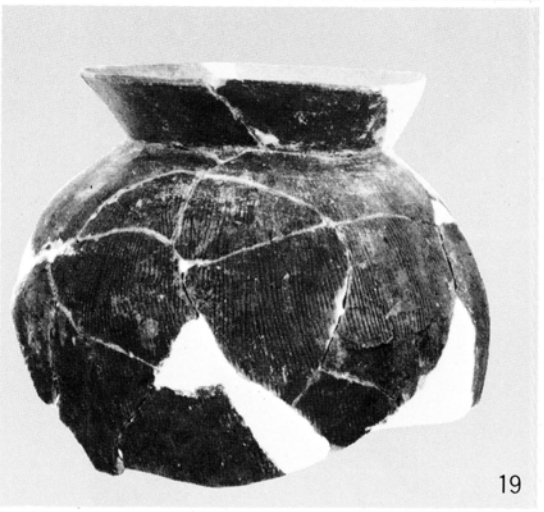
SD－01　出土土師器 ②


16


20


18

21


19

26

SD－01　出土土師器　③

27

28

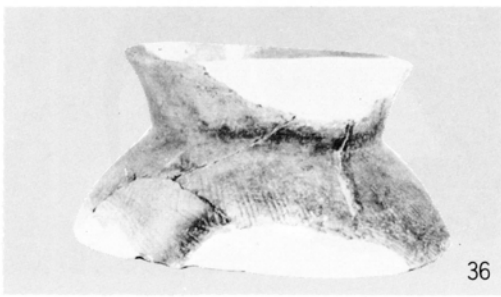
30

29

33

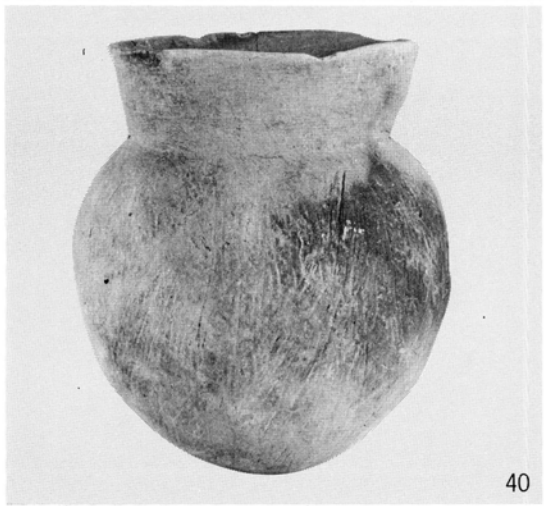
34

38

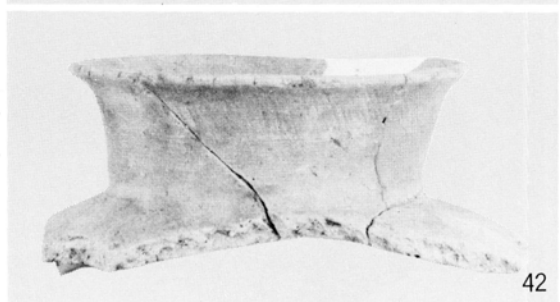

36

SD－01 出土土師器 ④

39


40

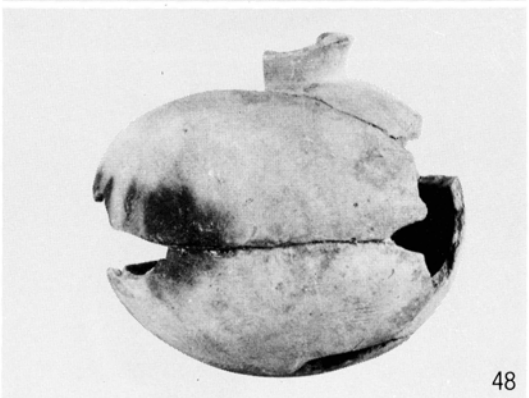
41


42

46

45

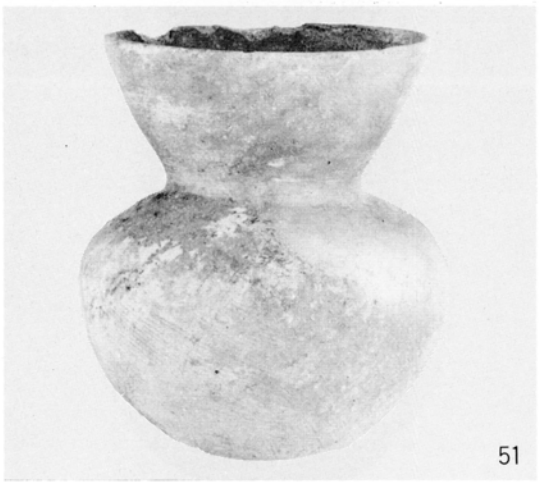
47


48

SD－01　出土土師器　⑤

49

50


51

52

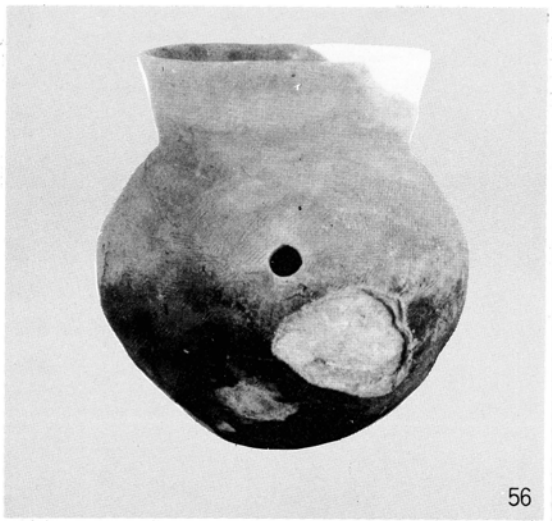
53

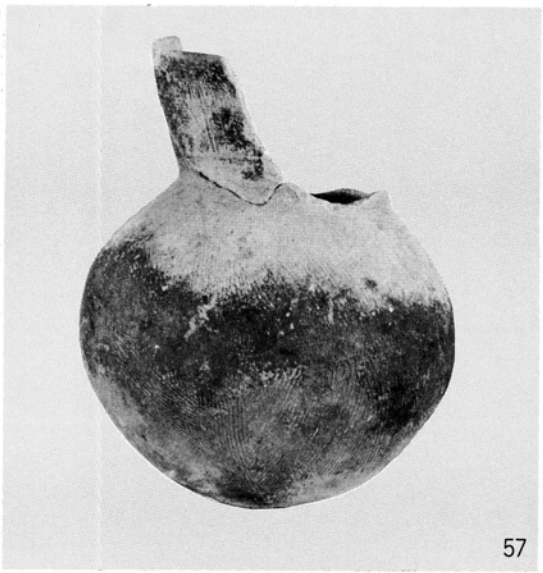
54

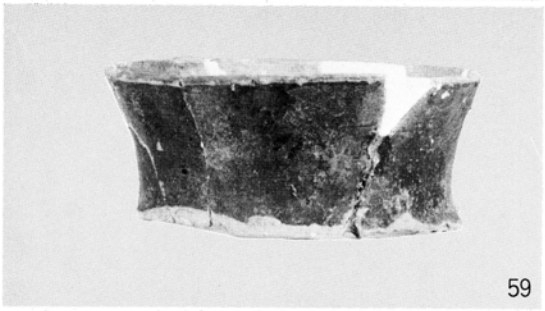
55

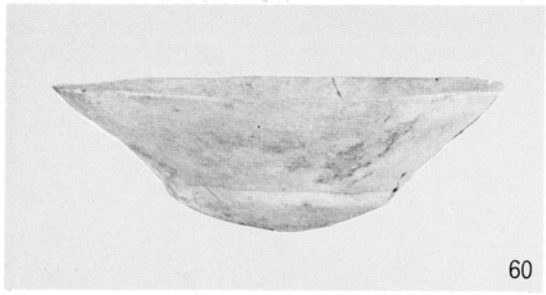
58

SD－01 出土土師器 ⑥


56


57


59


60

61

62

66

SD－01　出土土師器 ⑦

63

67

64

68

65

69

70

71

SD－01　出土土師器　⑧

72

73

74

75

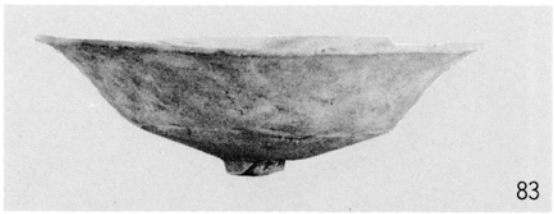
76

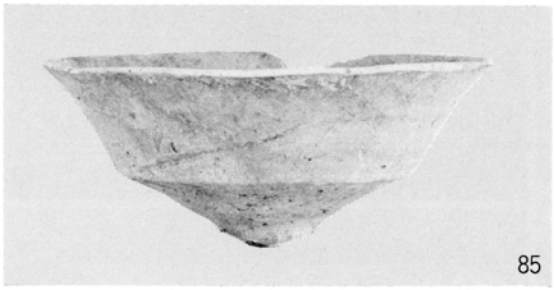
77

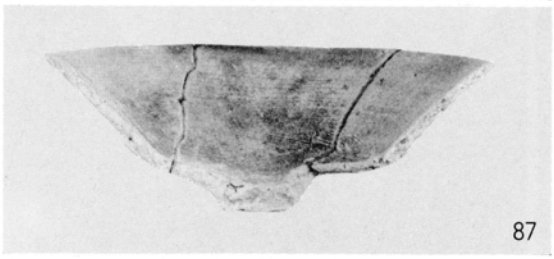
79

80

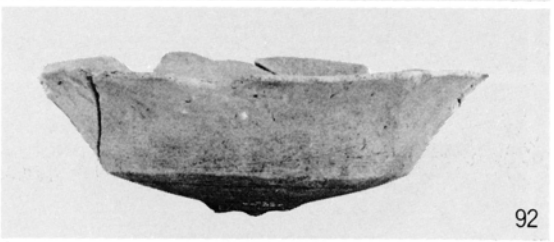
SD－01 出土土師器 ⑨

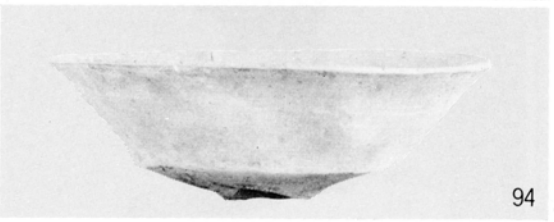

83

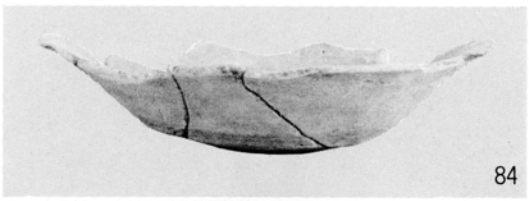

85

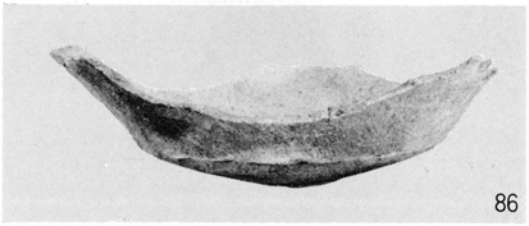

87

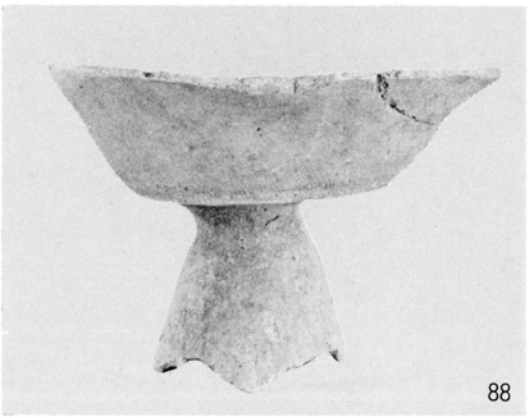
90

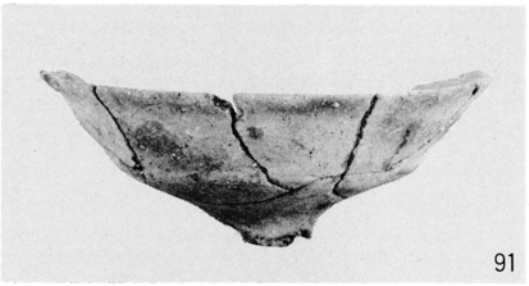

92

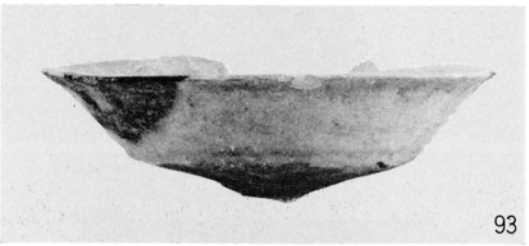

94


84


86

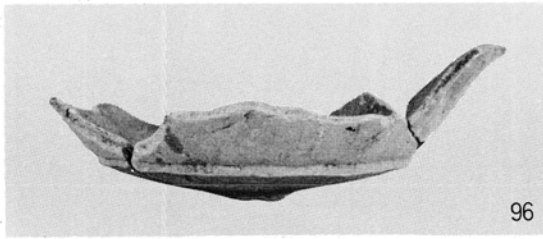

88

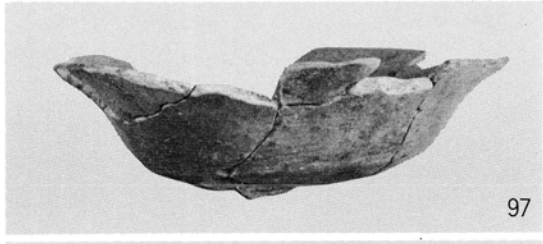

91

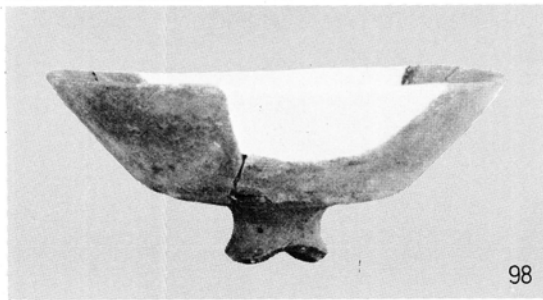

93

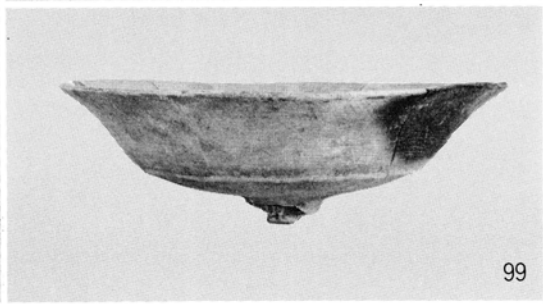
95

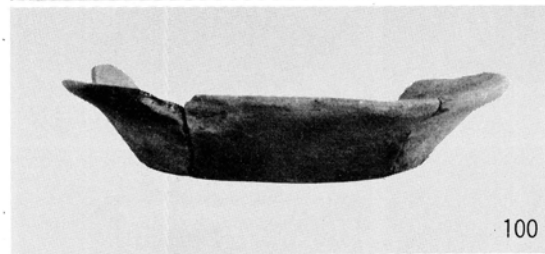
SD－01　出土土師器 ⑩

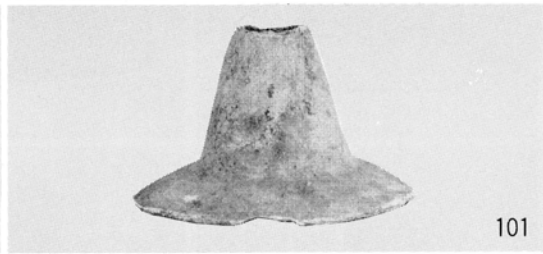

96

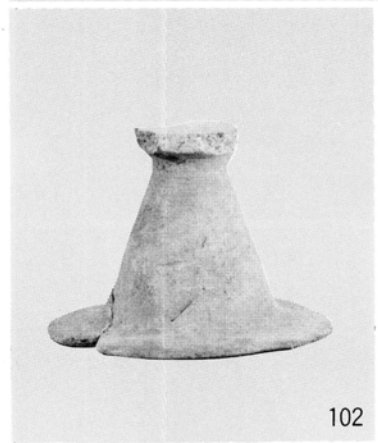

97


98

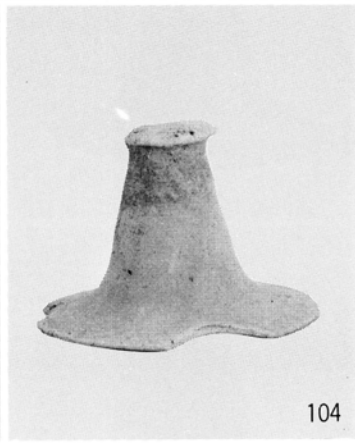

99


100

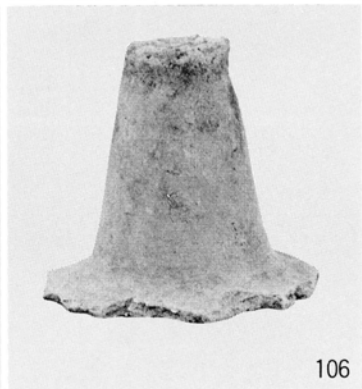

101

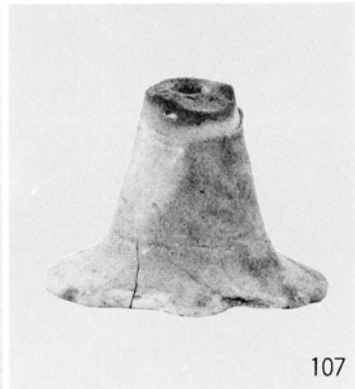

102

103

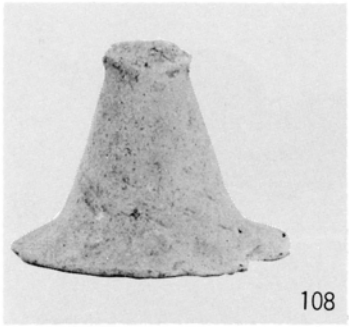

104

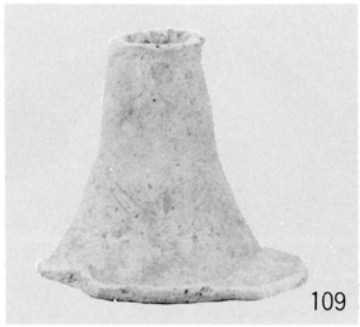
105

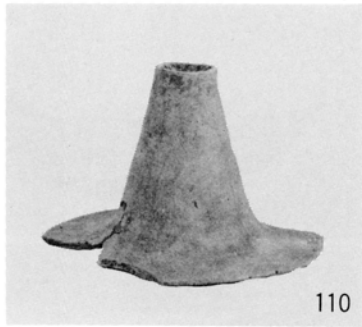

106


107

SD－01　出土土師器 ⑪


108


109

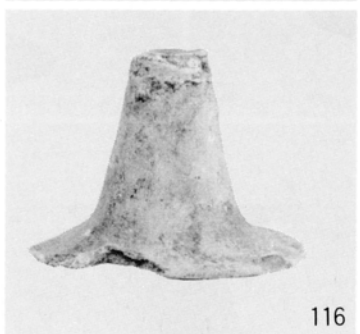

110

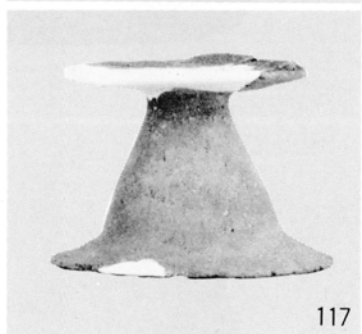
111

113

114

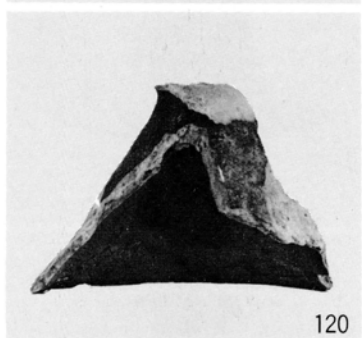
115

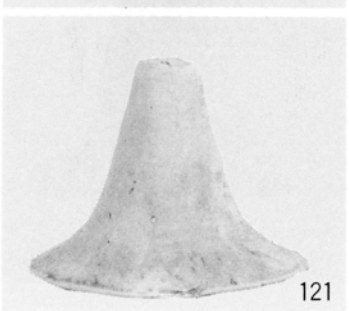

116

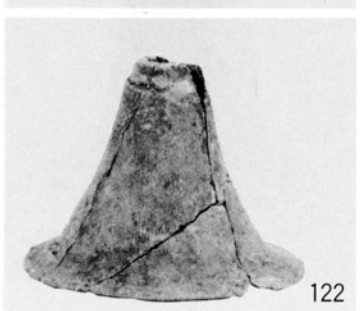

117

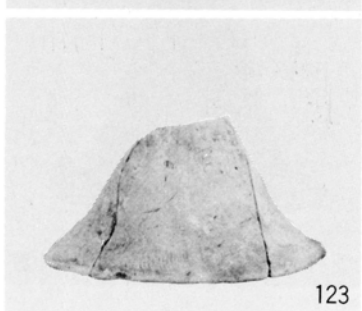
118

119


120

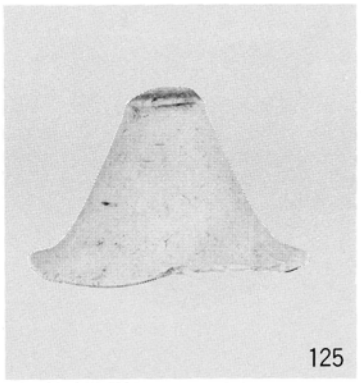

121


122

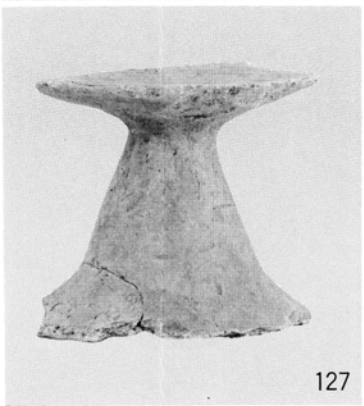

123

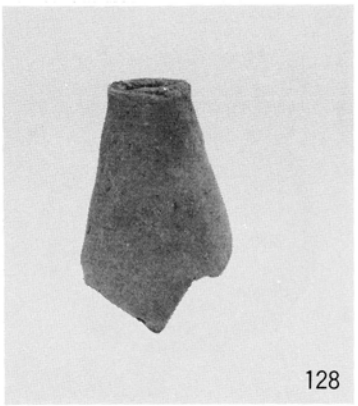
SD－01　出土土師器 ⑫

124

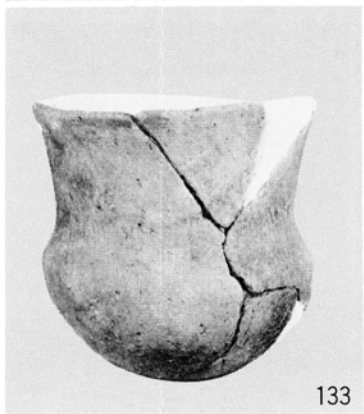

125

126


127


128

129


133

134

135

136

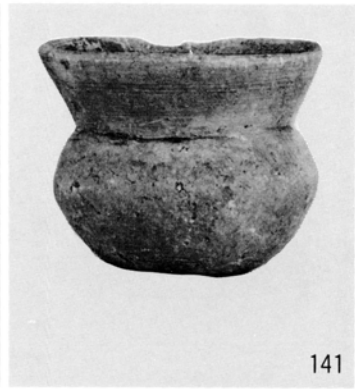
137

138

SD－01　出土土師器　⑬

139

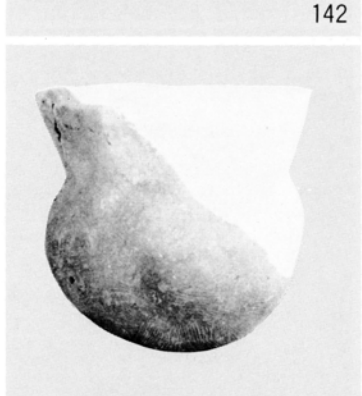
140


141

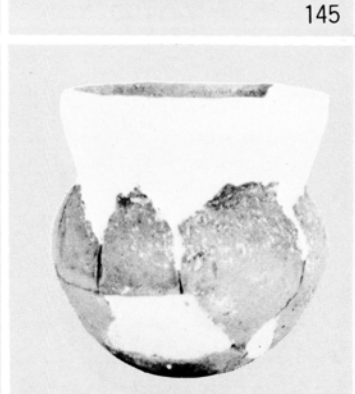
142

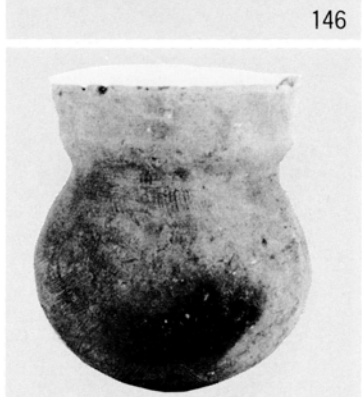
144

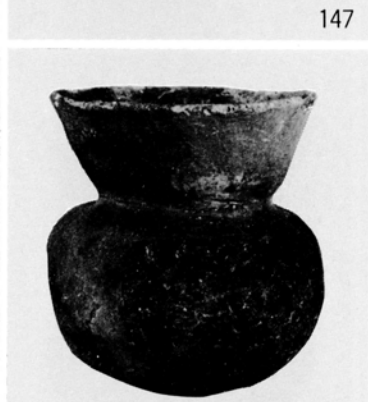
145

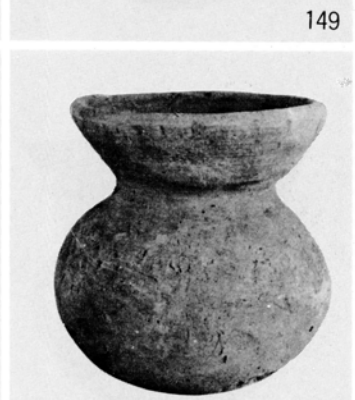

146

147

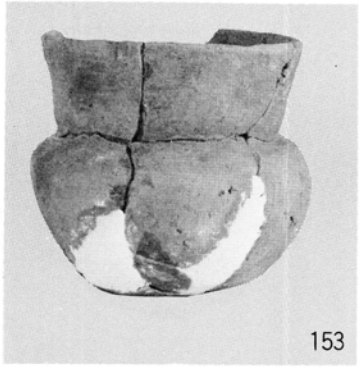

149


150


151


152

SD－01　出土土師器 ⑭


153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

SD－01　出土土師器 ⑮

165

166

167

168

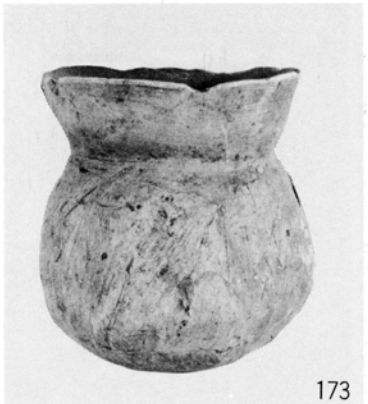
168

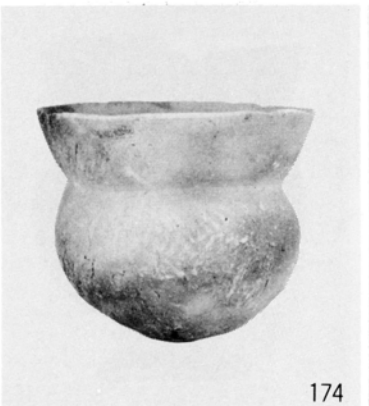
169

170

171

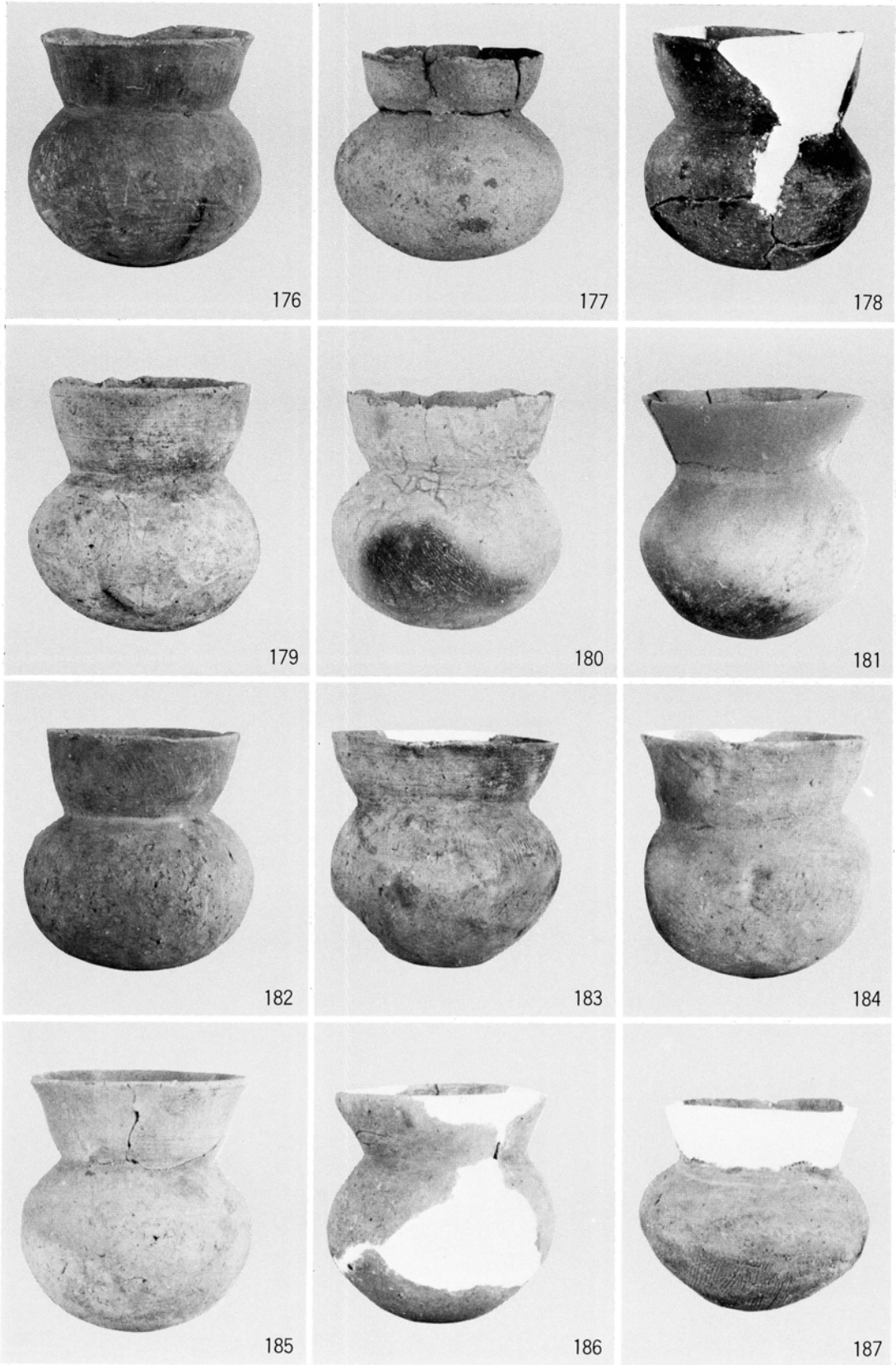
172


173

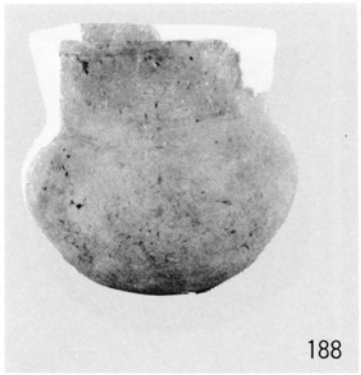

174

175

SD－01 出土土師器 ⑯



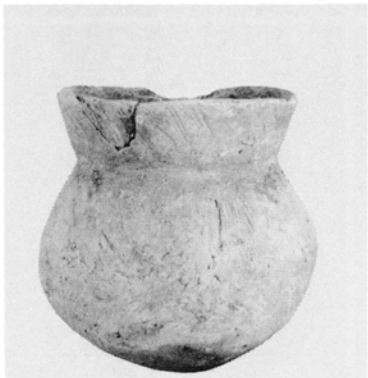
SD－01 出土土師器 ⑰


188

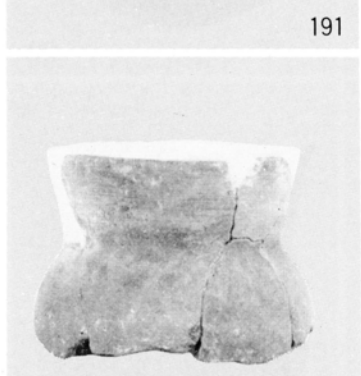
189

190

191

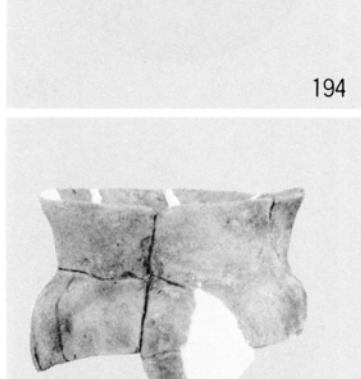

192

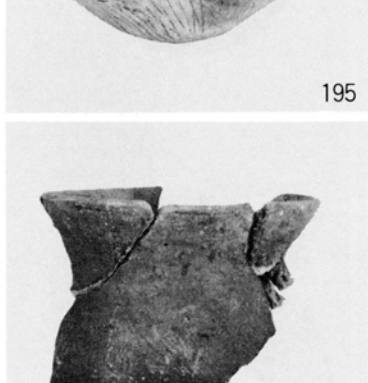
193


194

195

196

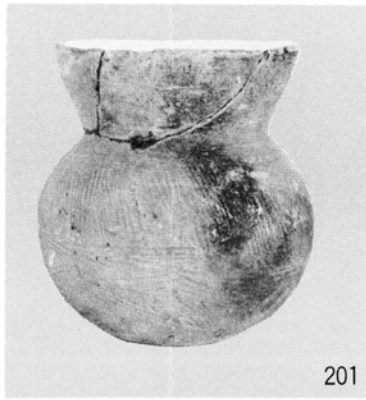

197


198

199

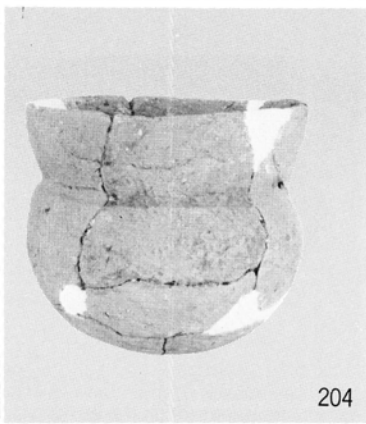
SD－01　出土土師器　⑱

200

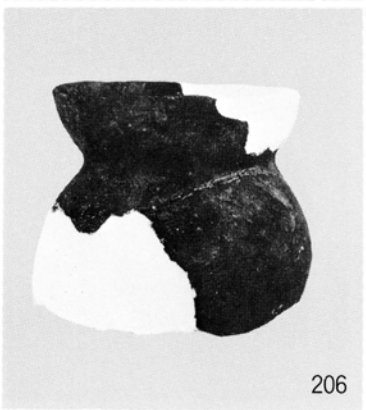

201

202

203


204

205


206

207

208

209

210

212

SD－01 出土土師器 ⑲

213

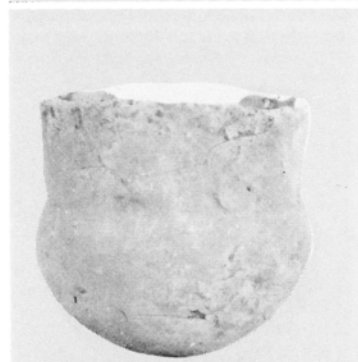
214

215

216

217

218

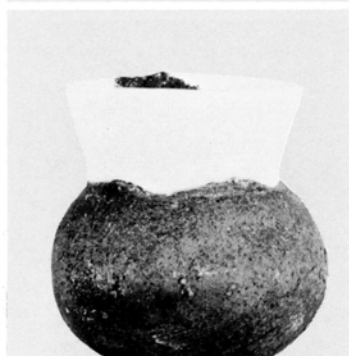

220

221

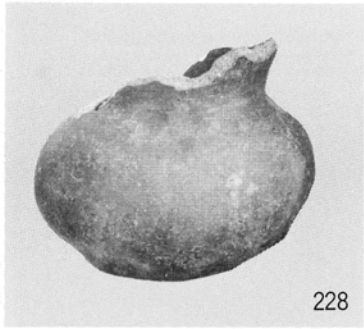
222

223

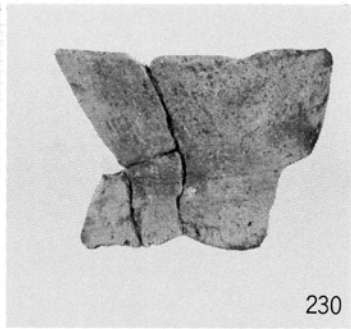
224


227

SD－01　出土土師器　⑳


228

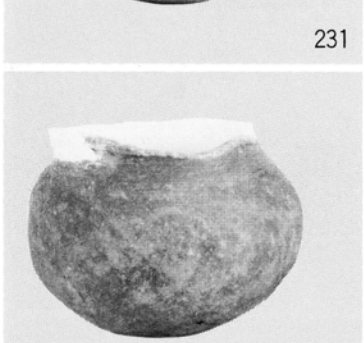
229

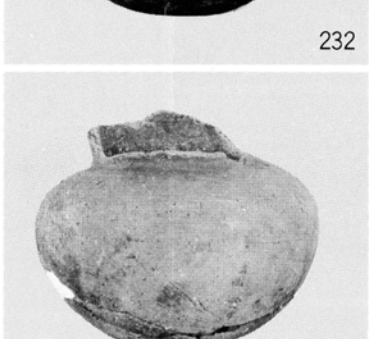

230

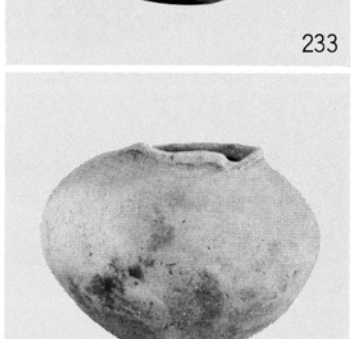
231

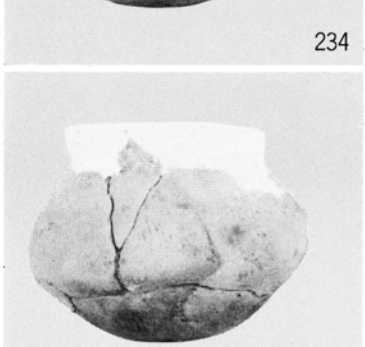
232

233


234

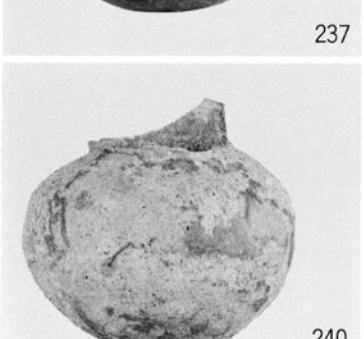

235

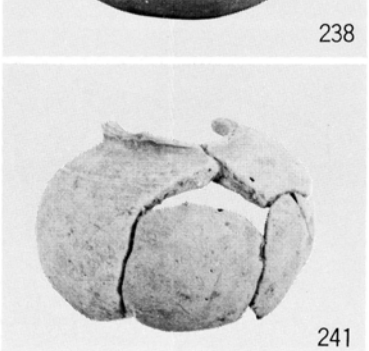

236


237

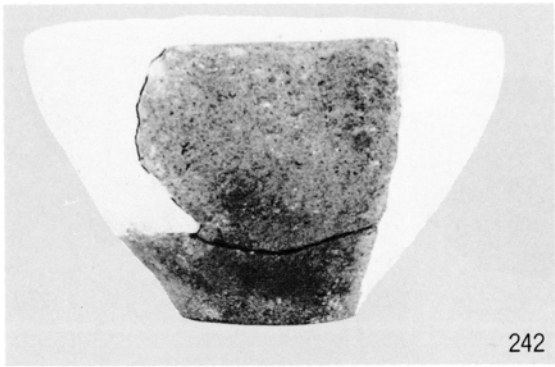
238

239


240


241

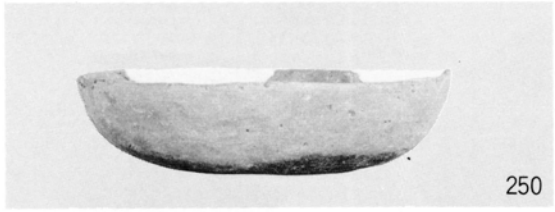
SD－01　出土土師器 ㉑

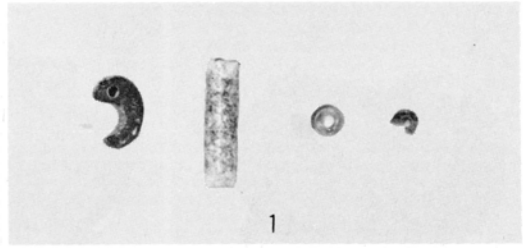

242

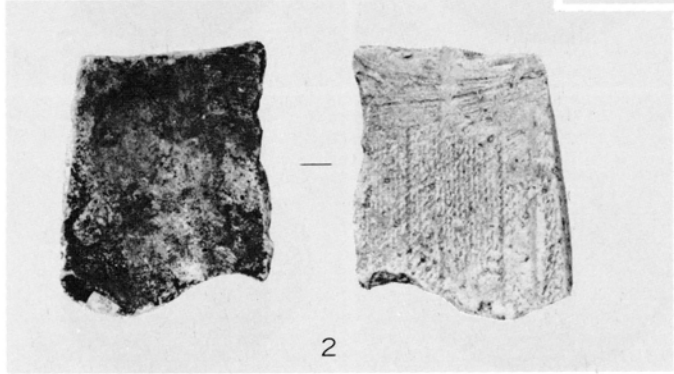
243

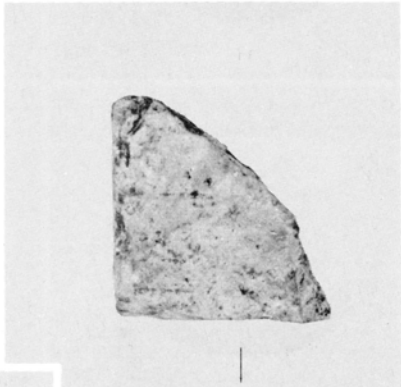
246

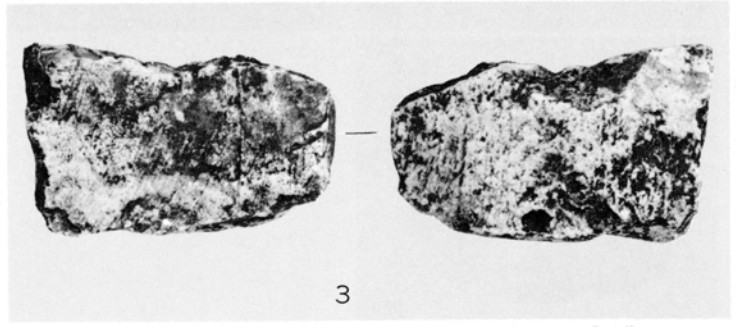
247

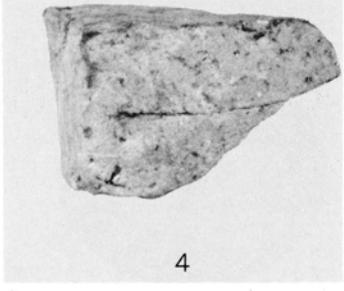

250


1


2




3


4

SD－01　出土土師器 ㉒，1－SD－01　出土，2・3・4－SK－01

Fig. 6 諸岡G区遺構全体図 (1/100)

Fig. 4 諸岡遺跡調査遺構図（1972～79年，1/1000）

Fig. 32 ＳＤ−01土師器出土状況図（1/80）

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第57集
坂付周辺遺跡調査報告書（6）
1980年３月31日
編集・発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8の1
印　　刷　福博綜合印刷株式会社

板付周辺遺跡調査報告書 (6)

福岡市埋蔵文化財調査報告書第57集

1980

福岡市教育委員会